

---

十和田市  
子どもの貧困対策推進計画策定調査業務  
調査報告書

---

令和4年2月

株式会社東京商工リサーチ



# 目次

<b>I 調査概要</b> .....	1
1. 調査目的 .....	1
2. 調査方法 .....	1
3. 調査期間 .....	1
4. 調査実施機関 .....	1
5. 回収結果 .....	1
6. 本調査における「生活困難度」の取扱いについて .....	2
7. 調査報告書の読み方及び注意事項 .....	3
<b>II 調査結果のまとめ・考察</b> .....	4
1. 保護者調査結果のまとめ .....	4
2. 子ども調査結果のまとめ .....	7
3. 全体のまとめ .....	9
<b>III アンケート調査結果(保護者調査)</b> .....	10
<b>IV アンケート調査結果(子ども調査)</b> .....	62

# I 調査概要

---

## 1. 調査目的

本業務は、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」や新たに閣議決定された「子供の貧困対策に関する大綱」を踏まえ、子どもの貧困対策を推進するため、十和田市の子どもの貧困に関する実態や支援ニーズを把握し、子どもの貧困対策を推進するために取り組むべき課題や施策の方向性を定める「子どもの貧困対策推進計画」の策定の基礎データを得るためにアンケートを実施した。

## 2. 調査方法

以下の調査対象に市内の学校経由でアンケートを配付し、郵送により回収を行った。

保護者調査	小学5年生、中学2年生の子どもがいる保護者世帯(各学齢500世帯)
子ども調査	子ども本人(小学5年生、中学2年生各500名)

## 3. 調査期間

2021年10月15日～11月30日

## 4. 調査実施機関

株式会社東京商工リサーチ

## 5. 回収結果

それぞれの調査における回収件数・回収率は以下のとおり。

保護者調査	627件(回収率:62.7%)
子ども調査	598件(回収率:59.8%)

## 6. 本調査における「生活困難度」の取扱いについて

本調査では、青森県の先行調査を参考に、所得の状況だけでなく、家計の逼迫、子どもの体験や所有物の欠如について着目し、それらの回答状況を用いて子どものいる家庭の「生活困難度」を以下のとおり分類した。

分類の結果、①～③の3つのうち2つ以上該当となっていれば「困窮家庭」、1つだけ該当となっている場合は「周辺家庭」、当てはまらない場合は「一般家庭」と定義した。

<p>①低所得</p>	<p>(1) 保護者調査問 18 の選択肢ごとに、可処分所得の中央値を算出。</p> <p>問18</p> <table border="1" data-bbox="600 627 1008 1008"> <thead> <tr> <th>選択肢</th> <th>最小値</th> <th>最大値</th> <th>中央値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>0</td><td>1,199,999</td><td>600,000</td></tr> <tr><td>2</td><td>1,200,000</td><td>1,749,999</td><td>1,475,000</td></tr> <tr><td>3</td><td>1,750,000</td><td>2,099,999</td><td>1,925,000</td></tr> <tr><td>4</td><td>2,100,000</td><td>2,449,999</td><td>2,275,000</td></tr> <tr><td>5</td><td>2,450,000</td><td>2,749,999</td><td>2,600,000</td></tr> <tr><td>6</td><td>2,750,000</td><td>2,999,999</td><td>2,875,000</td></tr> <tr><td>7</td><td>3,000,000</td><td>3,249,999</td><td>3,125,000</td></tr> <tr><td>8</td><td>3,250,000</td><td>3,449,999</td><td>3,350,000</td></tr> <tr><td>9</td><td>3,450,000</td><td>3,649,999</td><td>3,550,000</td></tr> <tr><td>10</td><td>3,650,000</td><td>3,849,999</td><td>3,750,000</td></tr> <tr><td>11</td><td>3,850,000</td><td>3,999,999</td><td>3,925,000</td></tr> <tr><td>12</td><td>4,000,000</td><td>5,499,999</td><td>4,750,000</td></tr> <tr><td>13</td><td>5,500,000</td><td>6,999,999</td><td>6,250,000</td></tr> <tr><td>14</td><td>7,000,000</td><td></td><td>7,000,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(2) (1)で算出した可処分所得と、問 2 の世帯人数の回答をもとに、以下の算式で等価可処分所得を算出。</p> $\text{等価可処分所得} = \frac{\text{可処分所得}}{\sqrt{\text{世帯員数}}}$ <p>(3) 等価可処分所得が「127 万円未満の世帯」とした。 (※厚生労働省「2019 年国民生活基礎調査」において示されている貧困線の基準値である 127 万円を基準として採用した。)</p>	選択肢	最小値	最大値	中央値	1	0	1,199,999	600,000	2	1,200,000	1,749,999	1,475,000	3	1,750,000	2,099,999	1,925,000	4	2,100,000	2,449,999	2,275,000	5	2,450,000	2,749,999	2,600,000	6	2,750,000	2,999,999	2,875,000	7	3,000,000	3,249,999	3,125,000	8	3,250,000	3,449,999	3,350,000	9	3,450,000	3,649,999	3,550,000	10	3,650,000	3,849,999	3,750,000	11	3,850,000	3,999,999	3,925,000	12	4,000,000	5,499,999	4,750,000	13	5,500,000	6,999,999	6,250,000	14	7,000,000		7,000,000
選択肢	最小値	最大値	中央値																																																										
1	0	1,199,999	600,000																																																										
2	1,200,000	1,749,999	1,475,000																																																										
3	1,750,000	2,099,999	1,925,000																																																										
4	2,100,000	2,449,999	2,275,000																																																										
5	2,450,000	2,749,999	2,600,000																																																										
6	2,750,000	2,999,999	2,875,000																																																										
7	3,000,000	3,249,999	3,125,000																																																										
8	3,250,000	3,449,999	3,350,000																																																										
9	3,450,000	3,649,999	3,550,000																																																										
10	3,650,000	3,849,999	3,750,000																																																										
11	3,850,000	3,999,999	3,925,000																																																										
12	4,000,000	5,499,999	4,750,000																																																										
13	5,500,000	6,999,999	6,250,000																																																										
14	7,000,000		7,000,000																																																										
<p>②家計の逼迫</p>	<p>以下の設問で1つでも該当する場合「家計の逼迫」に該当とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問 20 過去 1 年間に家族が必要とする食料を買えないことがあった ⇒「よくあった」「ときどきあった」</li> <li>・問 21 過去 1 年間に家族が必要とする衣類を買えないことがあった ⇒「よくあった」「ときどきあった」</li> <li>・問 22 ①電話料金、②電気料金、③ガス料金、④水道料金、⑤家賃、⑥住宅ローン、⑦給食費 が支払えないことがあった ⇒「あった」</li> </ul>																																																												

<p>③体験・所有物の欠如</p>	<p>以下の設問で3つ以上該当する場合「体験・所有物の欠如」に該当とした。</p> <p>・問9 ①海水浴に行く、②博物館・科学館・美術館などに行く、③キャンプやバーベキューに行く、④スポーツ観戦や観劇に行く、⑤遊園地やテーマパークに行く ⇒「経済的な理由でない」</p> <p>・問10 ①毎月お小遣いを渡す、②毎年新しい洋服・靴を買う、③習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる、④学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)、⑤誕生日のお祝いをする、⑥1年に1回程度家族旅行に行く、⑦クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる ⇒「経済的にできない」</p> <p>・問23 経済的理由で世帯にないもの ⇒「子どもの年齢に合った本」、「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」、「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」</p>
-------------------	--

## 7. 調査報告書の読み方及び注意事項

- 図表中の構成比率は、小数点第2位以下を四捨五入している。そのため、個別の値の総和が全体合計値と一致しないこともある。
- 複数回答の設問は、回答が2つ以上ありうるため、合計は100%を超えることもある。
- 図表中の「N」とは回答件数の総数のことで、100%が何件の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 調査数が10未満の項目については、サンプル数が少ないことから、原則としてコメントしない。
- 保護者調査においては、一部設問を除き、平成30年度に青森県において実施した「青森県子どもの生活実態調査」の数値を用いて、比較用の青森県の「全体」・「困窮家庭」・「周辺家庭」・「一般家庭」の件数や数値を算出し、比較を行っている。
- 保護者調査における「困窮家庭、周辺家庭、一般家庭」別のクロス集計については、対象の設問に無回答だった回答者を除いているため、困窮家庭、周辺家庭、一般家庭の総数の合計と、全体の総数は一致しない。

## Ⅱ 調査結果のまとめ・考察

### 1. 保護者調査結果のまとめ

保護者調査の結果を踏まえ、現状における十和田市の子どもを取り巻く環境に関する課題として、以下の点が明らかとなった。

ポイント	アンケート結果から明らかになった課題
①健康維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが必要な時に医療機関を受診できる体制の整備が求められる。</li> <li>・家庭内に悩み事を相談できるような人がいない場合であっても、保護者が気軽に悩みなどを相談でき、心身のケアなどを行えるような体制の整備が求められる。</li> </ul>
②家庭生活の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困難度が「困窮家庭」になるにつれて、経済的な理由により、家族でのイベント(旅行など)の経験や習い事を習わせることができない家庭が増えることから、そうした家庭に向けた対策が求められる。</li> <li>・保護者の帰宅まで子どもだけで過ごす家庭が一定数見られることから、子どもが他者とコミュニケーションが図ることができるような居場所の提供が求められる。</li> </ul>
③十分な教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの教育段階において、経済的な理由により生じる理想と現実のギャップを埋めることができるような対策が求められる。</li> <li>・生活困難度が「困窮家庭」になるにつれて、学校以外での教育にお金をかけられない家庭が増えることから、そうした家庭に向けた学習支援が求められる。</li> </ul>
④家計の逼迫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家計の状況が赤字となっている家庭は、特に「困窮家庭」に多く、手当等による家計の支援だけでは不足している状況がうかがえる。また、「困窮家庭」では、必要な食料や衣服を買えなかったり、インフラに関するサービスの料金などを支払えなかったりした経験がある家庭も多く、そうした家庭に向けた家計の支援が求められる。</li> </ul>
⑤必要とされる生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手当、補助金や食事、場所の提供などの支援制度において、特に「困窮家庭」において認知度が低い項目においては、認知度の向上が求められる。</li> <li>・子どもに対する学習支援のニーズが高いが、「困窮家庭」では、家計の支援ニーズも高いことから、これらを踏まえた総合的な支援が求められる。</li> </ul>

#### 【①健康維持に関するアンケート結果】

・(問 5)保護者と子どもの健康状態について、『よい(よい + まあよい)』の割合は、十和田市は青森県と同様に、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて減少する傾向が見られた。

・(問6)過去1年間に子どもを医療機関に受診させなかったことが「あった」割合は、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。なお、すべての属性で「あった」割合は、十和田市が青森県を下回っている。

・(問 7)『感じた(いつも + たいてい + 時々 + 少しだけ)』の割合は、「①神経過敏に感じる」、「②絶望的だと感じる」、「⑥何をするのも面倒だと感じる」、「⑦自分は価値のない人間だと感じる」の4項目で十和田市が

青森県を上回り、特に「⑥何をするのも面倒だと感じる」では、差が大きく、十和田市が青森県を 20 ポイント以上上回った。

・(問 25) 困った時や悩みがある時に、相談する相手や相談先は、「周辺家庭」と「一般家庭」では「配偶者・パートナー」が最も高く、「困窮家庭」では「兄弟、その他の親戚」が最も高かった。なお「困窮家庭」では「相談できる相手がいない」が 1 割を上回った。

#### 【②家庭生活の円滑化に関するアンケート結果】

・(問 9) イベントの体験について、「経済的な理由でない」の割合は、十和田市は青森県と同様に、「一般家庭」ではほとんど見られないが、「周辺家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。

・(問 10) 子どもに対する支出について、「経済的にできない」の割合は、十和田市は青森県と同様に、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られ、「困窮家庭」では、「④学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」、「⑥1 年に 1 回程度家族旅行に行く」では、ともに 7 割以上となった。

・(問 11) 平日の夕方から夜の時間帯に、お子さんだけで過ごすことが『ある(ほぼ毎日 + 時々ある)』割合は、すべての属性で十和田市が青森県を上回っている。なお、「ほぼ毎日」の割合は、十和田市ではすべての属性で 1 割以上となっており、「周辺家庭」で唯一 2 割台となっている。

#### 【③十分な教育に関するアンケート結果】

・(問 12-1) 子どもの教育段階において理想と現実の違いがある理由は、十和田市は青森県と同様にすべての属性で「経済的に余裕がないから」が最も高くなっており、その割合は「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。

・(問 24) 学校以外の教育にかける 1 か月あたりの平均支出について、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「0 円」の割合が増加する傾向が見られた。

#### 【④家計の逼迫についてのアンケート結果】

・(問 17) 手当等の受給有無は、十和田市は「①児童手当」「②児童扶養手当」において、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「受給あり」の割合が増加する傾向が見られた。また、これら 2 つの手当において、「②児童扶養手当」の「一般家庭」を除き、十和田市は「受給あり」の割合が青森県を上回っている。

・(問 19) 家計の状況については、『赤字(赤字であり、借金をして生活している + 赤字であり貯蓄を切り崩している)』の割合は、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向にあり、「一般家庭」では 1 割未満であるのに対し、「困窮家庭」では 6 割を上回っている。

・(問 20) お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことの有無について、『あった(よくあった + 時々あった + まれにあった)』の割合は、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。十和田市の『あった』の割合は、すべての属性で青森県を下回ったが、「一般家庭」では 1 割未満であるのに対し、「困窮家庭」では 6 割を上回った。

・(問 21) お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことの有無について、『あった(よくあった + 時々あった + まれにあった)』の割合は、食料と同じく、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。十和田市の『あった』の割合は、すべての属性で青森県を下回ったが、「一般家庭」では 1 割未満であるのに対し、「困窮家庭」では約 8 割となり、食料よりも高くなっている。

・(問 22) 経済的な理由でサービス・料金が支払えないことがあったかについて、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「あった」の割合が増加する傾向が見られた。「困窮家庭」では、「②電気料金」、「③ガス料金」、「④水道料金」で十和田市が青森県を上回っている。なお、十和田市において、「⑦給食費」の「あった」の割合は、「困窮家庭」では 2 割以上と、「周辺家庭」、「一般家庭」よりも 10 ポイント以上高くなった。

#### 【⑤必要とされる生活支援についてのアンケート結果】

・(問 26) 支援制度等(手当・補助金等)の利用有無について、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「利用したことがある」の割合が増加する傾向が見られた。なお、「制度等について全く知らなかった」の割合は、十和田市の「困窮家庭」、「周辺家庭」では、「④母子父子寡婦福祉資金貸付金」と「⑤生活福祉資金貸付金」でともに 2 割台と、他の項目より高くなっている。

・(問 27) 支援制度等(食事・場所の提供等)の利用有無について、十和田市の「困窮家庭」で特に高く、「③居場所づくり」で 4 割を上回り、「④学習支援」で約 4 割となっている。

・(問 28) 子どもにとってあるとよい支援について、すべての属性で、「進学や資格を取るための学習の支援」が最も高く、5 割以上となっている。なお、「困窮家庭」では次いで「生活や就学のための給付金や貸し付けなどの経済的援助」が高く、「周辺家庭」や「一般家庭」との差が大きく見られた。

・(問 29) 現在必要としていること、重要だと思う支援について、すべての属性で、「子どもの就学、進学にかかる費用が軽減されること」が最も高く、「周辺家庭」と「困窮家庭」においては、8 割以上となっている。なお、「困窮家庭」では「一時的に必要な資金が容易に借りられること」と「住居を探したり、住居の費用を軽減するための支援が受けられること」において高く、「周辺家庭」や「一般家庭」との差が大きく見られた。

## 2. 子ども調査結果のまとめ

子ども調査の結果を踏まえ、現状における十和田市の子どもを取り巻く環境に関する課題として、以下の点が明らかとなった。

ポイント	アンケート結果から明らかになった課題
①健康維持	・子どもの健康維持のためには、どのような家庭環境においても「朝食の欠食を無くす」、「1日30分以上の運動」、「毎日の歯磨き」を可能な限り習慣化することが重要。
②孤食・孤立の解消	・朝食時の子どもの「孤食」が日常化している家庭には、家族など他者との「共食」に向けた環境づくりが求められる。 ・平日放課後に子どもが自分の家で「孤立」し、スマートフォンやゲームで過ごす家庭が一定数見られることから、親が帰宅するまでの間、他者とコミュニケーションが図ることができるような居場所の提供が求められる。
③コミュニケーションの活性化	・母親よりも父親とのコミュニケーションが希薄している傾向にあることから、父親と積極的にコミュニケーションを図ることができる機会が求められる。 ・地域活動を通じて地域住民とコミュニケーション図ることなど、地域が一体となって子どもを支える環境づくりが求められる。 ・普段困っていることなどを話す相手として、「親」や「友達」を頼ることが多いことから、親子関係や友人関係など、人間関係の円滑化が求められる。
④学校生活の充実	・授業の理解度向上が学校生活の充実度向上につながる傾向が見られることから、授業の理解度が不足している子どもへの学習支援が求められる。 ・親の学習支援が授業の理解度促進につながる傾向が見られたことから、コミュニケーションの一環として親の学習支援を行うことが求められる。

### 【①健康維持に関するアンケート結果】

- ・(問3) 平日の朝食をいつも食べる層は、平日朝ごはんを「いつも食べる(週に5日)」割合は、自分の健康状態が「良い」または「どちらかといえば良い」層では9割を上回っている。
- ・(問9) 30分以上からだを動かす遊びや習い事を「ほぼ毎日」する割合は、自分の健康状態が「良い」層で3割を上回っている。
- ・(問10) 歯磨きを「毎日」する割合は、自分の健康状態が「良い」と「どちらかといえば良い」層では9割を上回っているのに対し、「どちらかといえば悪い」層では、7割強にとどまった。

### 【②孤食・孤立の解消に関するアンケート結果】

- ・(問4、問6) 平日または休日に朝食を「一人で食べる」割合は1割以上となっている。
- ・(問14) 平日の放課後に「一人でのいる」割合は、約1割だった。
- ・(問15) 平日の放課後に自分の家で「毎日」過ごす割合は、平日の放課後、「一人でいる」層で7割台と高くなっている。

・(問 17)平日の放課後に「携帯電話・スマートフォン」または「ゲーム機」を『2 時間以上(2 時間程度 + 3 時間以上)』使用する割合は、平日の放課後「家族」と過ごす層よりも、「一人でのいる」層の方が高くなっている。

#### 【③コミュニケーションの活性化に関するアンケート結果】

・(問 13)父親または母親と『話をする(よく話をする + とくとき話をする)』割合は、平日に朝ごはんを「いつも食べる(週に 5 日)」層と比較すると、「食べないほうが多い(週に 1、2 日)」層は低い傾向にあり、また、『話をする』割合を全体の数値と比較すると、すべての項目で父親よりも母親の方が高くなっている。

・(問 19)地域活動への参加については、「近所のお祭り」が 47.5%で最も高く、次いで「参加したことはない」(36.0%)が高くなっている。

・(問 34)普段困っていることなどを『話す(よく話す + 時々話す)』割合は、「家族(親)」が 75.6%で最も高く、次いで「友だち」(74.4%)が続き、ともに 7 割を上回った。

#### 【④学校生活の充実に関するアンケート結果】

・(問 20)学校生活が『楽しみ(とても楽しみ + 楽しみ + 少し楽しみ)』である割合は、おおよそ学校の授業が「わかる」層が最も高く、「わからないことが多い」層にかけて減少する傾向が見られた。

・(問 21)勉強がわからない時に「親」に教えてもらう割合は、学校の授業が「わかる」層から「わからないことが多い」層にかけて減少する傾向が見られた。

・(問 26)「①学校に行きたくないと思った」と「③いじめられた」において、学校の授業が「わかる」層から「わからないことが多い」層にかけて増加する傾向が見られた。

### 3. 全体のまとめ

保護者調査においては、家計の逼迫が、保護者や子どもの健康維持、家庭生活、子どもの教育など、様々な問題に影響していることが分かった。特に「困窮家庭」では、その影響が顕著に表れる結果となった。また、子ども調査においては、健康維持、孤食・孤立の解消、家族や学校などでのコミュニケーション活性化や、学校生活の充実などが課題となっていることが分かり、保護者における課題との関連性が見られた。

家計の逼迫が、保護者や子どもの心身の健康の悪化、ひいては子どもの教育の機会の喪失など、悪循環に陥ることが無いよう、家計の支援や子どもに対する学習支援など、総合的な支援が必要と考えられる。共働き家庭やひとり親家庭など、家庭状況は様々であることから、置かれている状況に応じた支援策が重要となる。また、手当、補助金や食事、場所の提供などの既存の支援制度において、特に「困窮家庭」において認知度が低い項目が見られたことから、そうした家庭に向けた周知活動も、有効と考えられる。

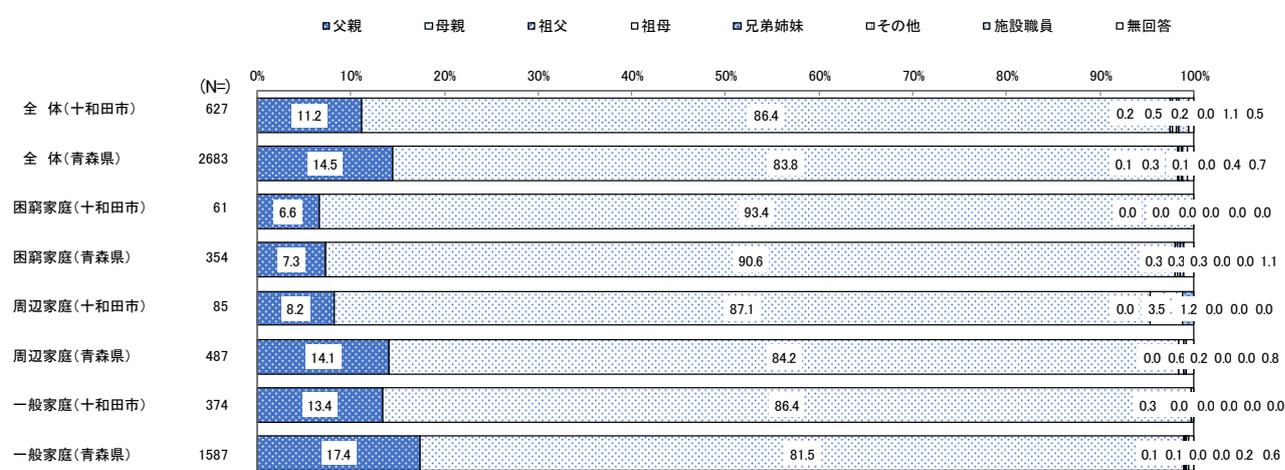
さらに、新型コロナウイルス感染症の流行が家庭に与えた影響も大きく、企業の倒産や解雇により職を失ったり、収入が減少したことで家庭全体の生活の質が低下した家庭も多くみられることから、今回の調査によって明らかになった課題の対策が非常に重要なものとなると考えられる。

### Ⅲ アンケート調査結果(保護者調査)

問1 お子さんとあなた(回答者)との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた続柄で、お答えください。(あてはまる番号1つに○)

#### 【青森県との比較結果】

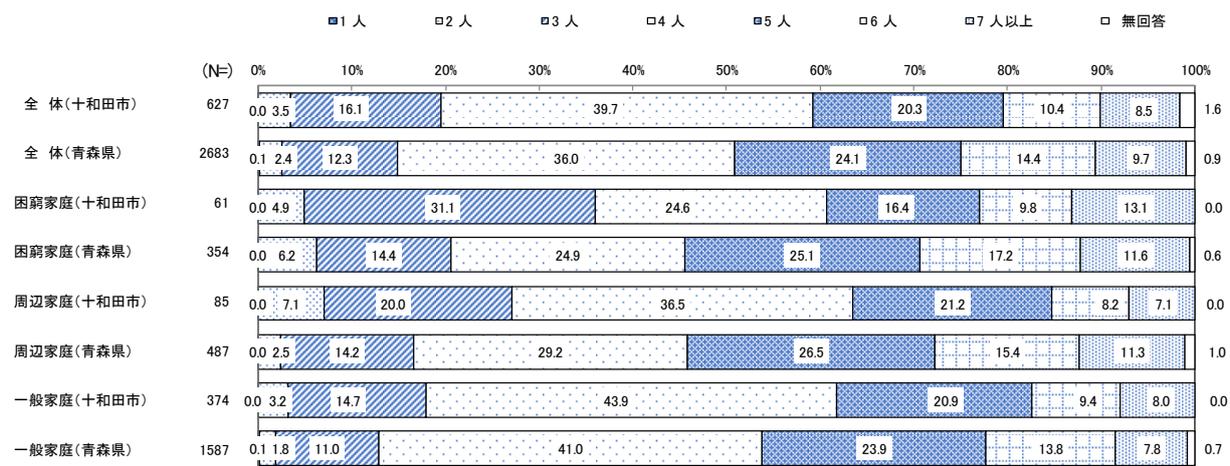
保護者調査の回答者は、十和田市は青森県と同様にすべての属性で「母親」が8割を上回っており、特に「困窮家庭」では高く、ともに9割以上となっている。



問2 お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください(あなたとお子さんも含む)。単身赴任しているご家族も含めてください。

### 【青森県との比較結果】

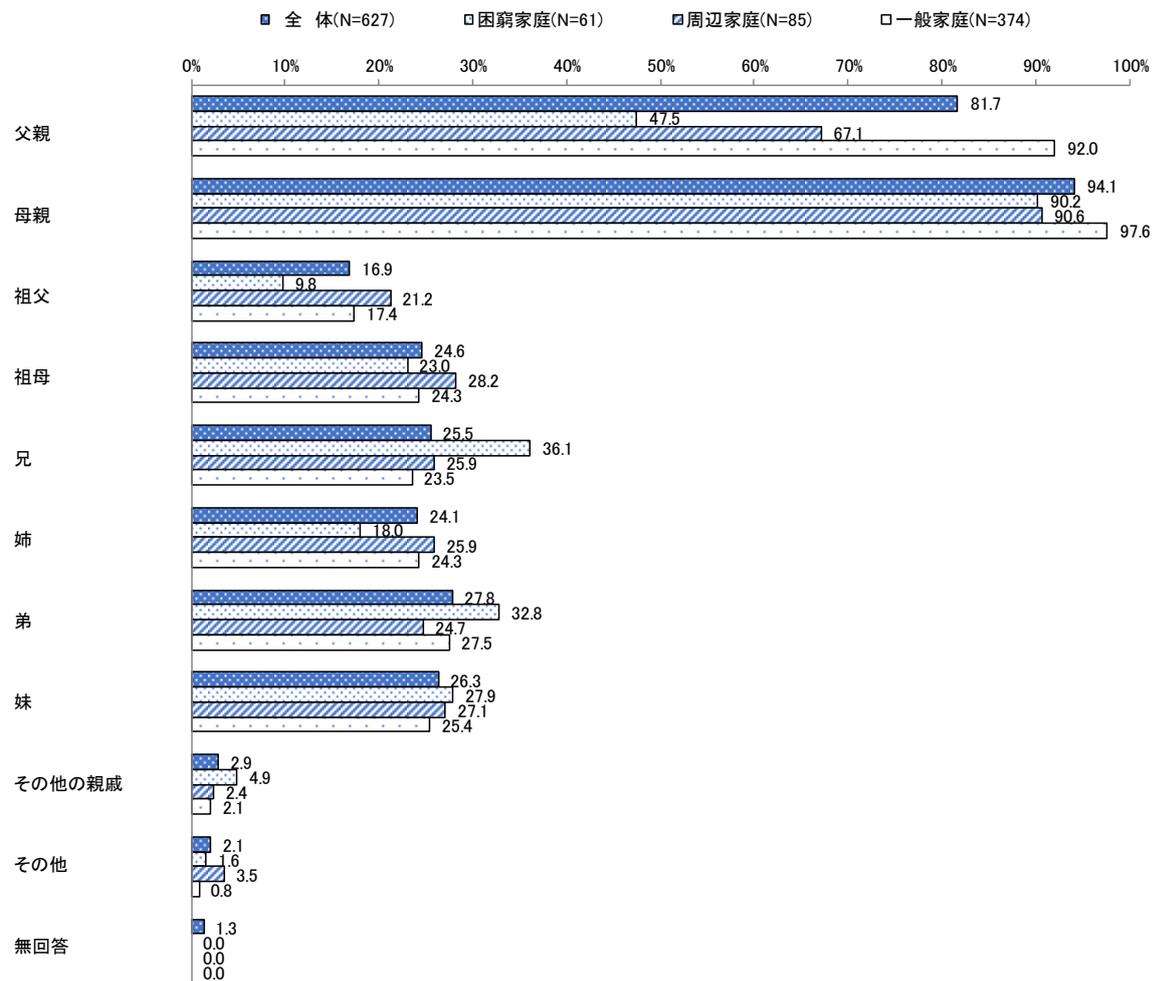
子どもと同居している家族の人数について、「3人家族」はすべての属性で十和田市が青森県を上回っている。また、「4人家族」は、「周辺家庭」と「一般家庭」で十和田市が青森県を上回っている。



問3 お子さんと同居しているご家族の方は、どなたですか。(あてはまる番号すべてに○)

【十和田市の集計結果】

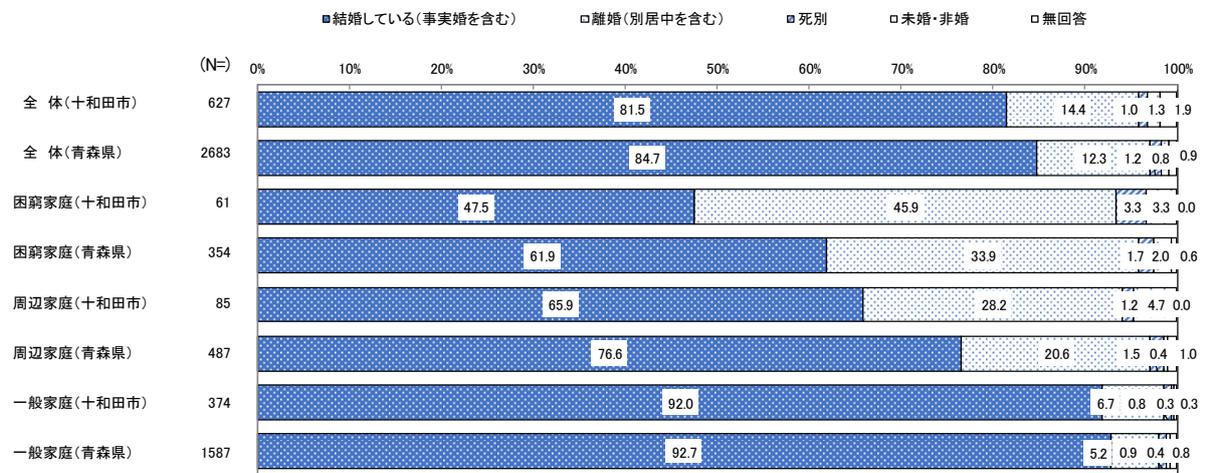
子どもと同居している家族について、「母親」は、すべての属性で9割を上回っているのに対し、「父親」は、「一般家庭」で9割台、「周辺家庭」で6割台、「困窮家庭」で4割台と、生活困難度により差が見られた。



問4 現在のあなたの婚姻状況を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

【青森県との比較結果】

婚姻状況について、「結婚している(事実婚を含む)」の割合は、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて減少する傾向が見られた。十和田市の「困窮家庭」と「周辺家庭」では、「結婚している(事実婚を含む)」の割合が青森県を10ポイント以上下回っている。



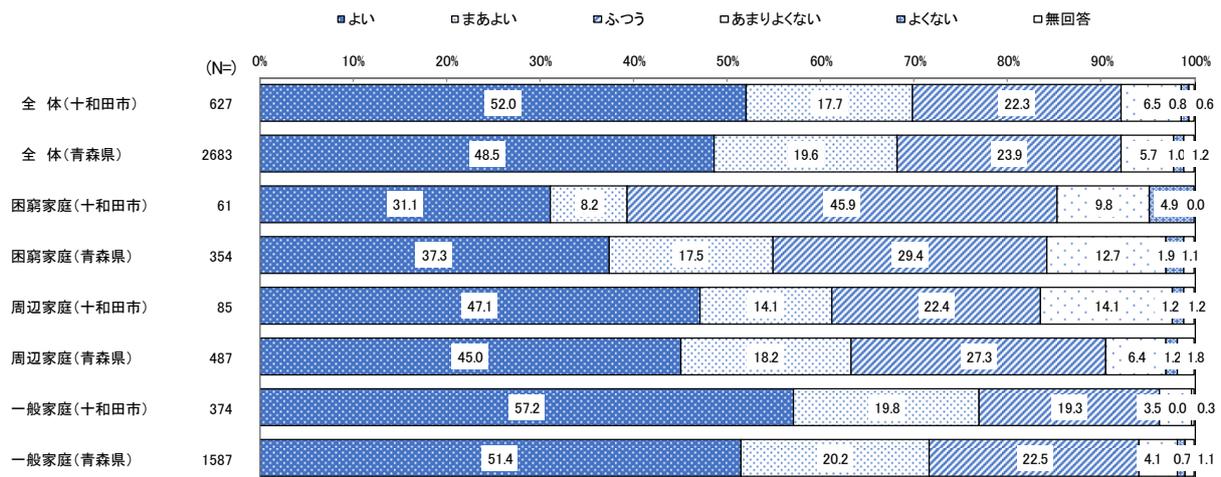
問5 あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします。それぞれ、最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号に1つに○)

### 【青森県との比較結果】

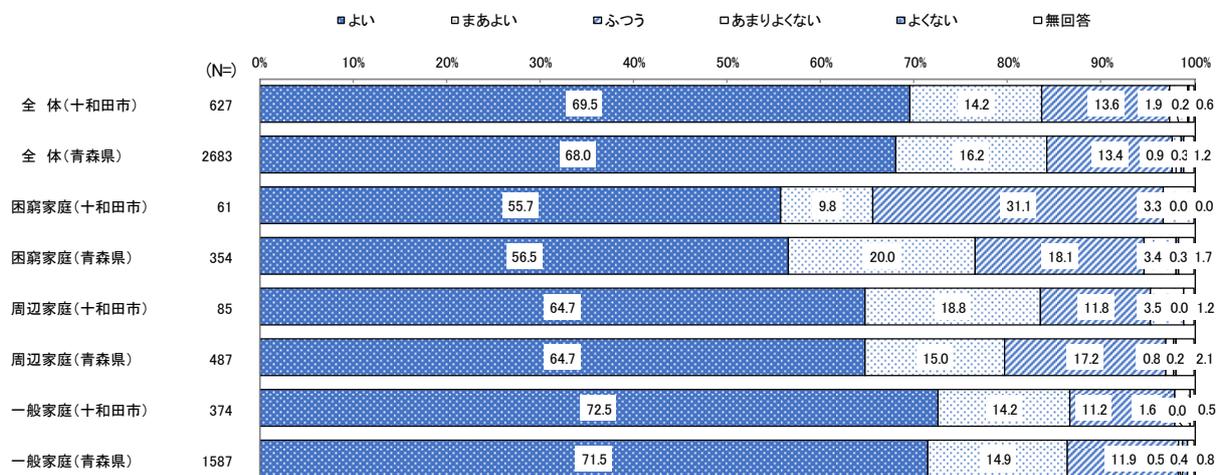
保護者の健康状態について、『よい(よい + まあよい)』の割合は、「困窮家庭」において特に大きく差が見られ、十和田市は青森県を15ポイント以上下回った。一方、「一般家庭」においては、十和田市が青森県を上回った。また、子どもの健康状態について、『よい(よい + まあよい)』の割合は、保護者と同様に「困窮家庭」において特に大きく差が見られ、十和田市は青森県を10ポイント以上下回った。一方、「一般家庭」においては、保護者と同様に十和田市が青森県を上回った。

なお、保護者、子どもともに、『よい』の割合について、十和田市は青森県と同様に、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて減少する傾向が見られた。

#### ①保護者の健康状態



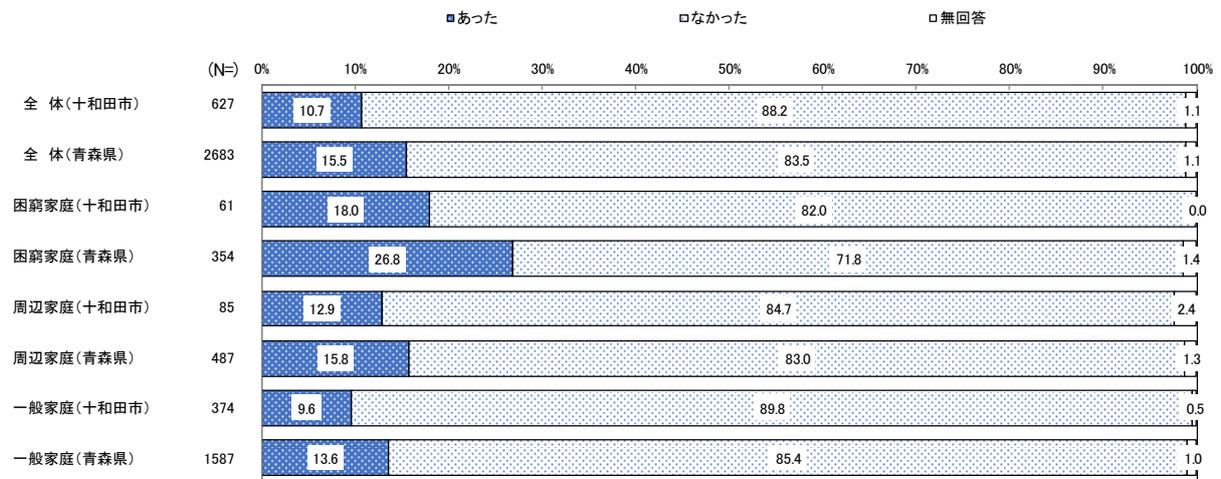
#### ②お子さんの健康状態



問6 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

### 【十和田市の集計結果】

過去1年間に子どもを医療機関に受診させなかったことが「あった」割合は、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。なお、すべての属性で「あった」割合は、十和田市が青森県を下回っている。



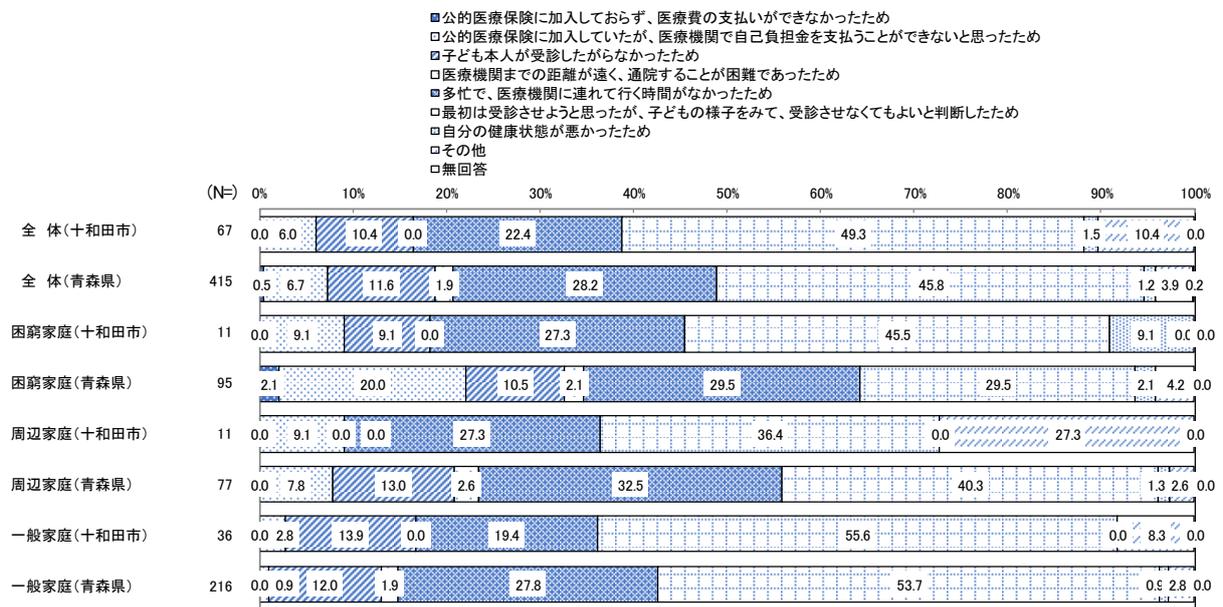
問6で「1 あった」を選んだ方におうかがいします。

問6-1 その理由は、何ですか。以下の中から、最も近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

### 【青森県との比較結果】

子どもを医療機関に受診させなかったに理由ついて、十和田市ではすべての属性で「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため」が最も高かった。また、「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」は、すべての属性で十和田市が青森県を下回った。

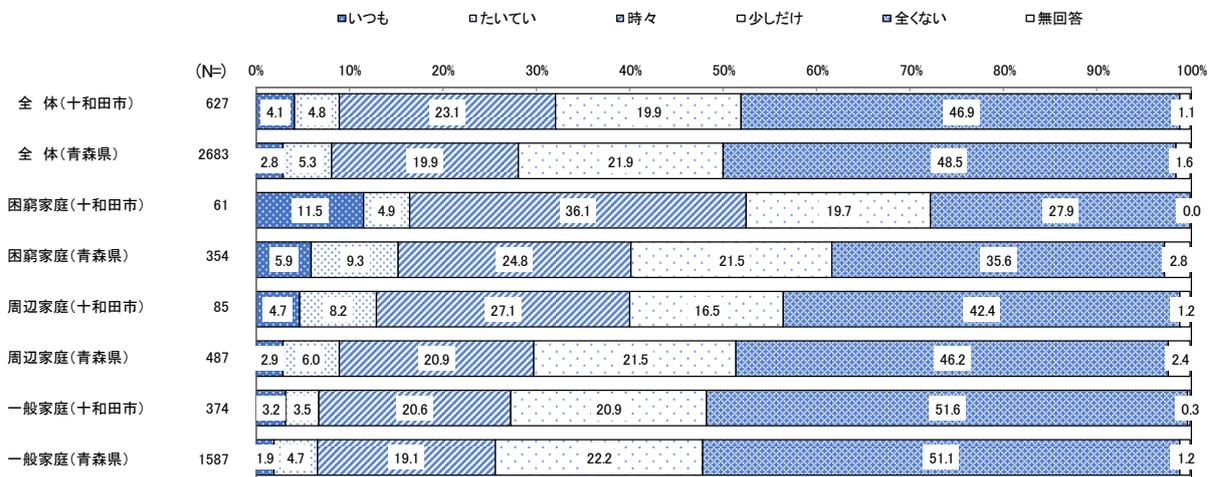


問7 次の①～⑧の質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。  
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

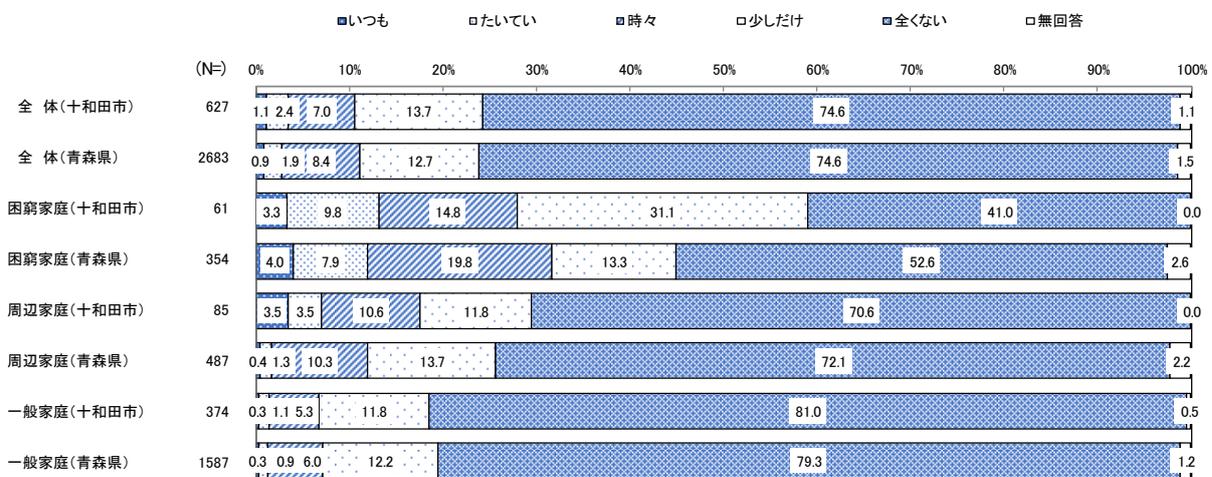
### 【青森県との比較】

青森県との比較を行った各項目について、「全くない」の割合は、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて減少する傾向が見られた。各項目の全体の割合で比較すると、『感じた(いつも + たいてい + 時々 + 少しだけ)』の割合は、「①神経過敏に感じる」、「②絶望的だと感じる」、「⑥何をするのも面倒だと感じる」、「⑦自分は価値のない人間だと感じる」の4項目で十和田市が青森県を上回り、特に「⑥何をするのも面倒だと感じる」では、差が大きく、十和田市が青森県を20ポイント以上上回った。

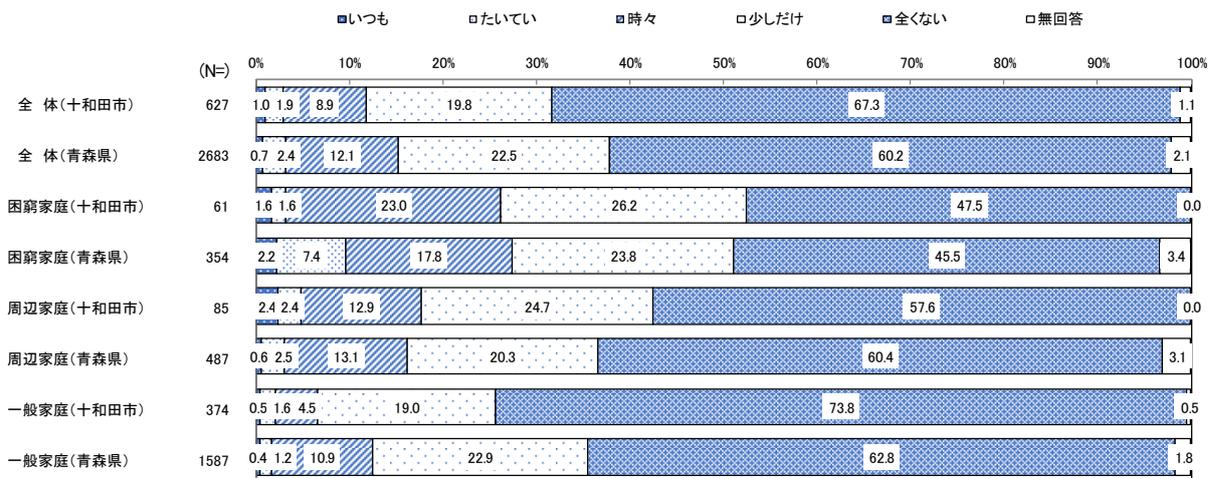
#### ①神経過敏に感じる



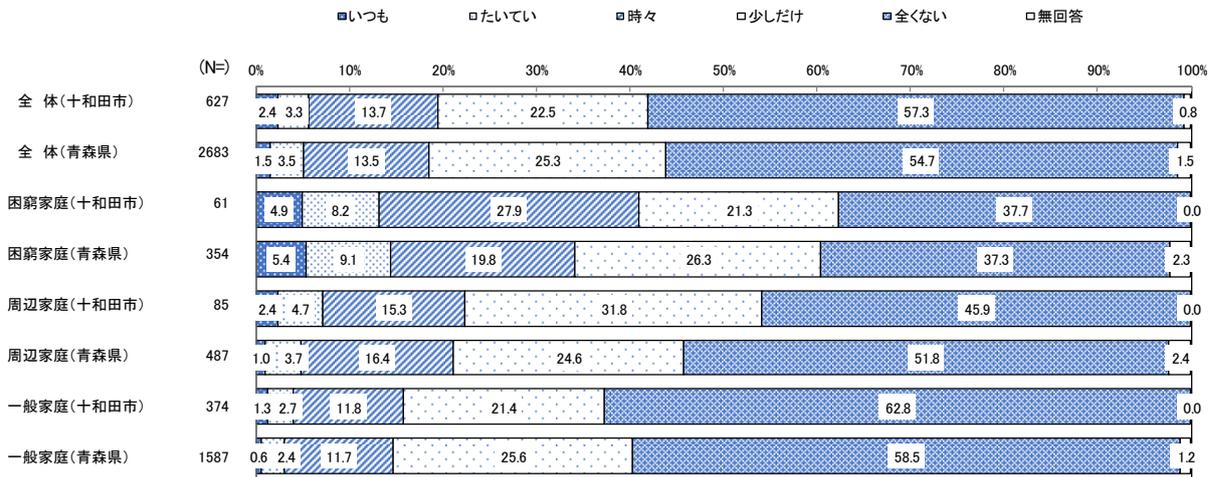
#### ②絶望的だと感じる



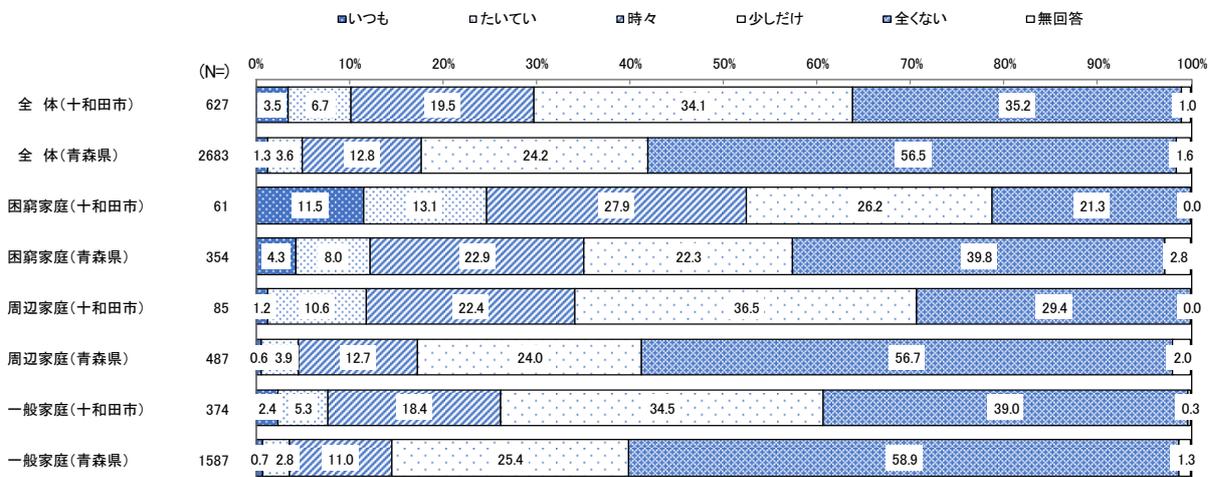
### ③そろそろ、落ち着かなく感じる



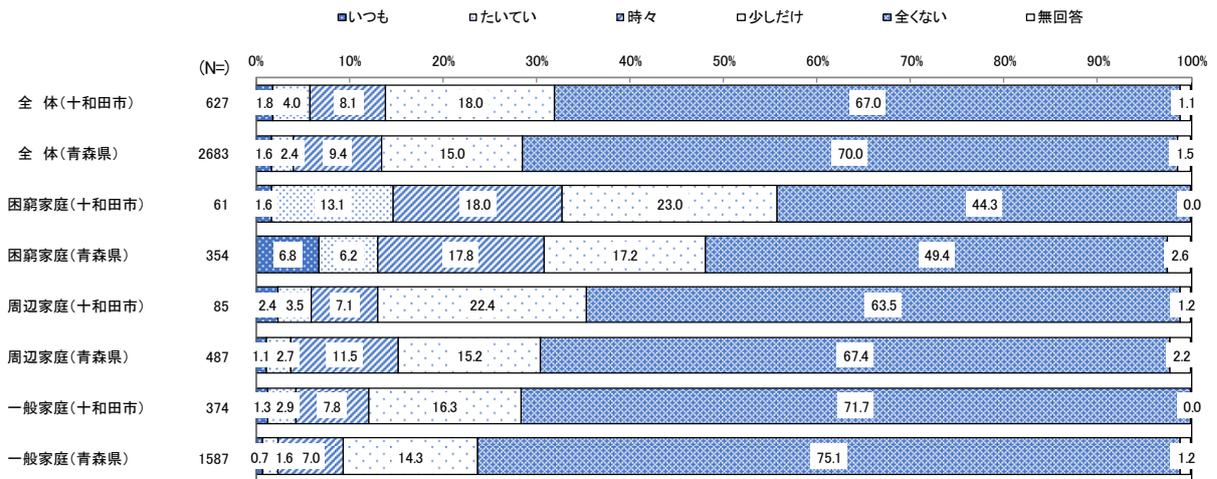
### ⑤気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じる



### ⑥何をするのも面倒だと感じる(青森県調査では、「何をするのも骨折りだと感じた」)



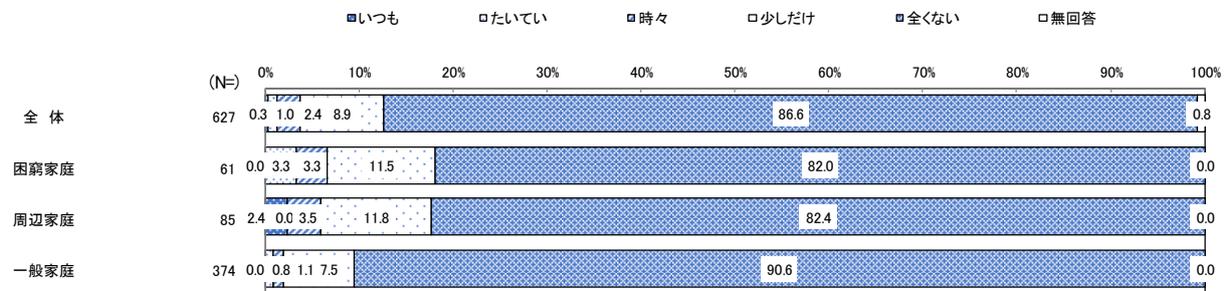
### ⑦自分は価値のない人間だと感じる



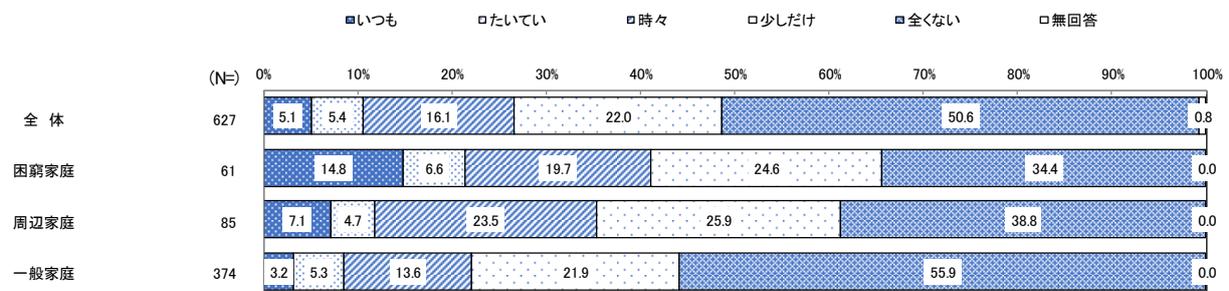
### 【十和田市の集計結果】

「全くない」の割合は、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて減少する傾向が見られた。また、全体でみると、『感じた』の割合は「⑧理由もなく疲れ切ったように感じる」で、約5割となっている。

### ④じっと座ってられないほど落ち着かなく感じる



### ⑧理由もなく疲れ切ったように感じる

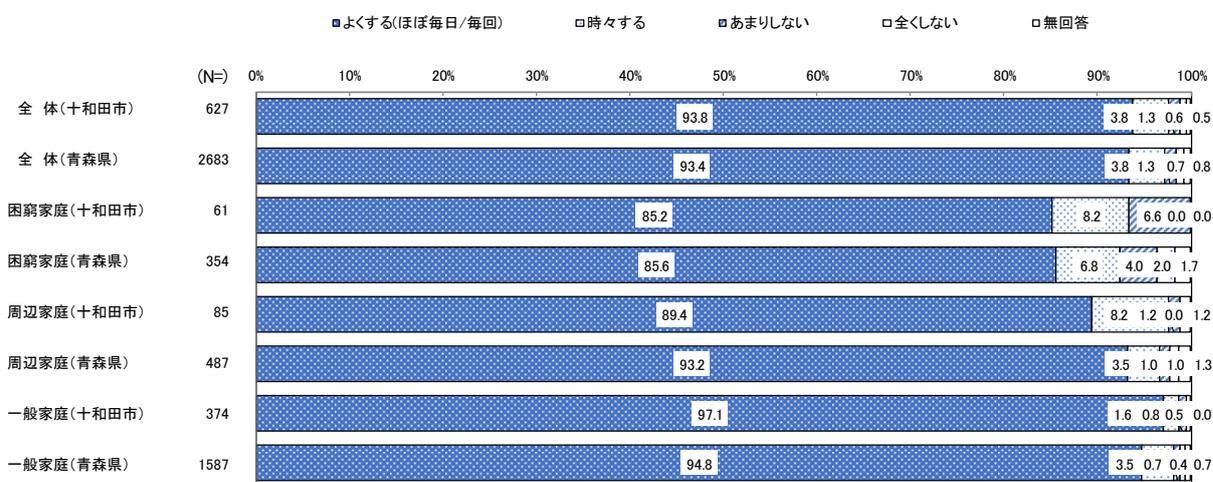


問8 あなたのご家庭では、お子さんに対して、次のことをしていますか。  
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

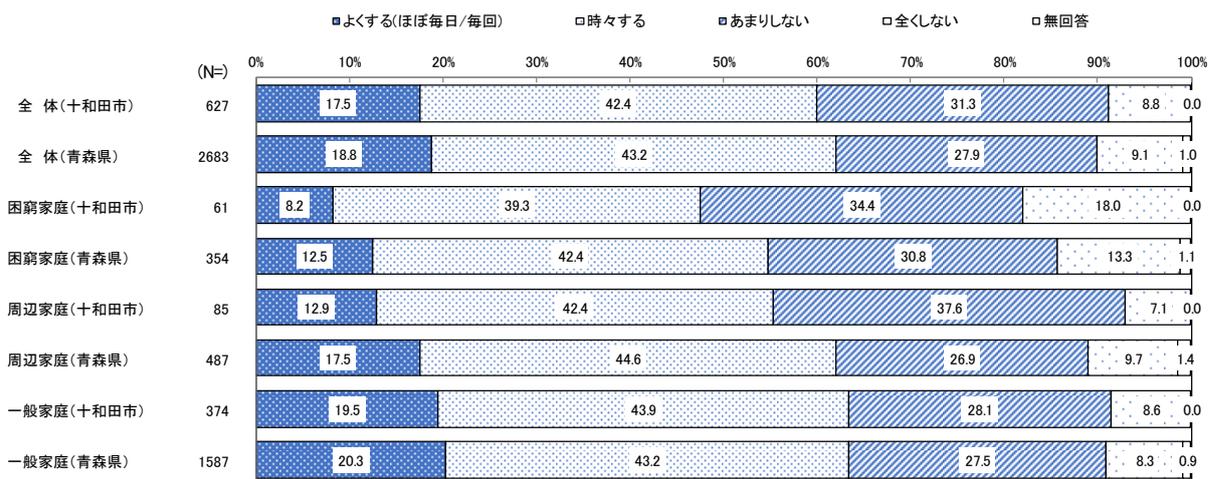
### 【青森県との比較】

十和田市は青森県と同様に、「③お子さんとからだを動かして遊ぶ」、「⑪町内会・子ども会などの地域活動へ参加する」を除くすべての項目で『する(よくする(ほぼ毎日/毎回) + 時々する)』が『しない(あまりしない + 全くしない)』を上回っている。

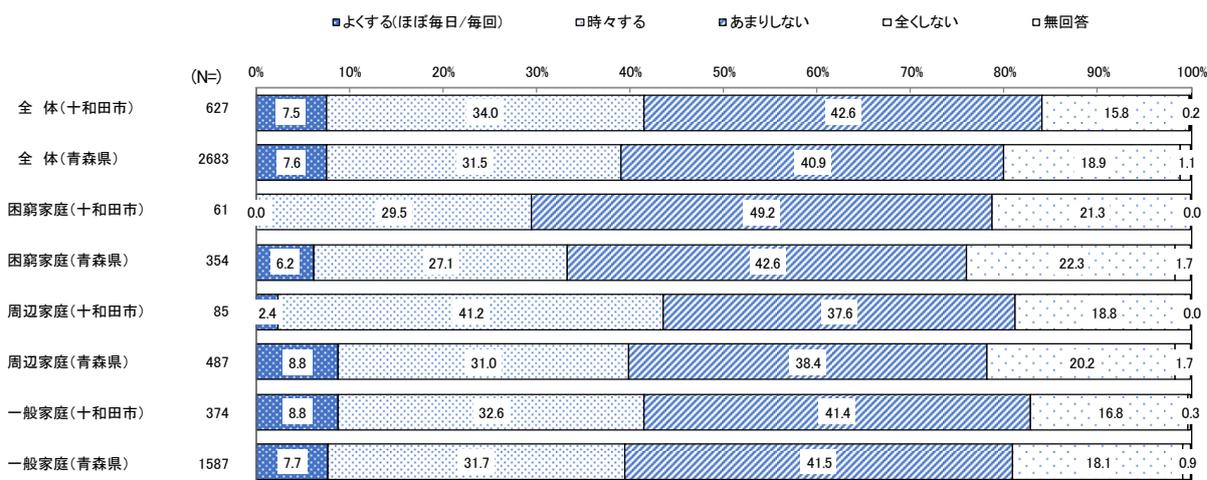
#### ①お子さんに朝食を食べさせている



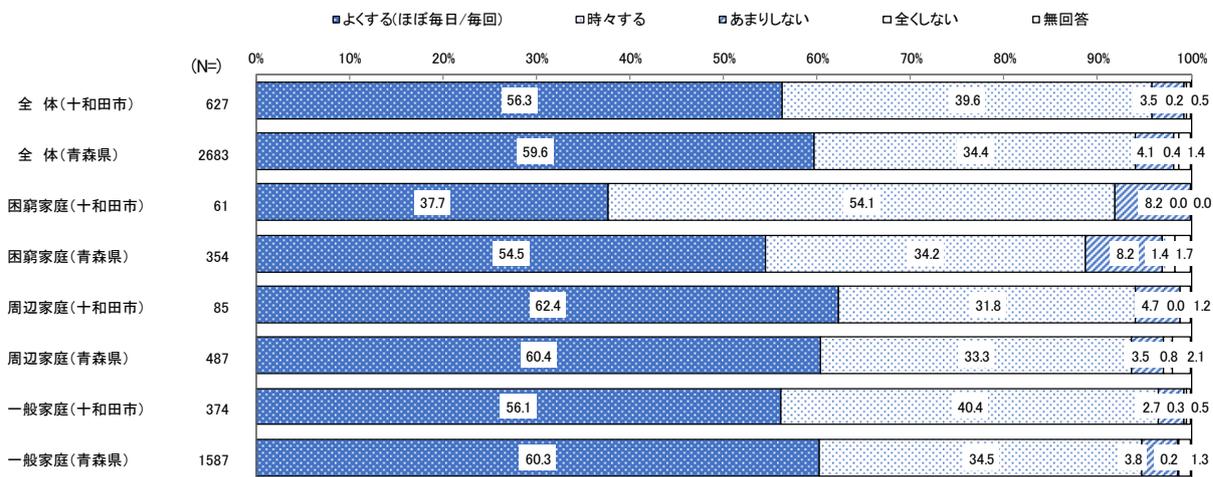
#### ②お子さんの勉強をみる



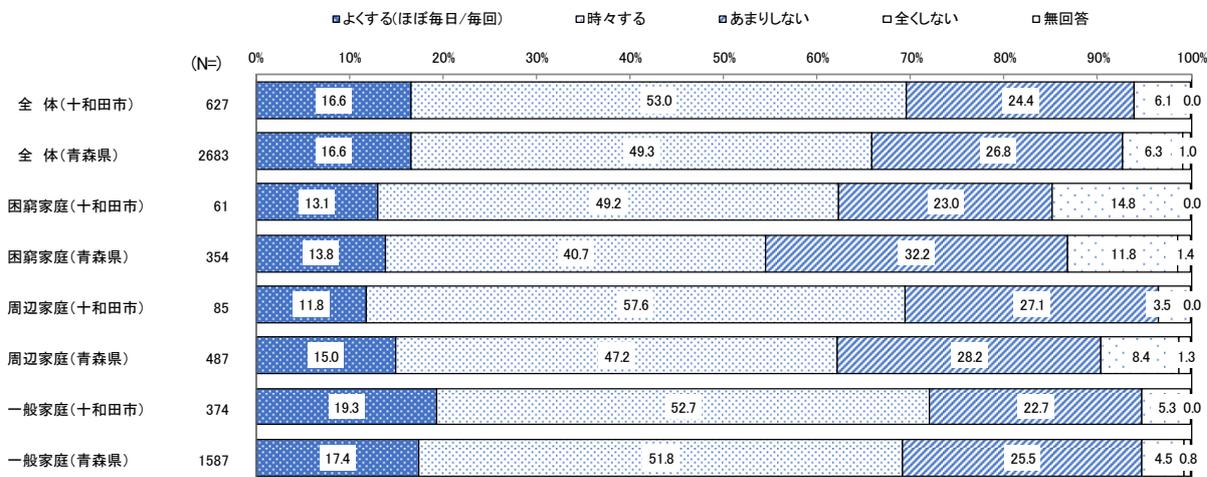
### ③お子さんとからだを動かして遊ぶ



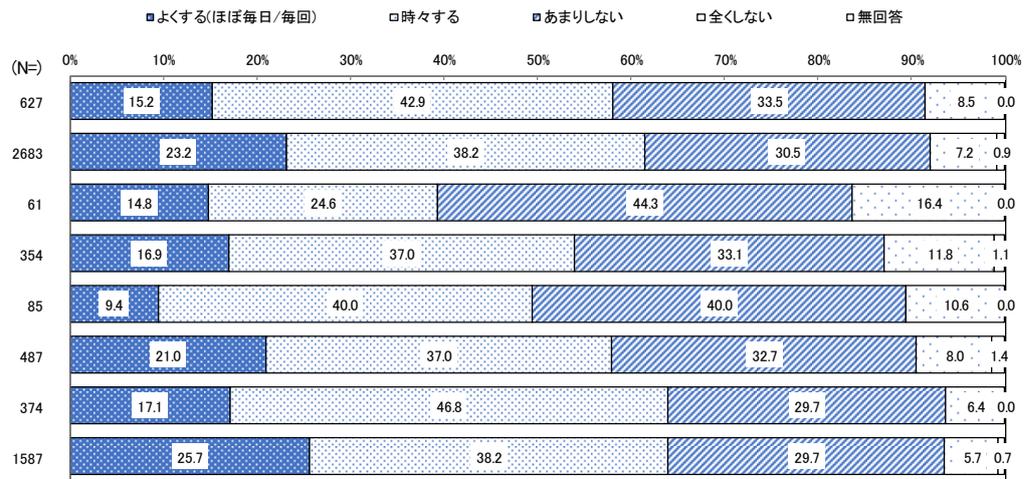
### ④お子さんと学校生活の話をする



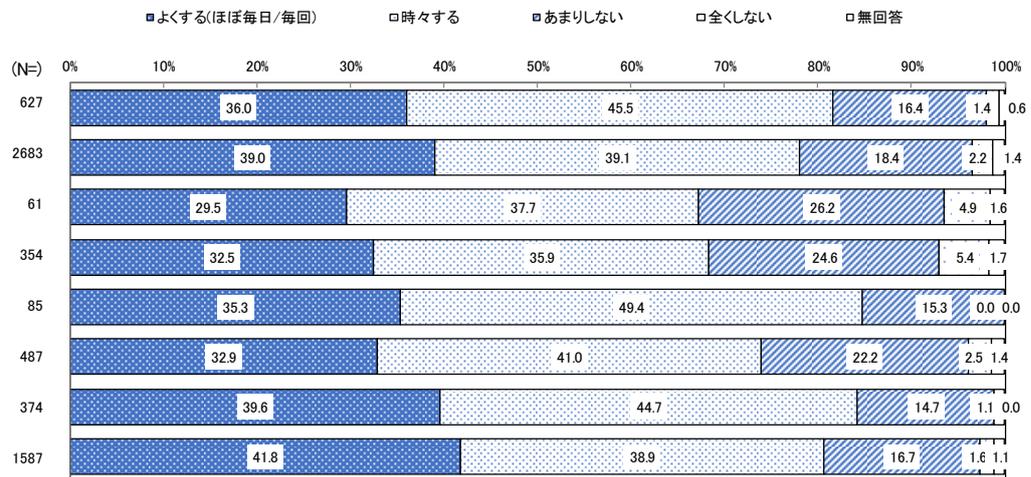
### ⑤お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする



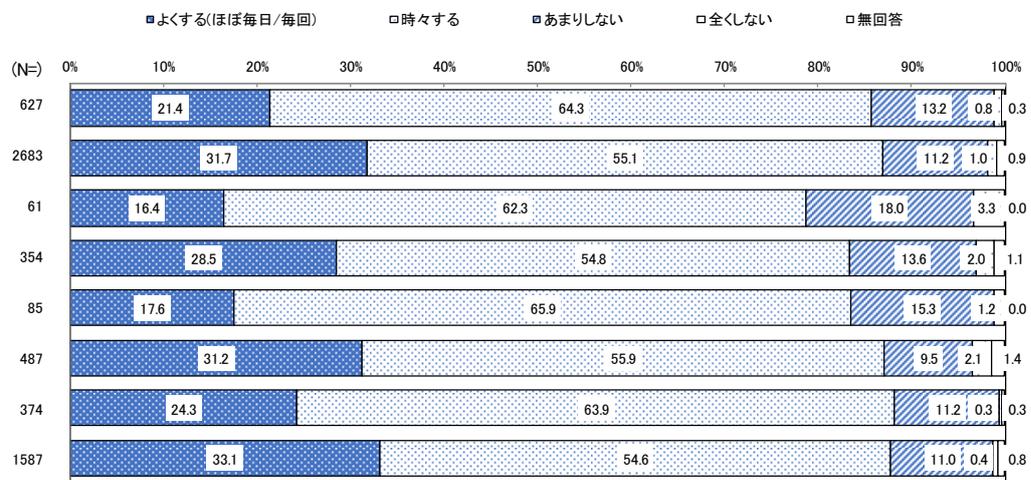
⑥お子さんに本や新聞(電子書籍は含むが、漫画や雑誌、教科書、参考書は除く)を読むようにすすめている



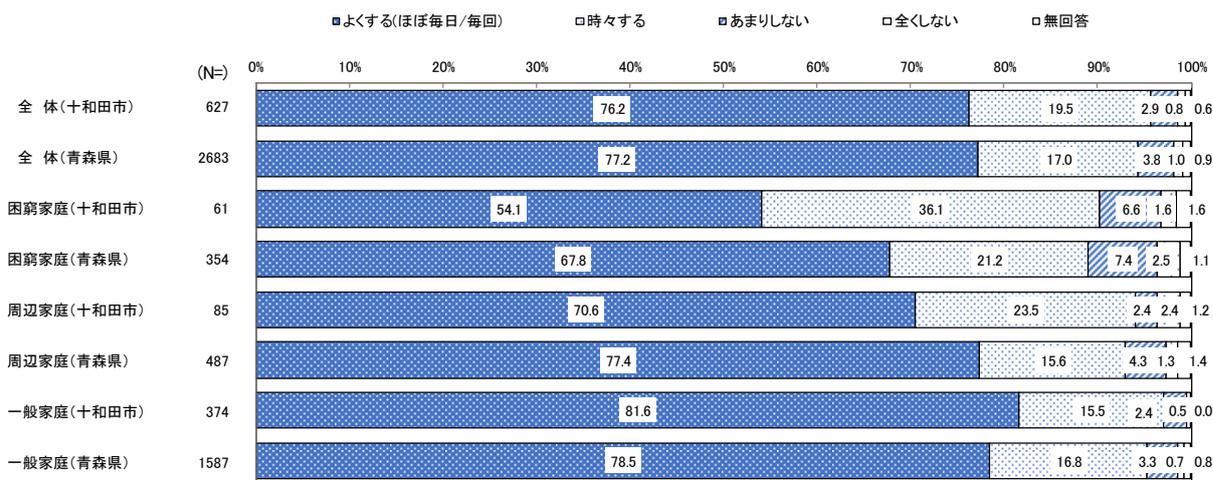
⑦お子さんが小さい頃、絵本の読み聞かせをした



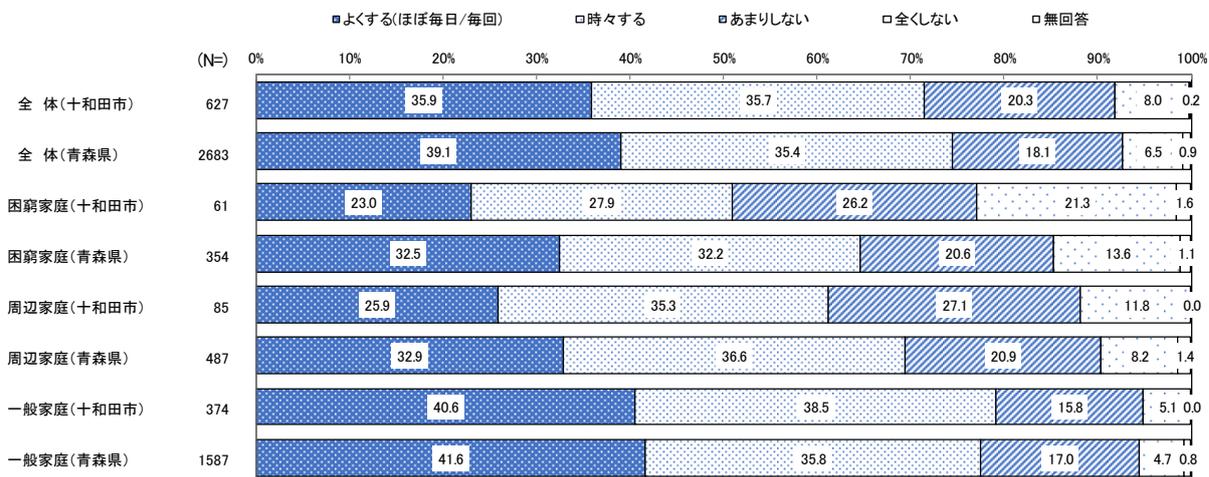
⑧お子さんの将来(夢、進路、職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話をする



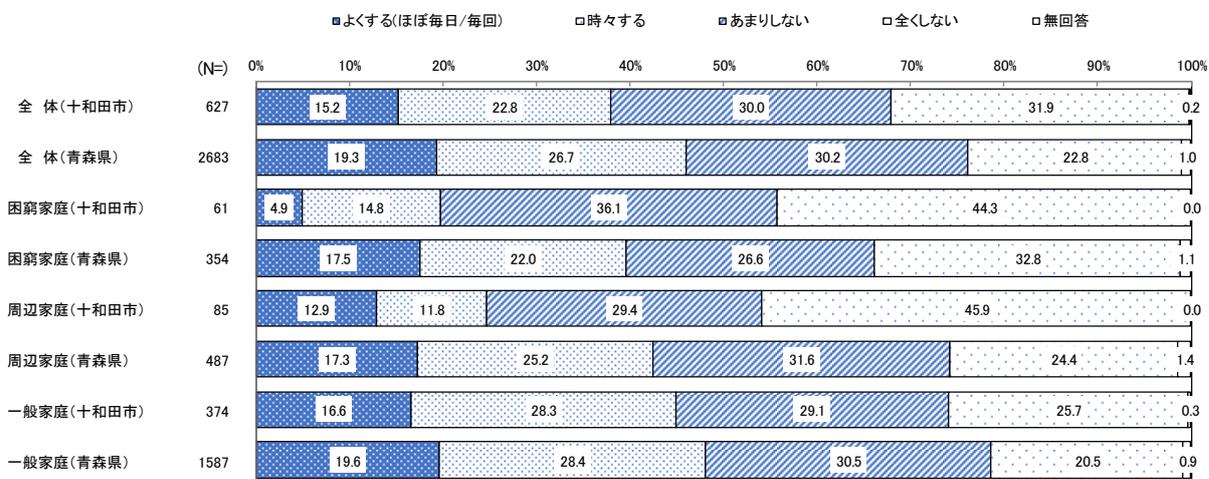
### ⑨授業参観や運動会などの学校行事へ参加する



### ⑩PTA活動や保護者会などへ参加する



### ⑪町内会・子ども会などの地域活動へ参加する

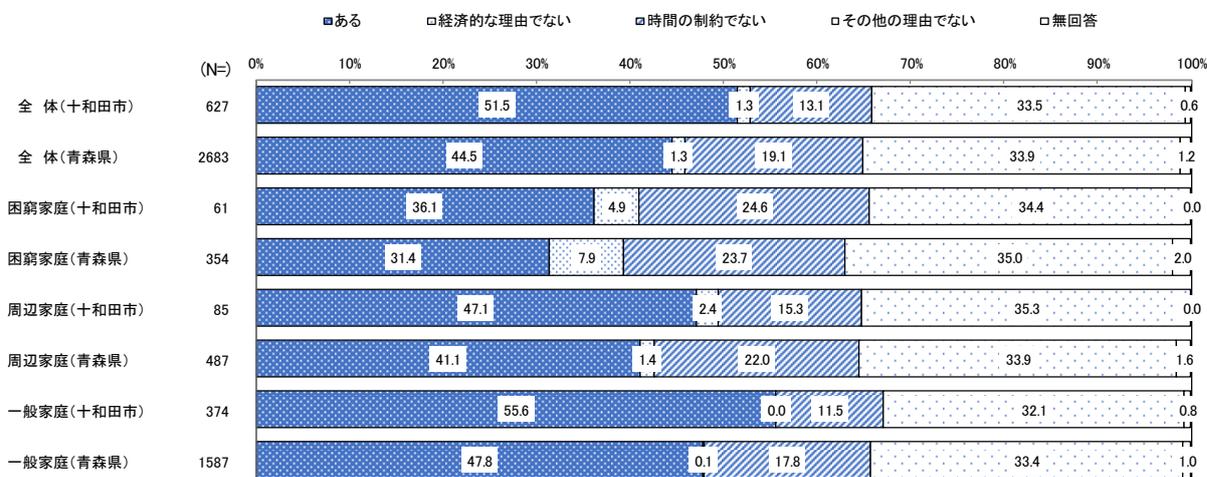


問9 あなたのご家庭では、次のような体験をすることがありますか。  
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

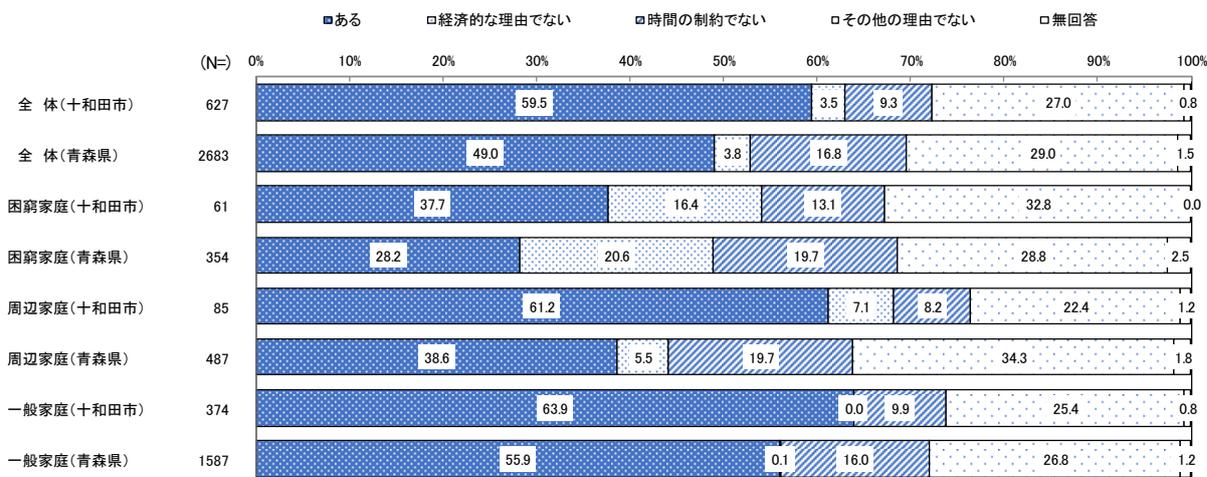
### 【青森県との比較】

イベントの体験について全体でみると、十和田市は「④スポーツ観戦や観劇に行く」を除くすべての項目で「ある」が『ない(経済的な理由でない + 時間の制約でない + その他の理由でない)』を上回っている。なお、「経済的な理由でない」の割合は、十和田市は青森県と同様に、「一般家庭」ではほとんど見られないが、「周辺家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。

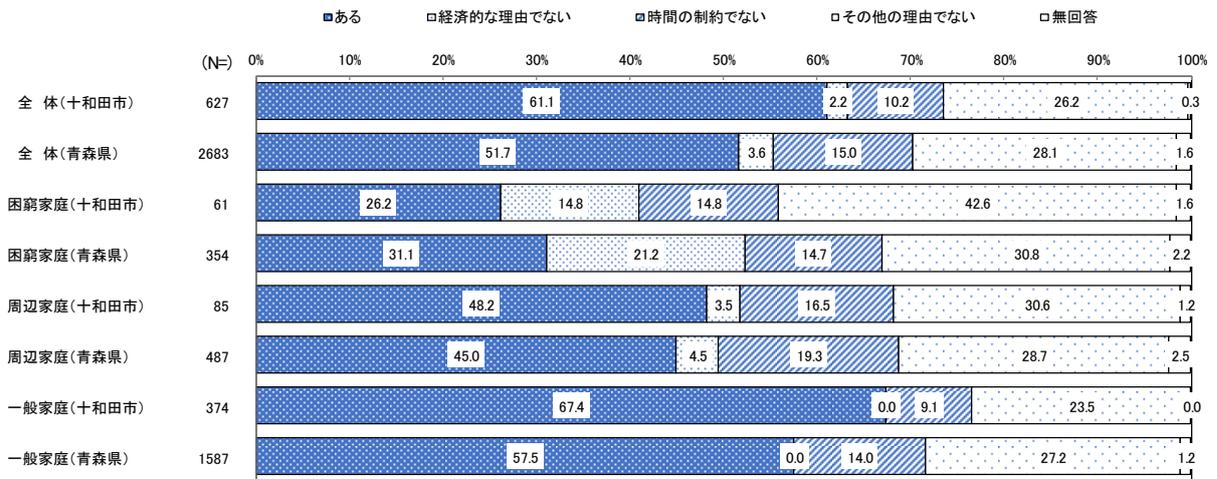
#### ①海水浴に行く



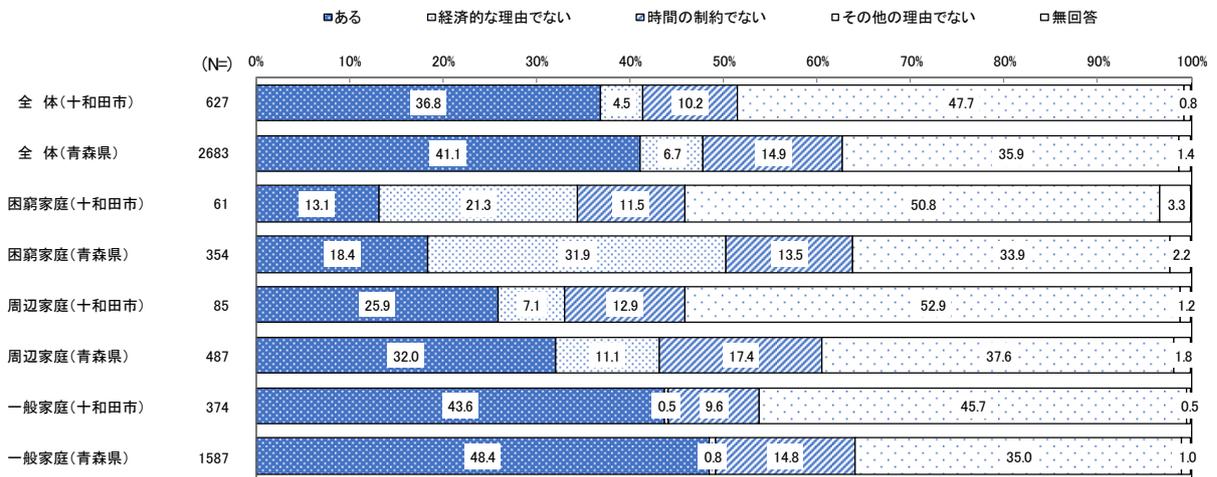
#### ②博物館・科学館・美術館などに行く



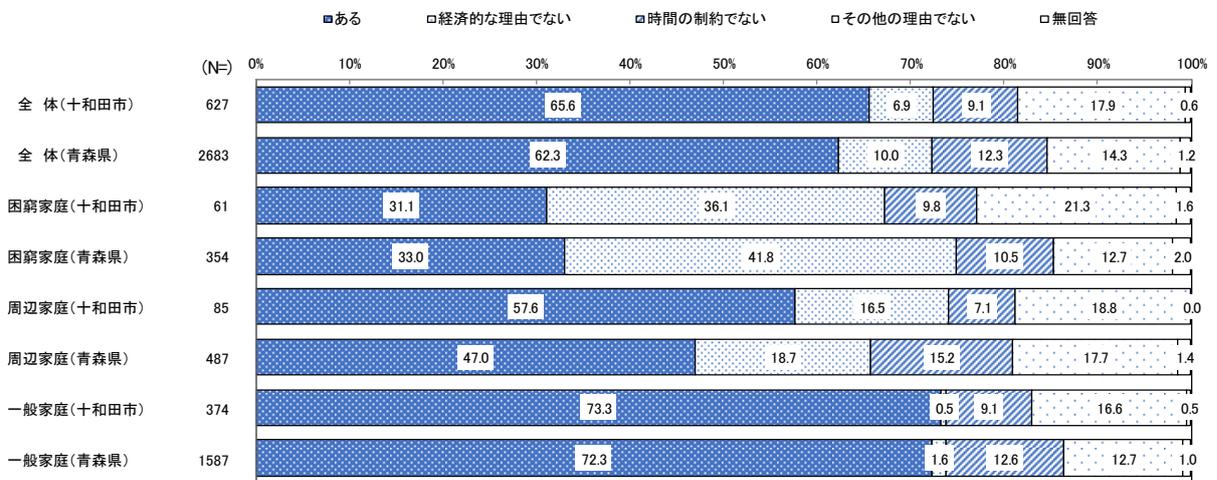
### ③キャンプやバーベキューに行く



### ④スポーツ観戦や観劇に行く



### ⑤遊園地やテーマパークに行く

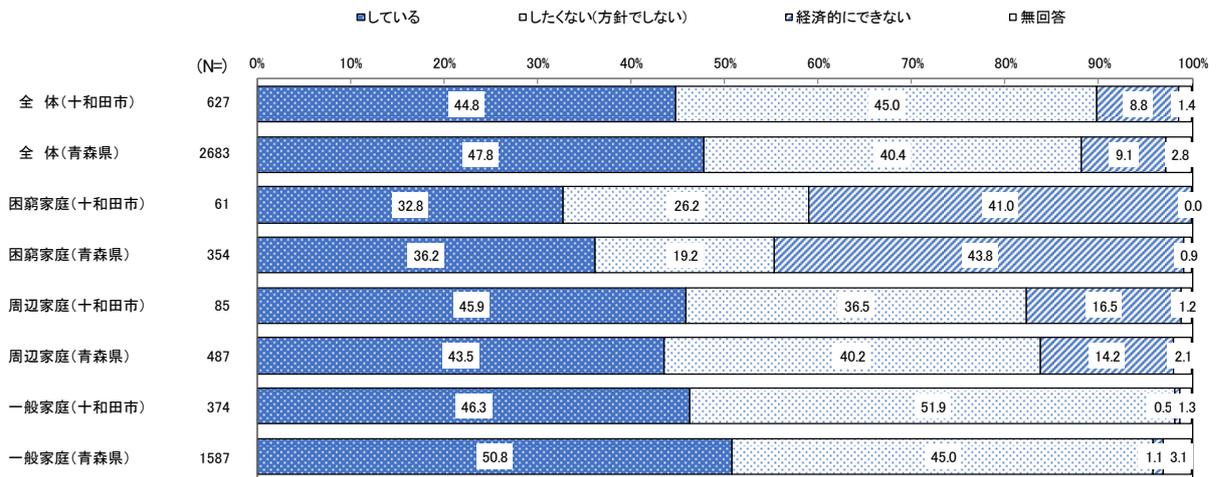


問 10 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

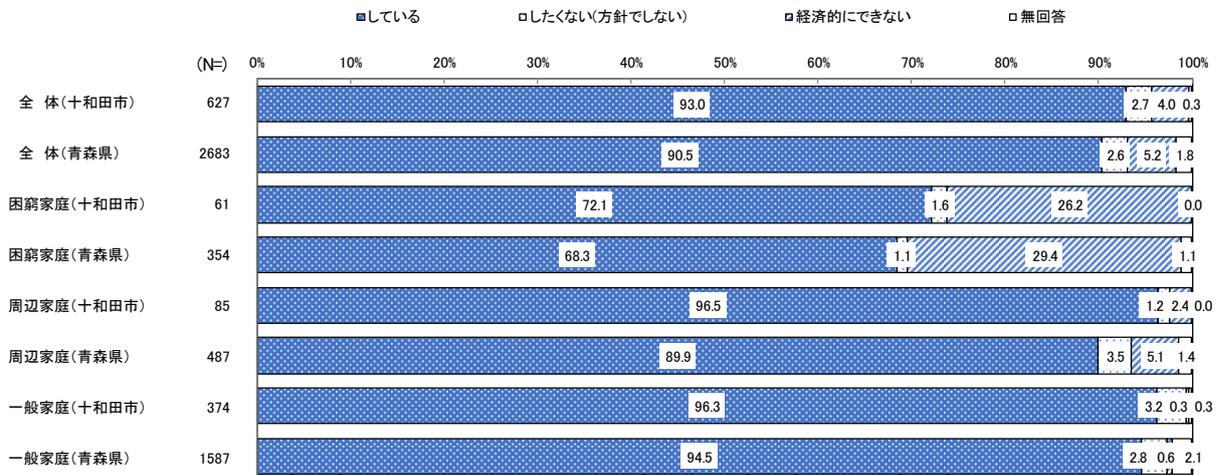
### 【青森県との比較】

子どもに対する支出について全体で見ると、十和田市は青森県と同様に、「①毎月お小遣いを渡す」、「④学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」を除くすべての項目で「している」が『していない(したくない(方針でしない) + 経済的にできない)』を上回っている。なお、「経済的にできない」の割合は、十和田市は青森県と同様に、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られ、「困窮家庭」では、「④学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」、「⑥1年に1回程度家族旅行に行く」では、ともに7割以上となった。

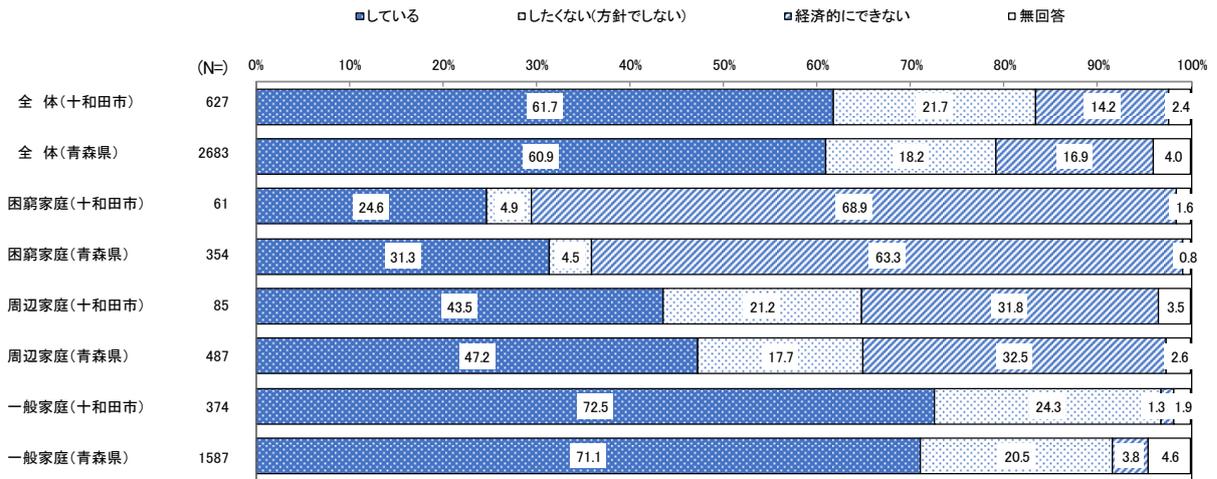
#### ①毎月お小遣いを渡す



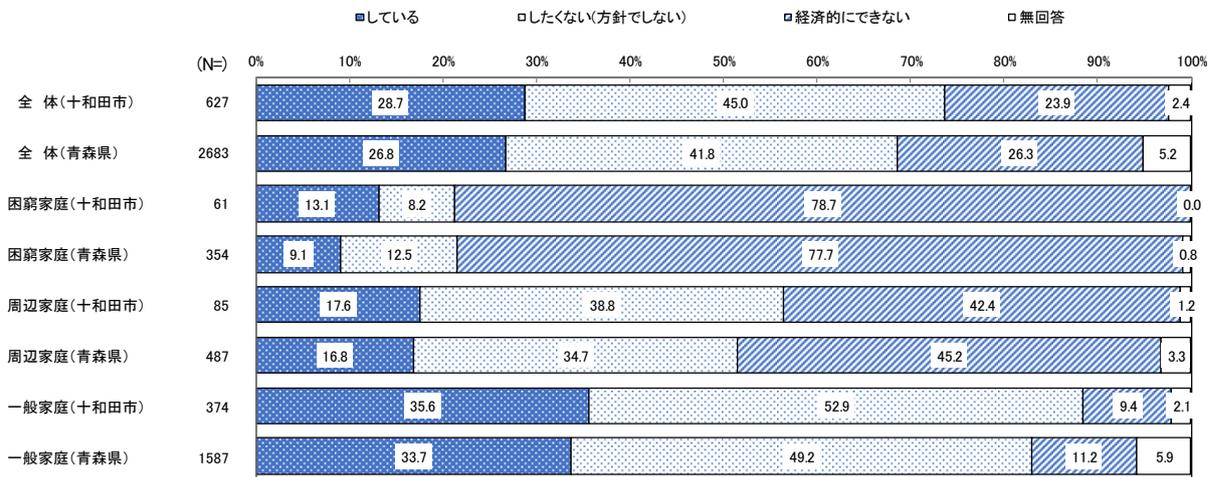
#### ②毎年新しい洋服・靴を買う



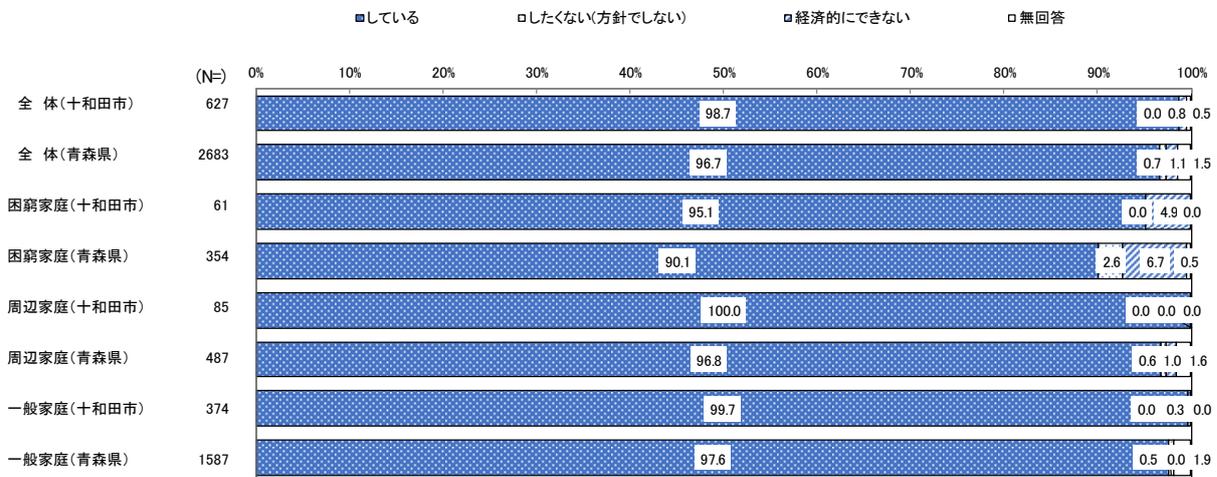
### ③習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる



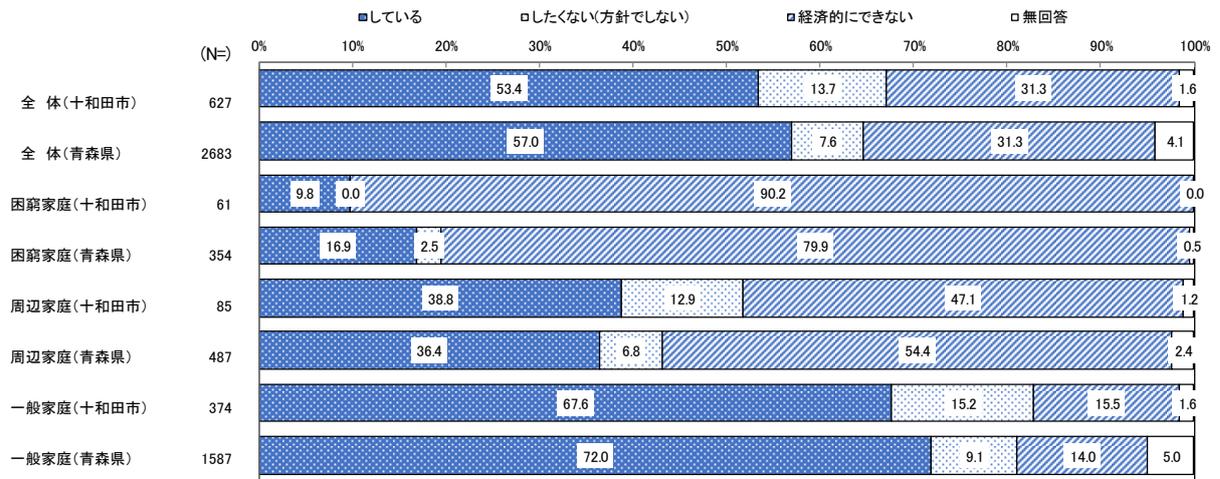
### ④学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)



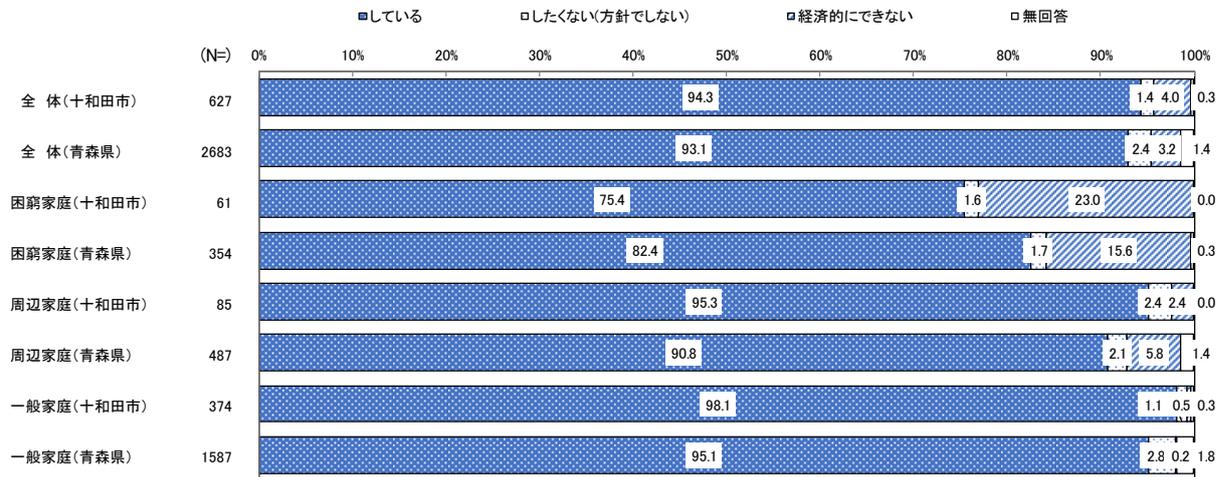
### ⑤誕生日のお祝いをする



### ⑥1年に1回程度家族旅行に行く



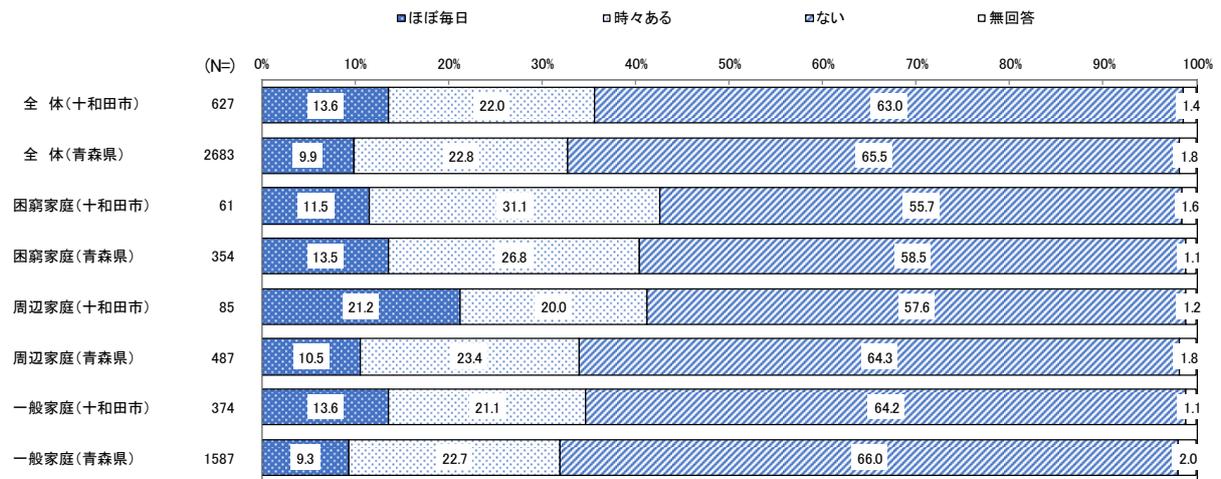
### ⑦クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる



問 11 あなたのご家庭では、平日の夕方から夜の時間帯に、お子さんだけで過ごすことがありますか。  
 (あてはまる番号1つに○)

【青森県との比較】

平日の夕方から夜の時間帯に、子どもだけで過ごすことが『ある(ほぼ毎日 + 時々ある)』割合は、すべての属性で十和田市が青森県を上回っている。なお、「ほぼ毎日」の割合は、十和田市ではすべての属性で1割以上となっており、「周辺家庭」で唯一2割台となっている。



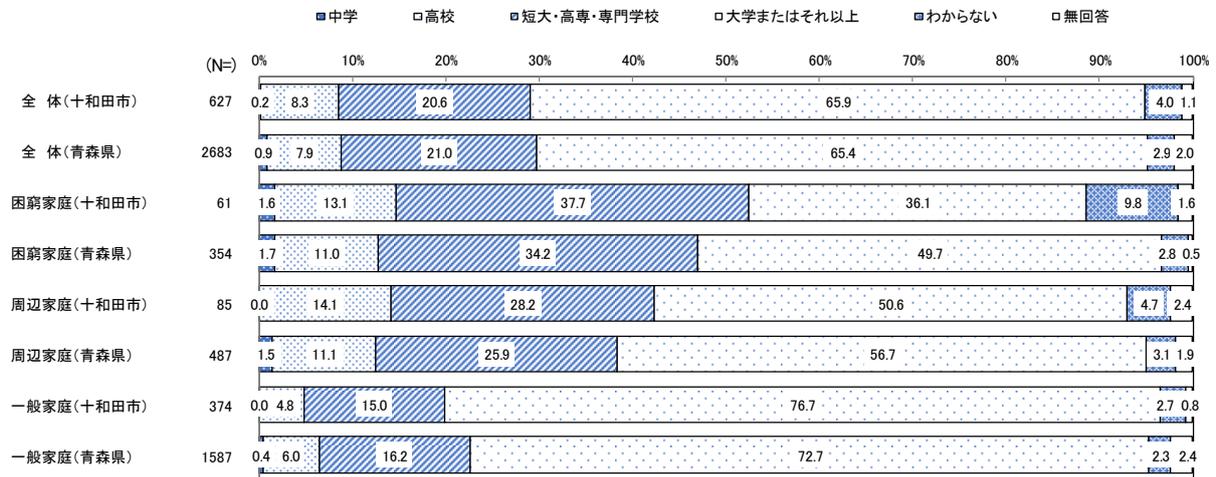
問 12 あなたは、お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

### 【青森県との比較】

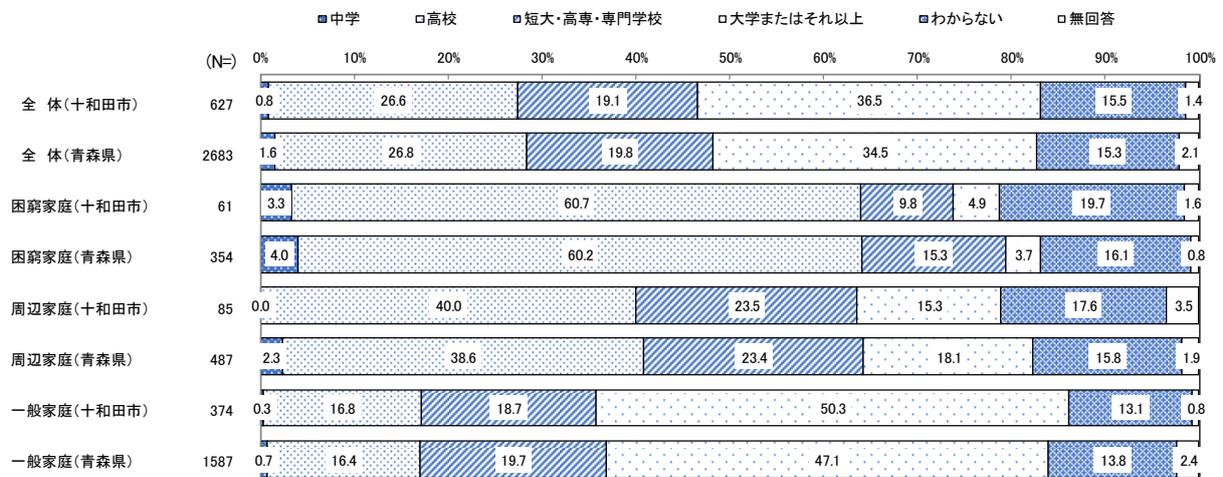
理想的な教育段階は、十和田市の「困窮家庭」では「短大・高専・専門学校」が最も高く、「周辺家庭」、「一般家庭」では「大学またはそれ以上」が最も高くなっている。また、「大学またはそれ以上」の割合は、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて減少する傾向が見られた。

現実的な教育段階は、十和田市は青森県と同様に、「一般家庭」では「大学またはそれ以上」が最も高いが、「困窮家庭」、「周辺家庭」では「高校」が最も高くなっている。

#### ①理想的な教育段階



#### ②現実的な教育段階

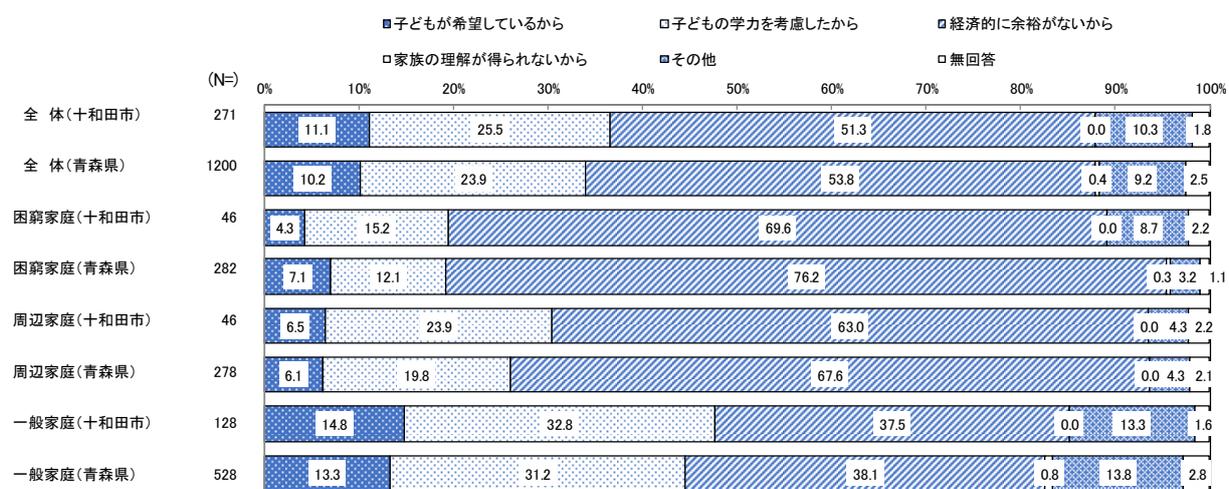


問 12 で理想と現実的な教育段階に違いがある方におうかがいします。

問 12-1 あなたが、そのように考えた理由を選んでください。(あてはまる番号1つに○)

### 【青森県との比較】

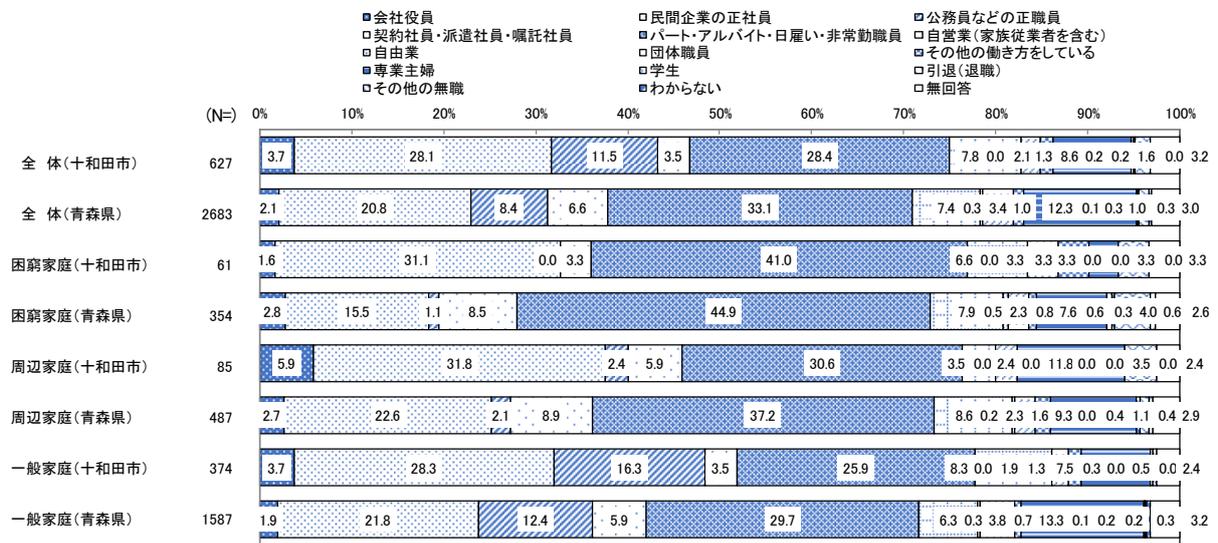
子どもの教育段階において理想と現実の違いがある理由は、十和田市は青森県と同様にすべての属性で「経済的に余裕がないから」が最も高くなっており、その割合は「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。



問 13 お子さんのお母さまの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。(あてはまる番号1つに○)  
 ※お子さんにお母さまがいらっしゃらない場合は、問 15 にお進みください。

【青森県との比較】

母親の職業は、十和田市は「周辺家庭」、「一般家庭」では「民間企業の正社員」が最も高くなっており、「困窮家庭」では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が最も高くなっている。なお、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が増加する傾向が見られた。



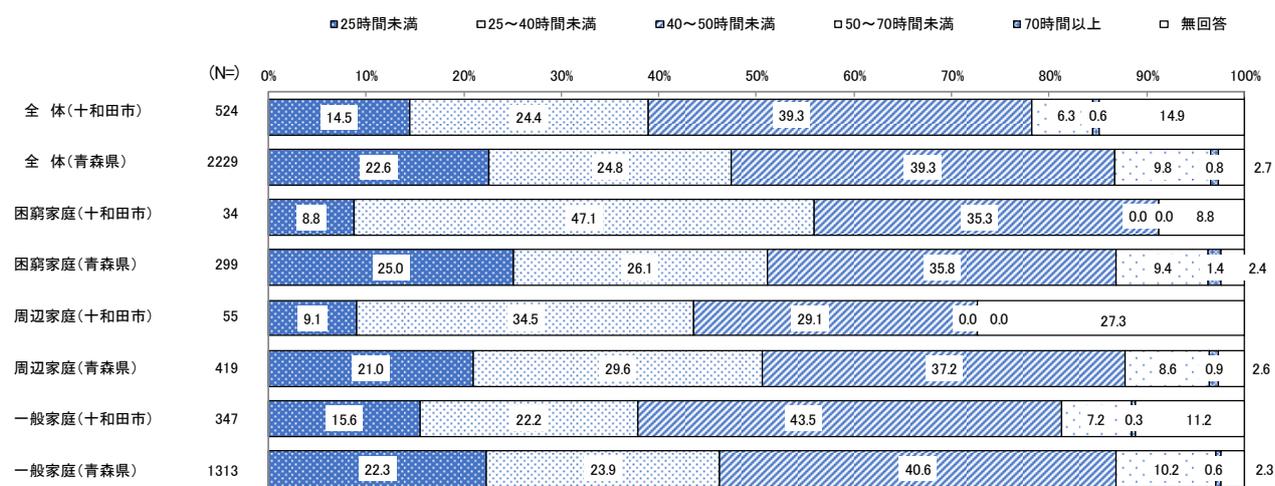
※選択肢「わからない」は青森県調査にのみ設けられているため、十和田市の値は0.0%となる。

問 13 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。

問 13-1 お子さんのお母さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。

### 【青森県との比較】

母親の仕事時間は、青森県では、すべての属性で「40 時間～50 時間未満」が最も高いが、十和田市は「一般家庭」では「40～50 時間未満」が最も高く、「困窮家庭」、「周辺家庭」では、「25～40 時間未満」が最も高くなっている。

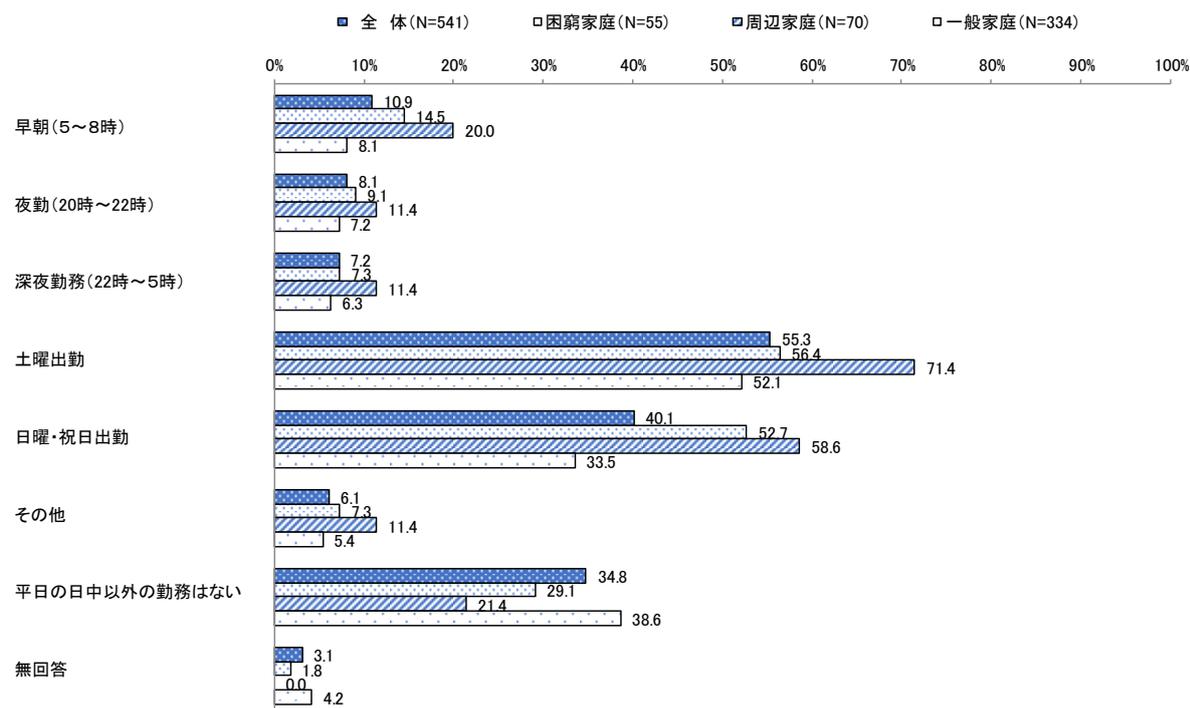


問 13 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。

問 13-2 お子さんのお母さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

### 【十和田市の集計結果】

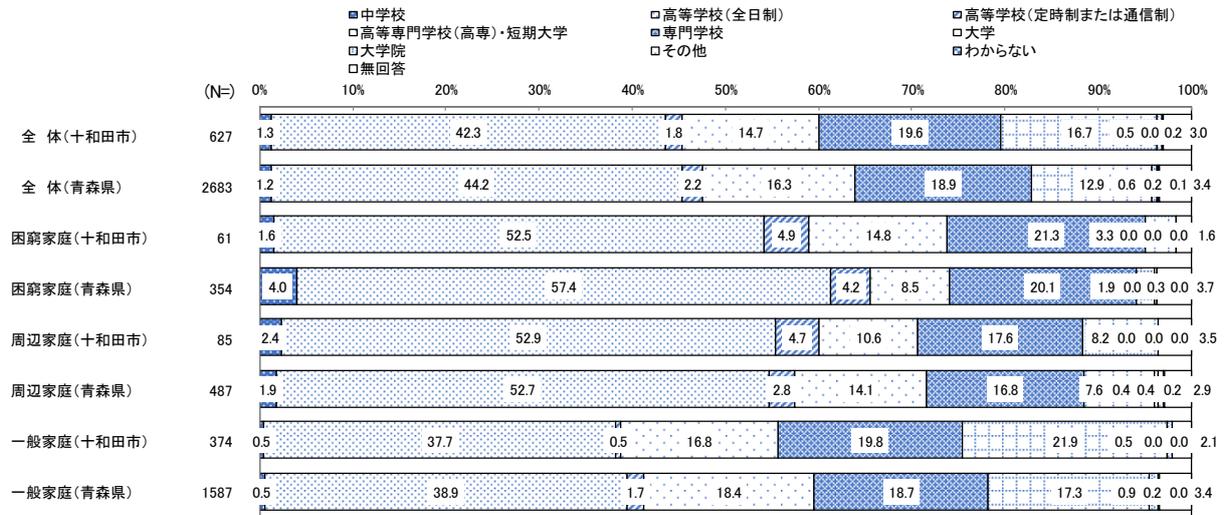
母親の平日日中以外の勤務の有無は、すべての属性で「土曜出勤」が最も高く、「周辺家庭」で7割を上回った。なお「平日の日中以外の勤務はない」は、「一般家庭」で最も高かった。



問 14 お子さんのお母さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(あてはまる番号1つに○)

【青森県との比較】

母親が最後に通った学校は、十和田市は青森県と同様にすべての属性で「高等学校(全日制)」が最も高く、「困窮家庭」、「周辺家庭」ではともに5割台となっている。また、「大学」の割合は、すべての属性で十和田市が青森県を上回っている。

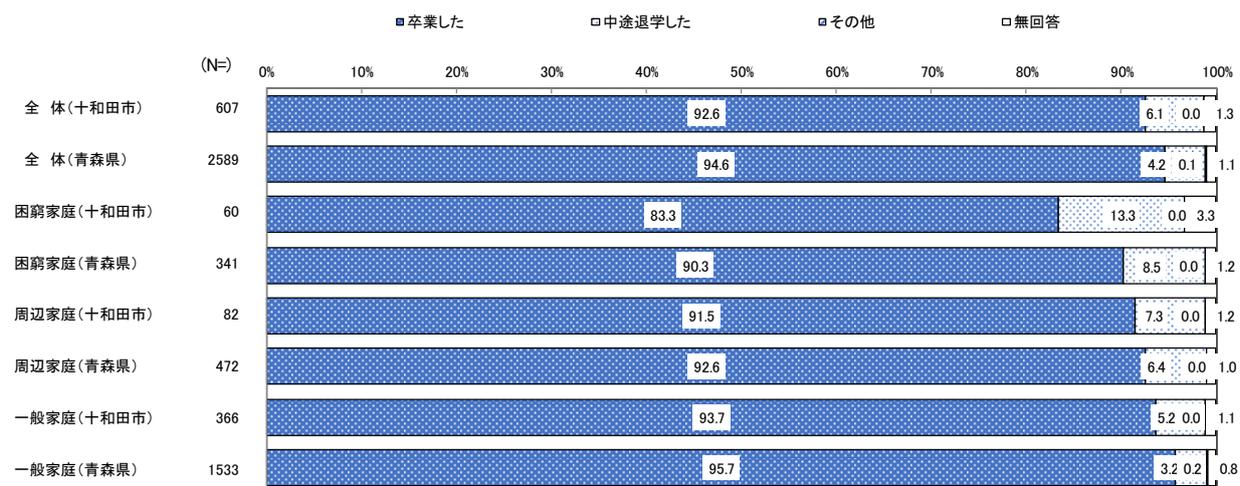


問 14 で「1」～「8」を選んだ方におうかがいします。

問 14-1 お子さんのお母さまは、問 14 で答えた学校を卒業されましたか。(あてはまる番号1つに○)

### 【青森県との比較】

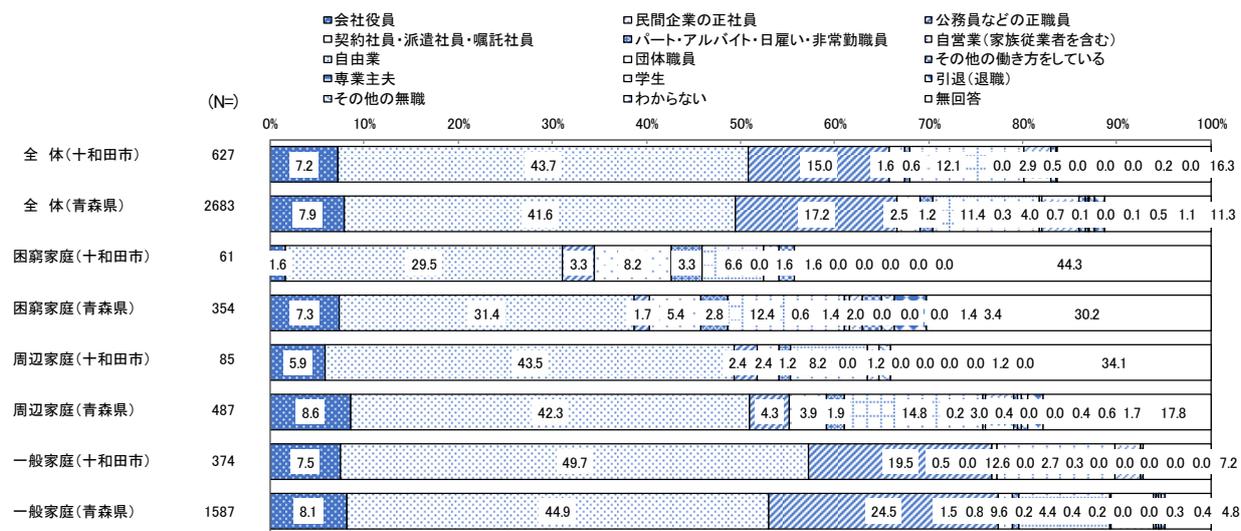
母親が最後に通った学校の卒業可否は、十和田市の「困窮家庭」において「中途退学した」の割合が1割を上回っている。



問 15 お子さんのお父さまの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。(あてはまる番号1つに○)  
 ※お子さんにお父さまがいらっしゃらない場合は、問 17 にお進みください。

【青森県との比較】

父親の職業は、十和田市は青森県と同様にすべての属性で「民間企業の正社員」の割合が最も高くなっているが、「困窮家庭」においてその割合が青森県を下回っている。



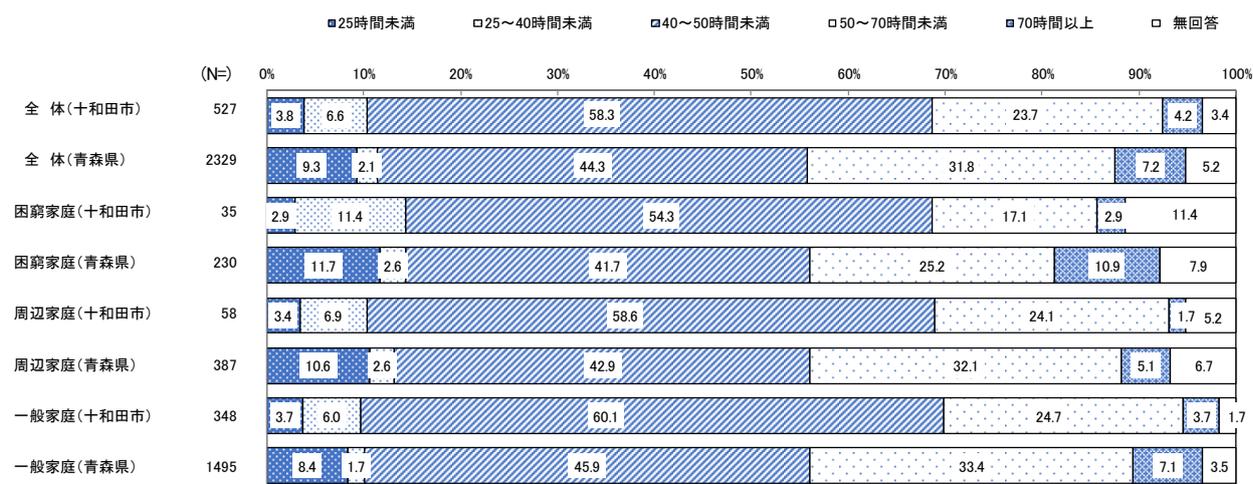
※選択肢「わからない」は青森県調査にのみ設けられているため、十和田市の値は0.0%となる。

問 15 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。

問 15-1 お子さんのお父さまは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。

### 【青森県との比較】

父親の仕事時間は、十和田市は青森県と同様にすべての属性で「40～50 時間未満」の割合が最も高くなっており、各属性の「40～50 時間未満」の割合は、十和田市が青森県を上回っている。

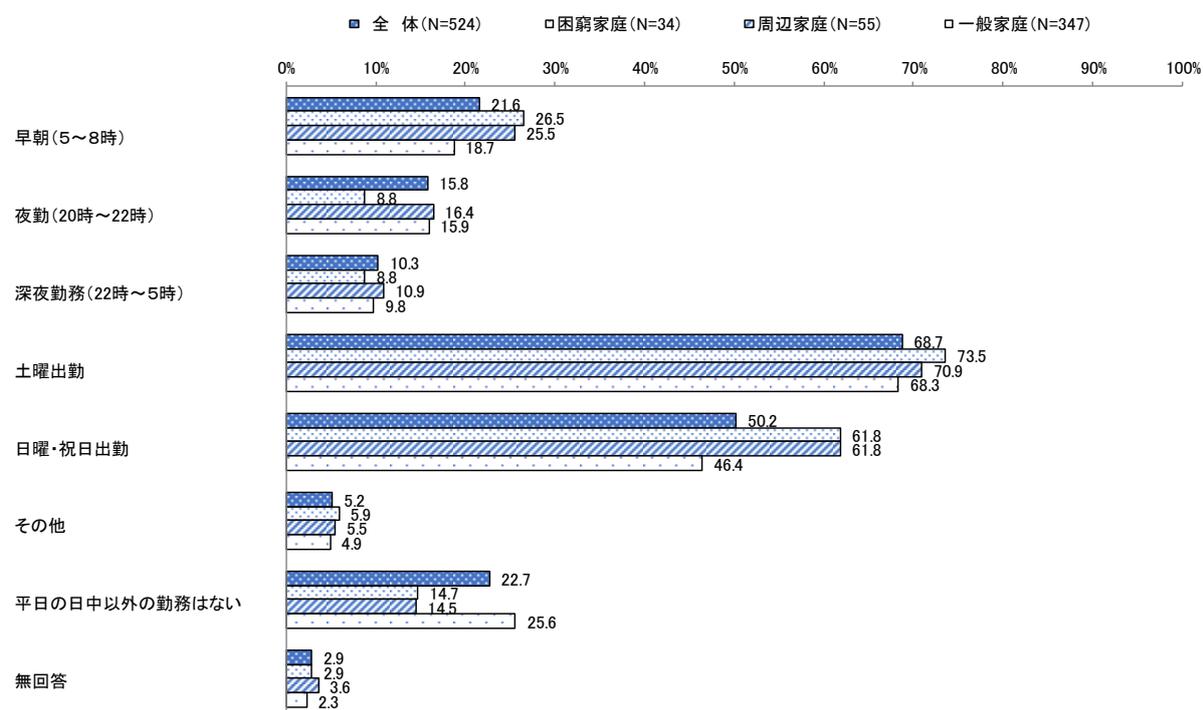


問 15 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。

問 15-2 お子さんのお父さまは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

### 【十和田市の集計結果】

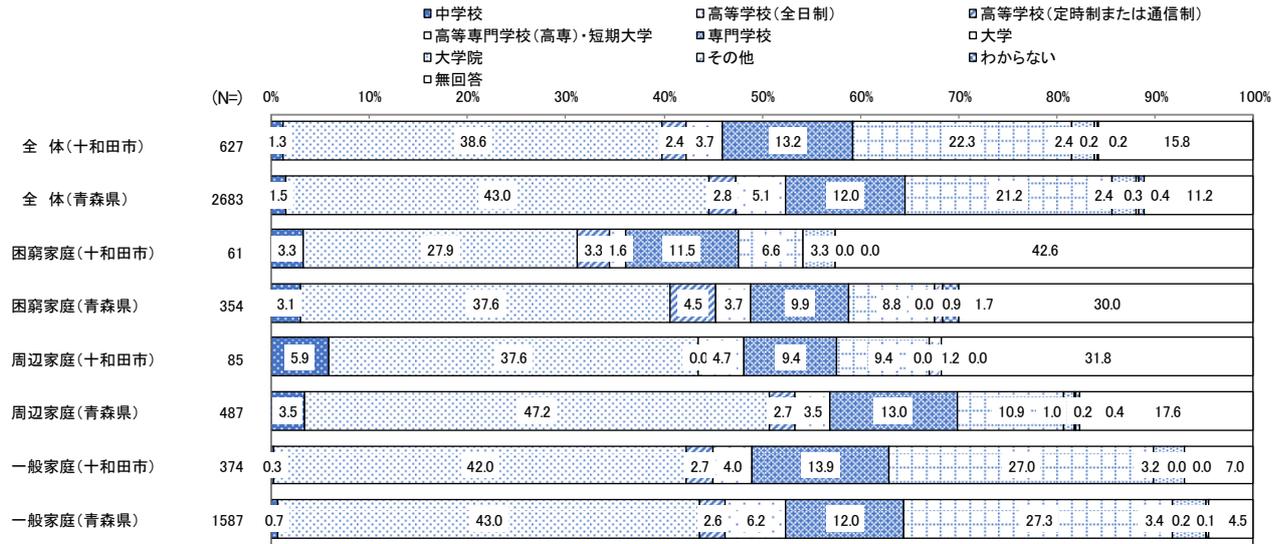
父親の平日日中以外の勤務の有無は、すべての属性で「土曜出勤」が最も高く、「困窮家庭」と「周辺家庭」で7割を上回った。なお「困窮家庭」と「周辺家庭」では「日曜・祝日出勤」も6割を上回った。



問 16 お子さんのお父さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(あてはまる番号1つに○)

【青森県との比較】

父親が最後に通った学校は、十和田市は青森県と同様に「高等学校(全日制)」が最も高くなっている。また、「大学」の割合は、「困窮家庭」と「周辺家庭」で十和田市が青森県を下回っている。

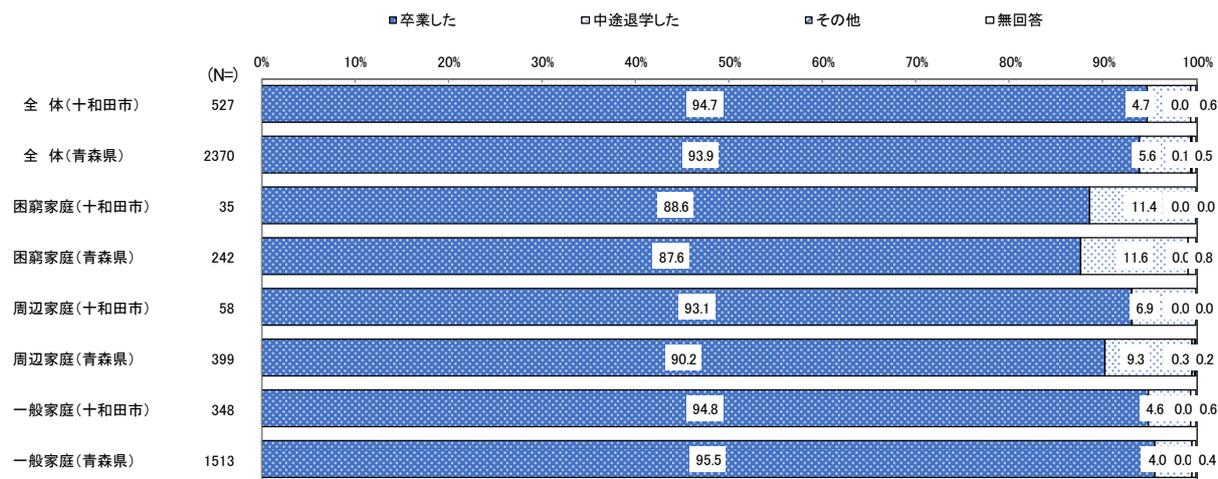


問 16 で「1」～「8」を選んだ方におうかがいします。

問 16-1 お子さんのお父さまは、問 16 で答えた学校を卒業されましたか。(あてはまる番号1つに○)

### 【青森県との比較】

父親が最後に通った学校の卒業可否は、十和田市は青森県と同様に「困窮家庭」において「中途退学した」の割合が1割を上回っている。

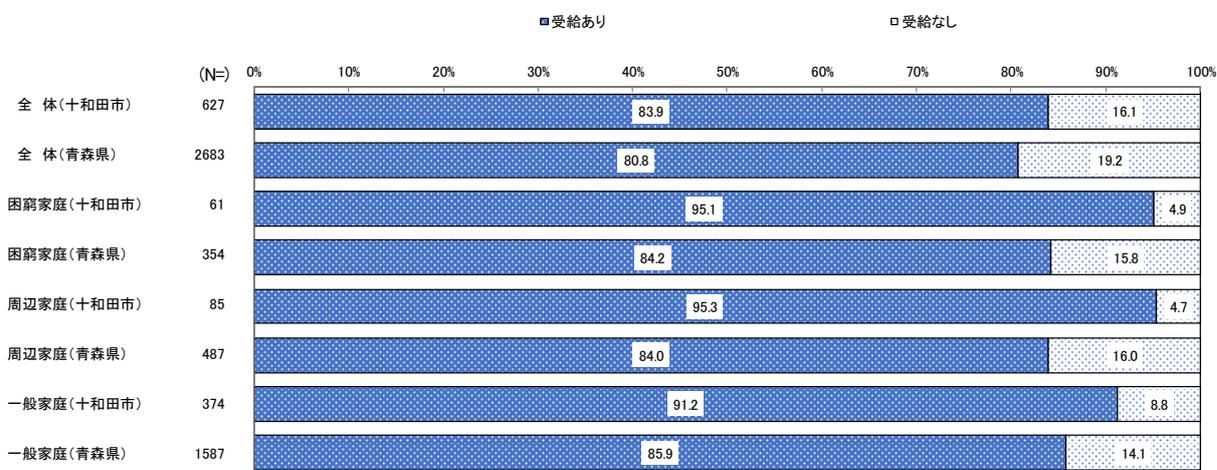


問 17 あなたの世帯で、次のような手当、公的年金、社会保障給付金の受給額はいくらですか。  
 ※受給額が1円以上の回答者を「受給あり」、受給額が0円または無回答の回答者を「受給なし」として集計。

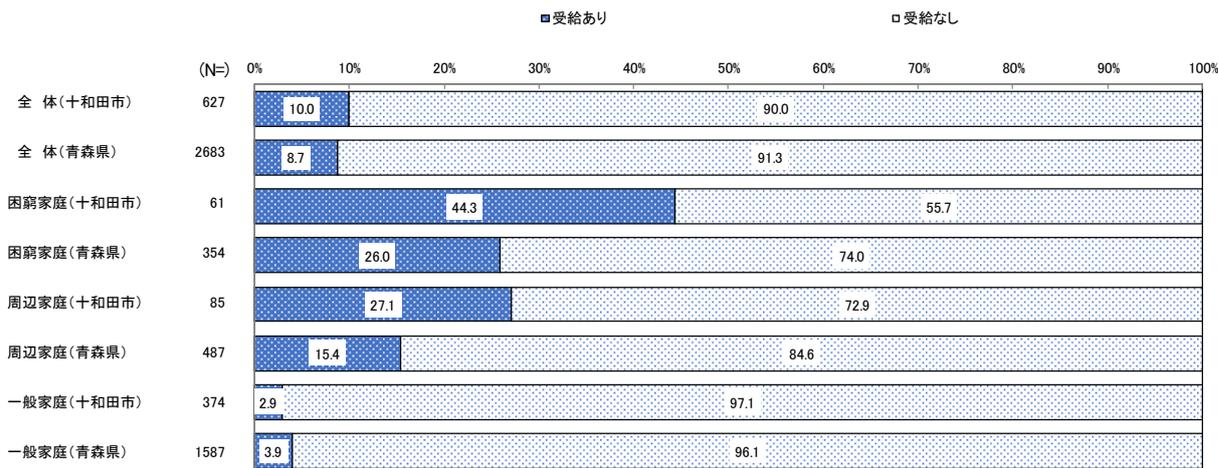
## 【青森県との比較】

手当等の受給有無は、十和田市は「①児童手当」「②児童扶養手当」において、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「受給あり」の割合が増加する傾向が見られた。また、これら2つの手当において、「②児童扶養手当」の「一般家庭」を除き、十和田市は「受給あり」の割合が青森県を上回っている。

### ①児童手当



### ②児童扶養手当



### ③特別児童扶養手当



### ④年金（遺族年金、老齢年金など）



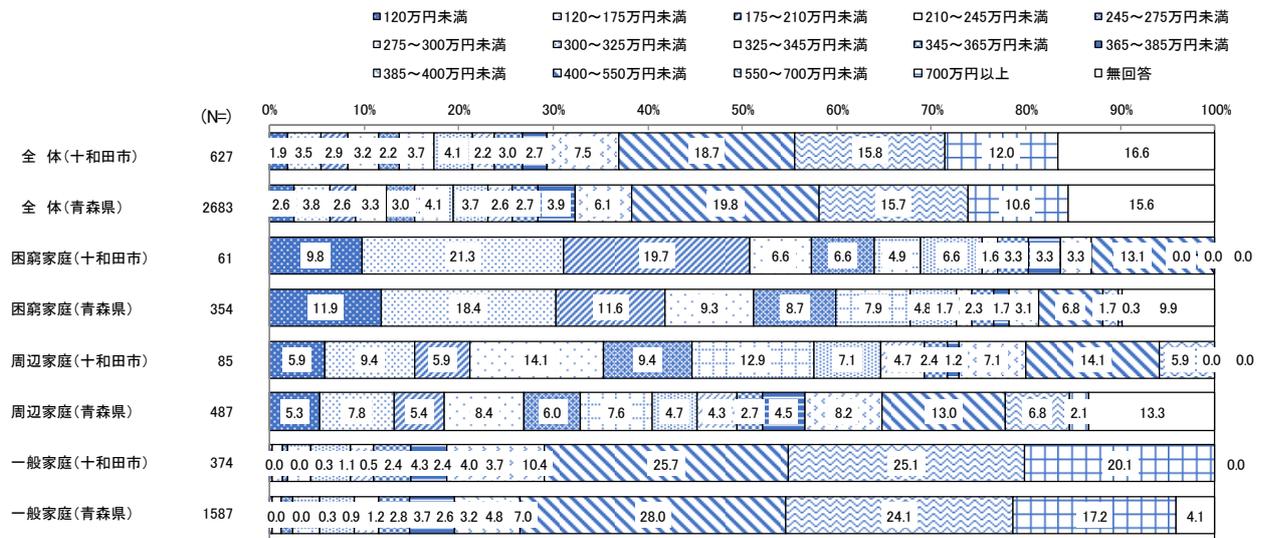
### ⑤生活保護



問 18 前年(2020年1月～12月)の世帯全体の可処分所得(手取り)総額は合計でおおよそいくらですか。就労による所得(会社員の方等は住民税を引く)に加え、問 17 で回答した手当・年金等の年額に、雇用保険等の支給額や親族等からの仕送りを足した金額でお答えください。(あてはまる番号1つに○)

### 【青森県との比較】

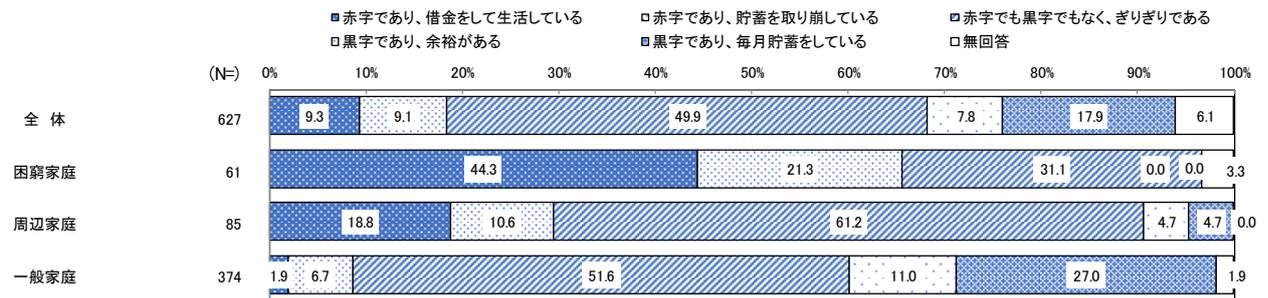
前年(2020年1月～12月)の世帯全体の可処分所得総額について、十和田市は青森県と同様に、「困窮家庭」では「120～175万円未満」が最も高く、「一般家庭」では「400～550万円未満」が最も高かった。



問 19 あなたのご家庭の家計について、最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

【十和田市の集計結果】

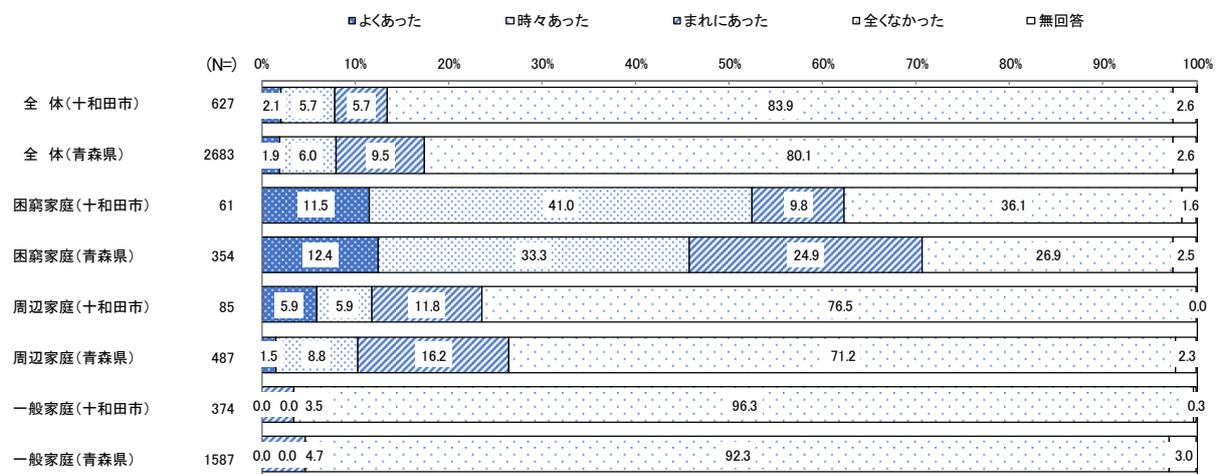
家計の状況については、『赤字(赤字であり、借金をして生活している + 赤字であり貯蓄を切り崩している)』の割合は、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向にあり、「一般家庭」では1割未満であるのに対し、「困窮家庭」では6割を上回っている。



問 20 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

### 【青森県との比較結果】

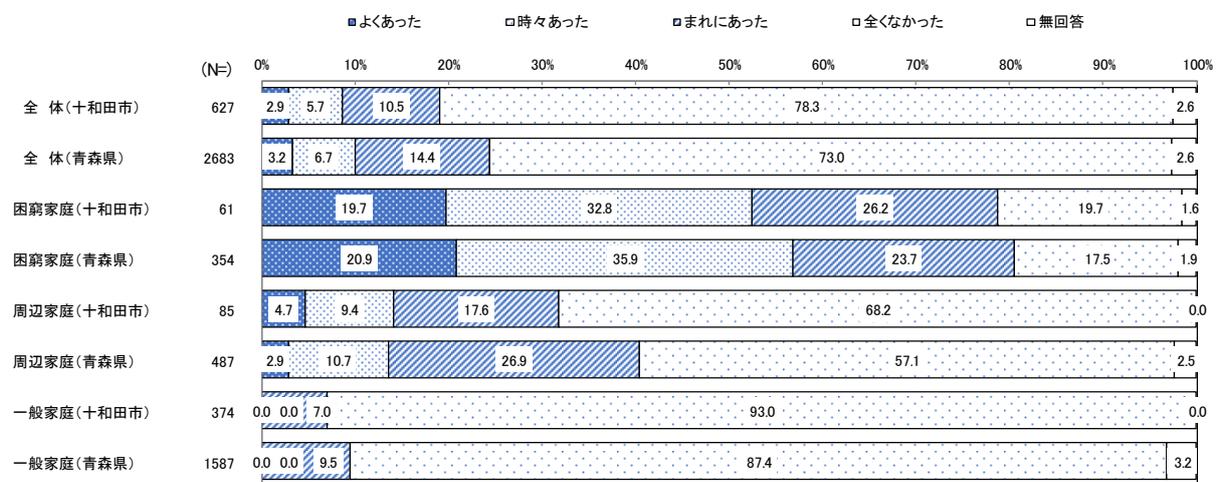
お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことの有無について、『あった(よくあった + 時々あった + まれにあった)』の割合は、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。十和田市の『あった』の割合は、すべての属性で青森県を下回ったが、「一般家庭」では1割未満であるのに対し、「困窮家庭」では6割を上回った。



問 21 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

### 【青森県との比較結果】

お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことの有無について、『あった(よくあった + 時々あった + まれにあった)』の割合は、食料と同じく、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて増加する傾向が見られた。十和田市の『あった』の割合は、すべての属性で青森県を下回ったが、「一般家庭」では1割未満であるのに対し、「困窮家庭」では約8割となり、食料よりも高くなっている。

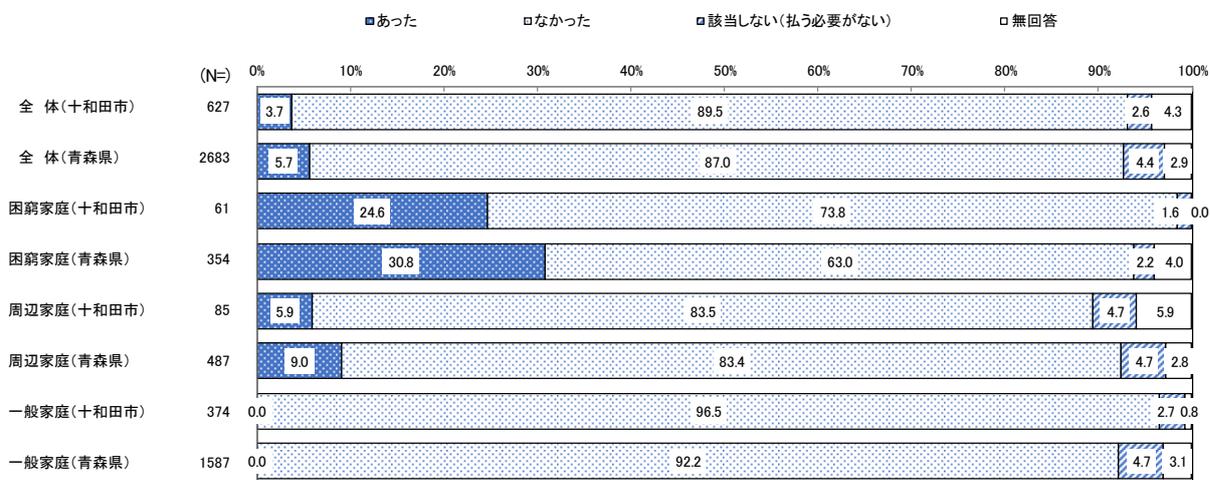


問 22 過去1年の間に、経済的な理由で、以下の①～⑦のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

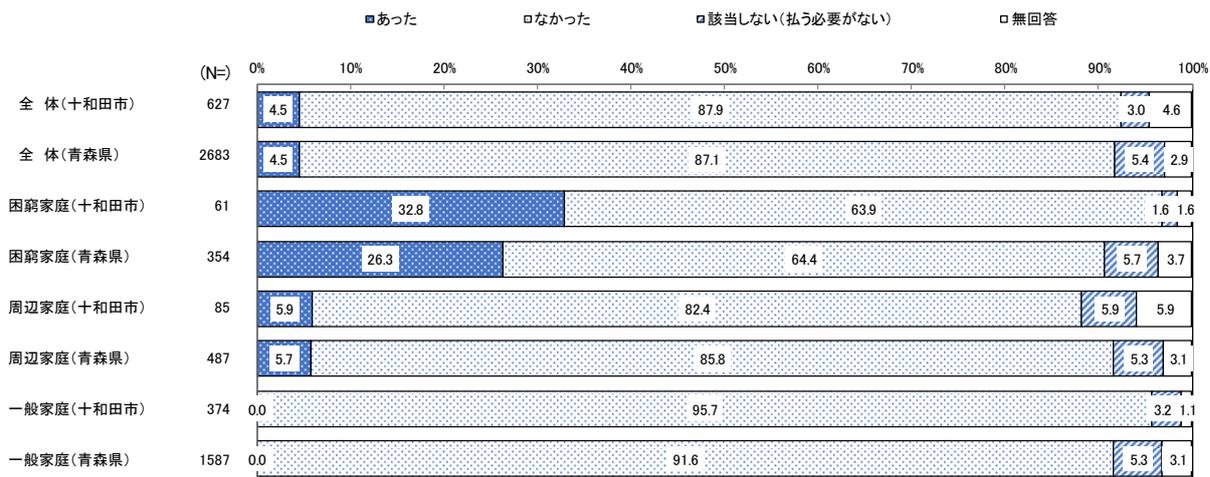
### 【青森県との比較結果】

経済的な理由でサービス・料金が支払えないことがあったかについて、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「あった」の割合が増加する傾向が見られた。「困窮家庭」では、「②電気料金」、「③ガス料金」、「④水道料金」で十和田市が青森県を上回っている。

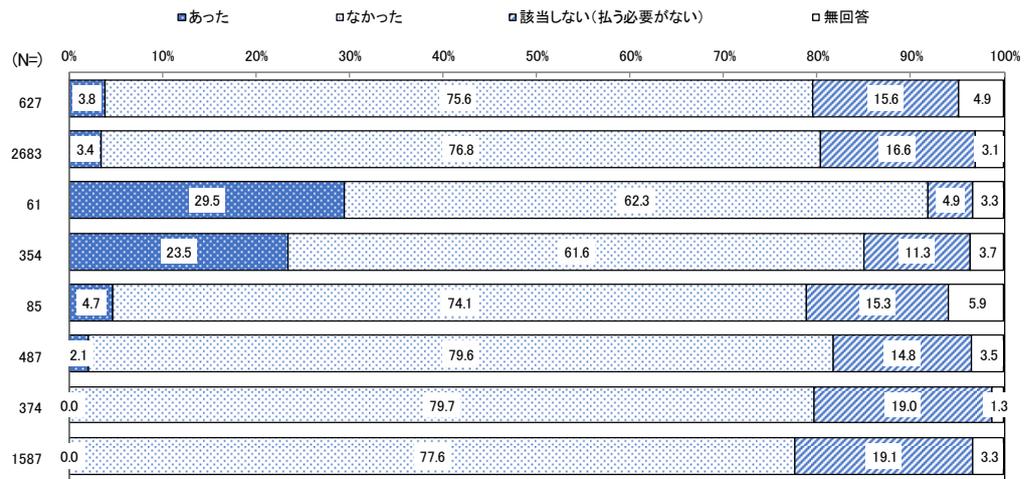
#### ①電話料金



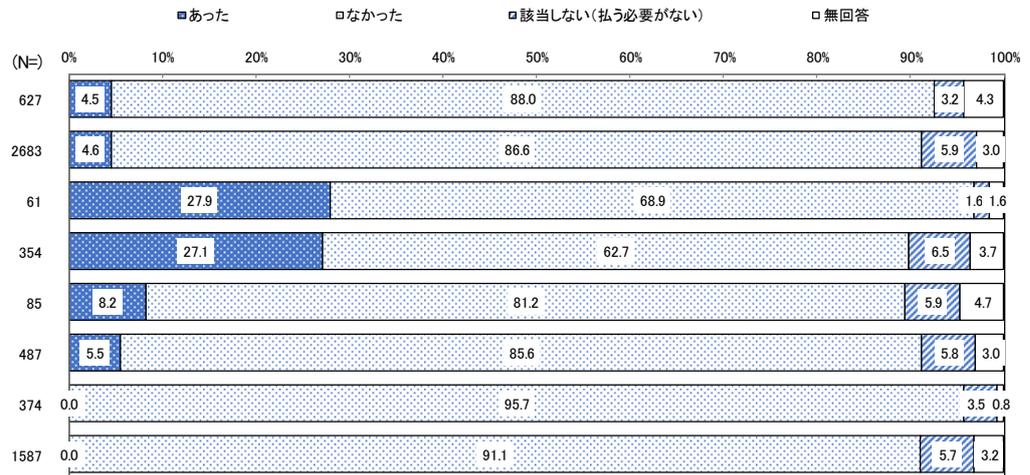
#### ②電気料金



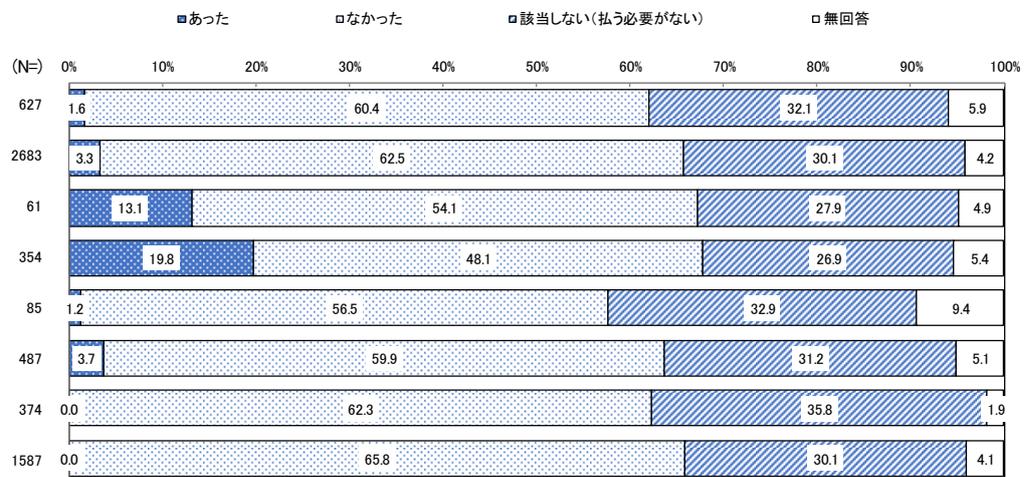
### ③ガス料金



### ④水道料金



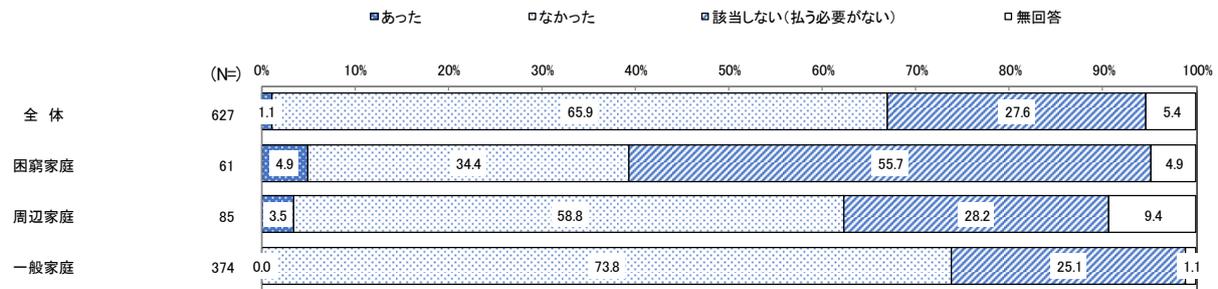
### ⑤家賃



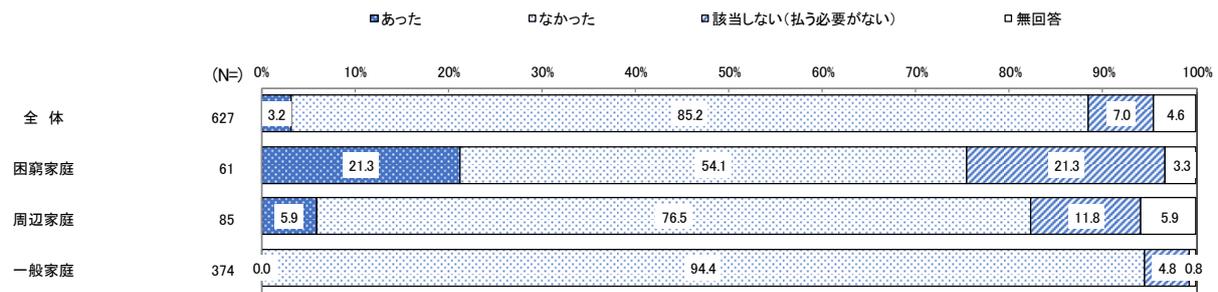
## 【十和田市の集計結果】

同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「あった」の割合が増加する傾向が見られた。「⑦給食費」の「あった」の割合は、「困窮家庭」では2割以上と、「周辺家庭」、「一般家庭」よりも10ポイント以上高くなった。

### ⑥住宅ローン



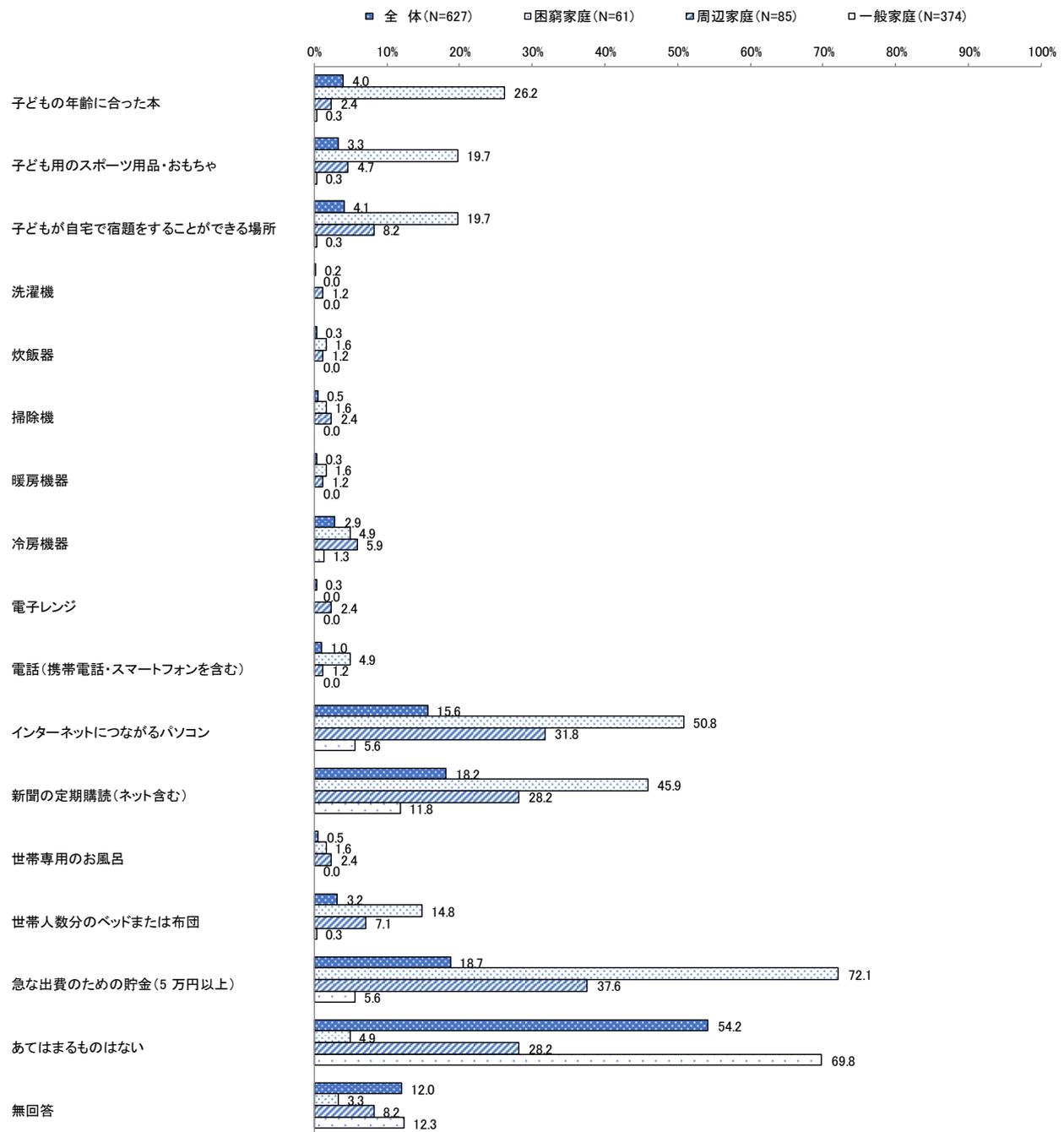
### ⑦給食費



問 23 次のもののうち、経済的理由のために、あなたの世帯にないものはありますか。  
 (あてはまる番号すべてに○)

### 【十和田市の集計結果】

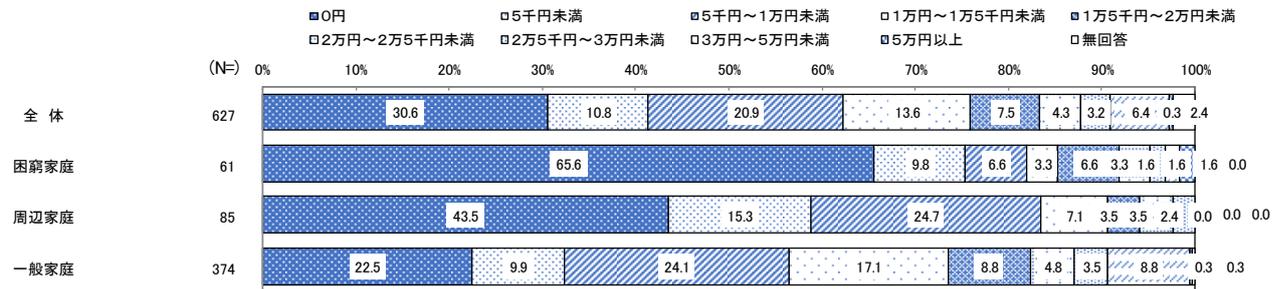
経済的理由のために世帯にないものは、「一般家庭」では「あてはまるものはない」が最も高く、「周辺家庭」と「困窮家庭」では「急な出費のための貯金(5万円以上)」が最も高くなっており、「困窮家庭」では、その割合が7割を上回った。



問 24 このアンケート調査の対象となっているお子さんについて、学校以外の教育(学習塾や習い事)にかける1か月あたりの平均の支出はどれくらいですか。該当する金額に○をつけてください。  
(あてはまる番号1つに○)

### 【十和田市の集計結果】

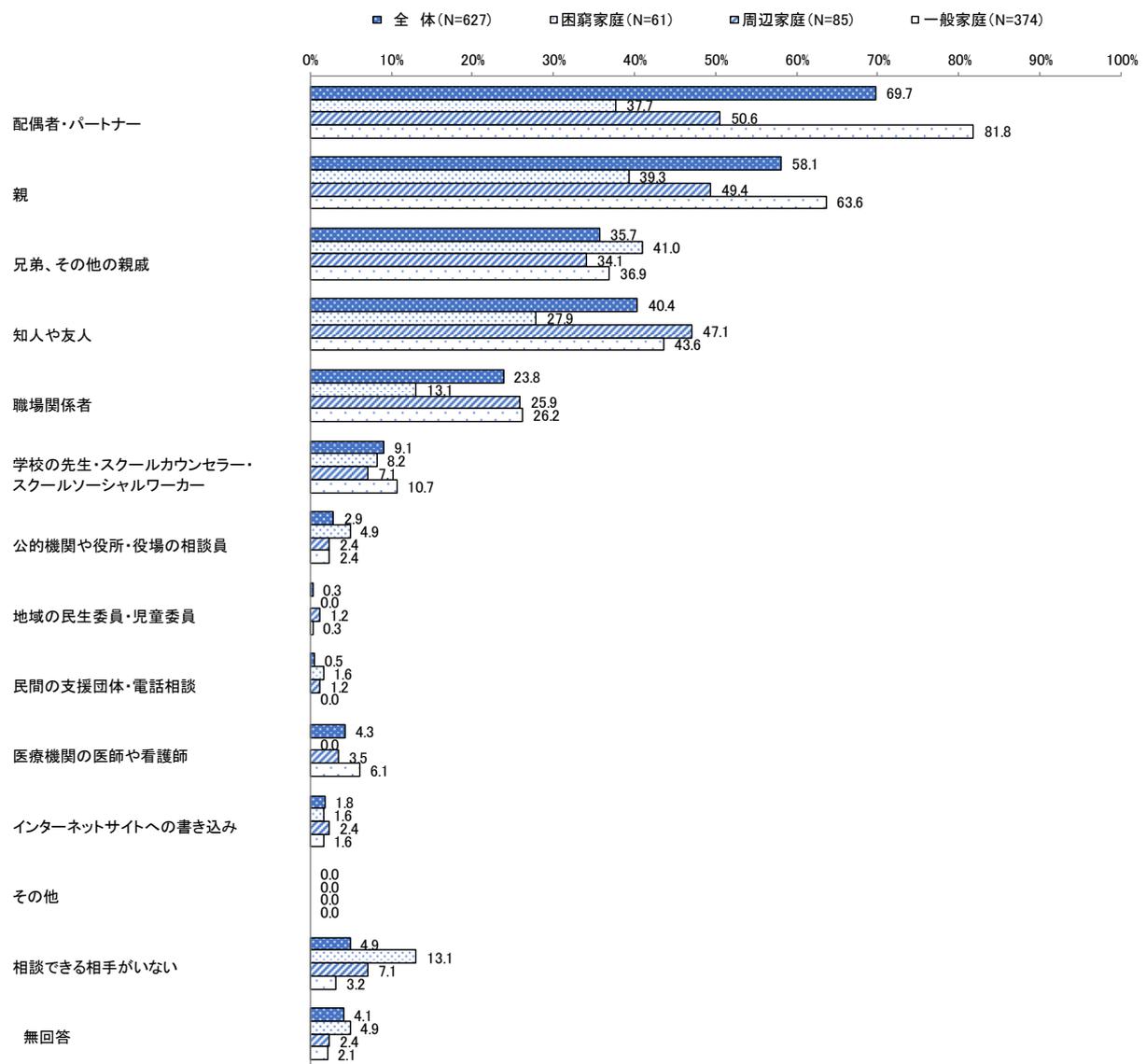
学校以外の教育にかける1か月あたりの平均支出について、「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「0円」の割合が増加する傾向が見られた。なお、「一般家庭」では、「5千円～1万円未満」が最も高くなった。



問 25 あなたが本当に困った時や悩みがある時に、相談する相手や相談先はどこですか。  
(あてはまる番号すべてに○)

### 【十和田市の集計結果】

困った時や悩みがある時に、相談する相手や相談先は、「周辺家庭」と「一般家庭」では「配偶者・パートナー」が最も高く、「困窮家庭」では「兄弟、その他の親戚」が最も高かった。なお「困窮家庭」では「相談できる相手がいない」が1割を上回った。

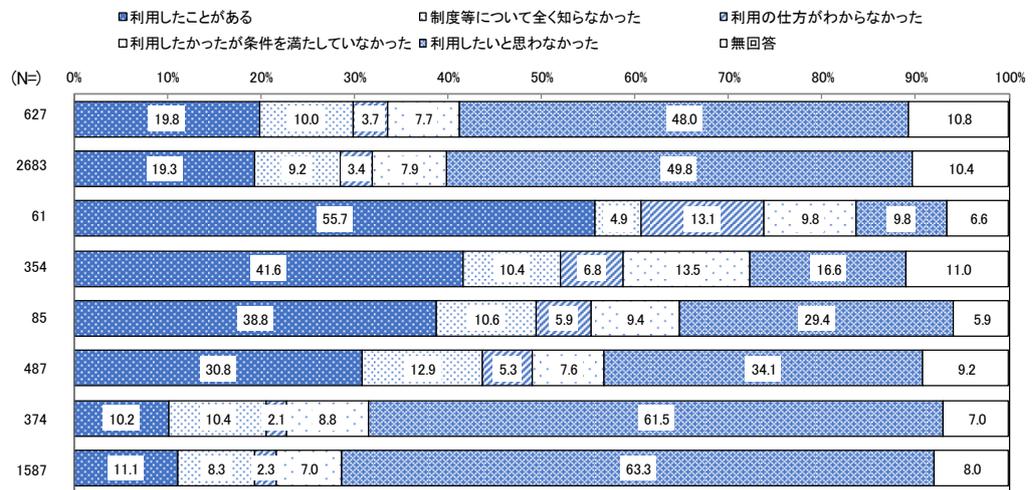


問 26 次の①～⑤の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

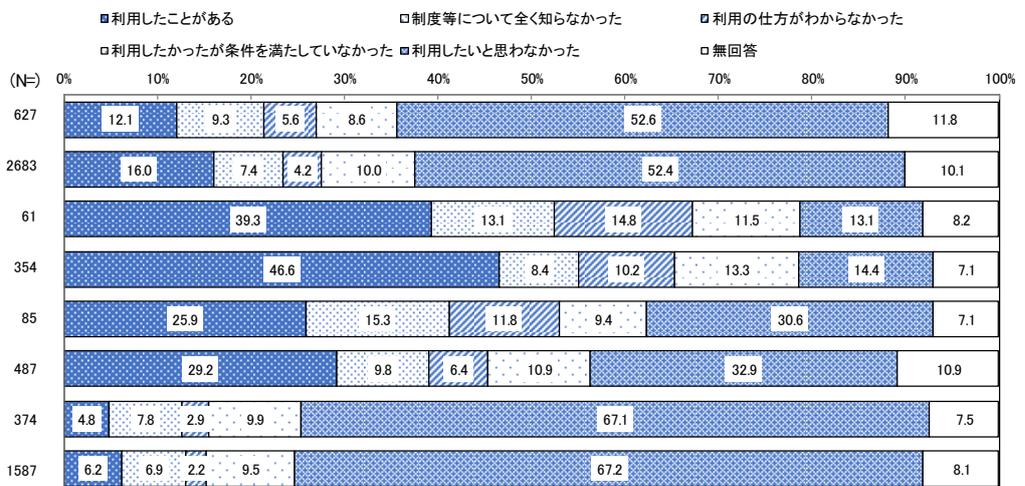
### 【青森県との比較結果】

支援制度等(手当・補助金等)の利用有無について、十和田市は青森県と同様に「一般家庭」から「困窮家庭」にかけて「利用したことがある」の割合が増加する傾向が見られた。「①児童扶養手当」を「利用したことがある」割合は、十和田市の「困窮家庭」が青森県の「困窮家庭」よりも10ポイント以上高く、5割を上回った。なお、「制度等について全く知らなかった」の割合は、十和田市の「困窮家庭」、「周辺家庭」では、「④母子父子寡婦福祉資金貸付金」と「⑤生活福祉資金貸付金」でともに2割台と、他の項目より高くなっている。

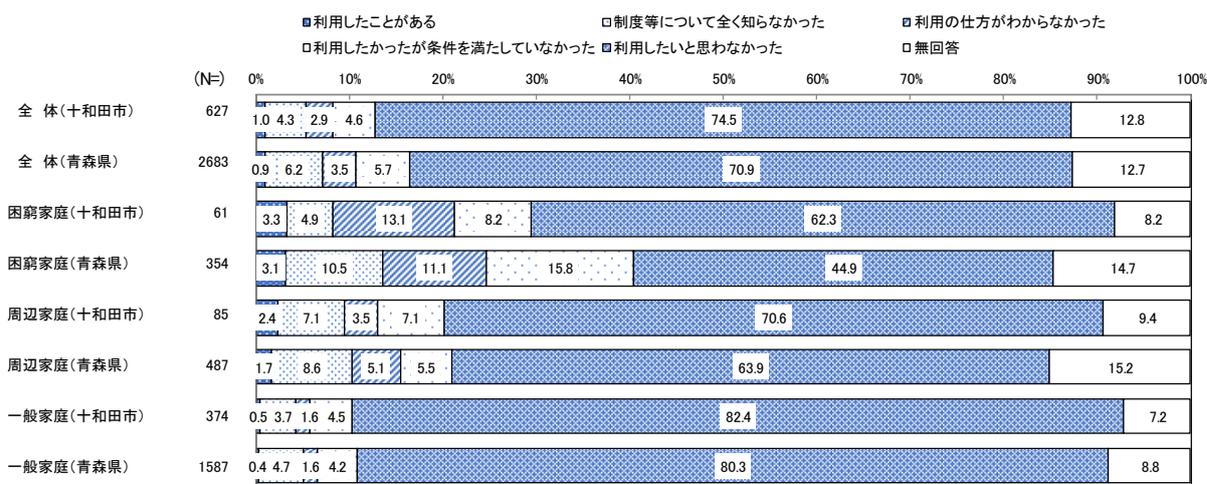
#### ①児童扶養手当



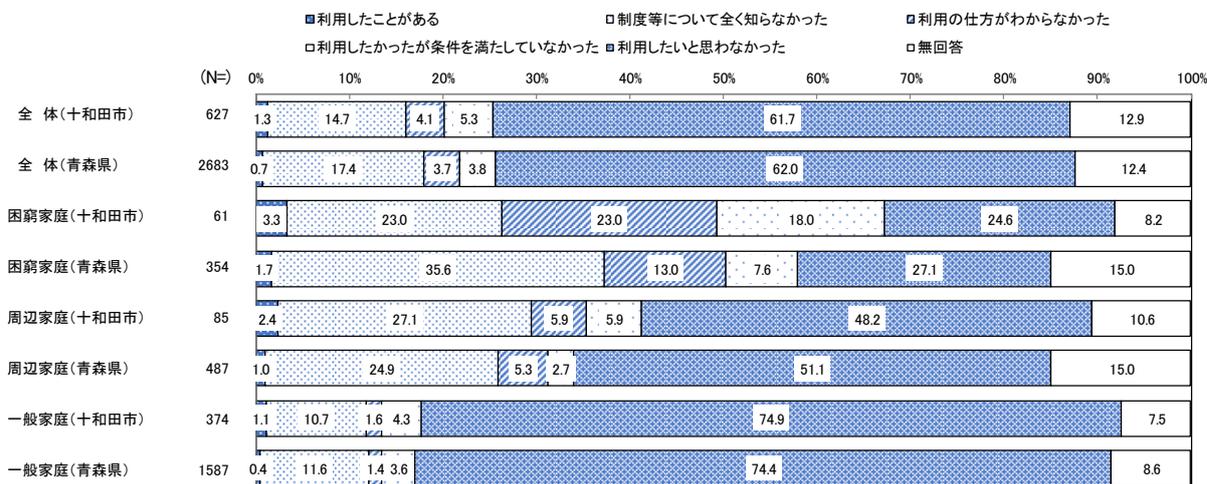
#### ②就学援助



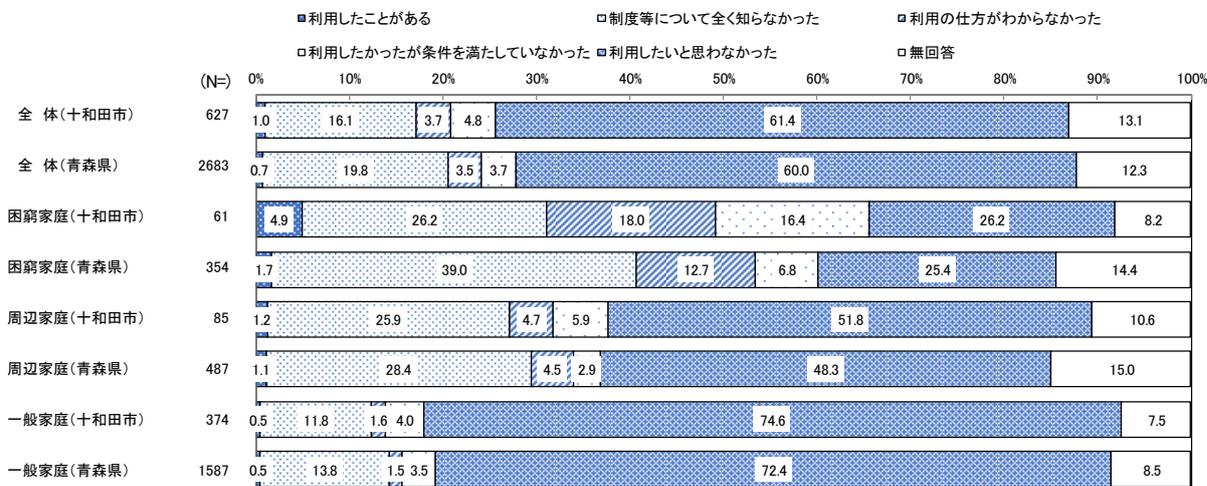
### ③生活保護



### ④母子父子寡婦福祉資金貸付金



### ⑤生活福祉資金貸付金

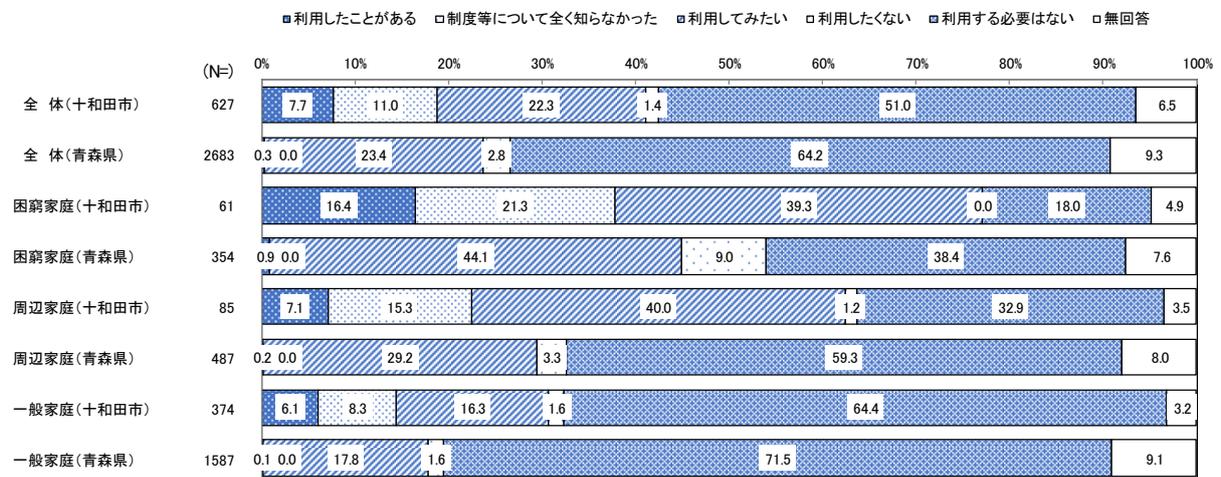


問 27 次の①～④の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

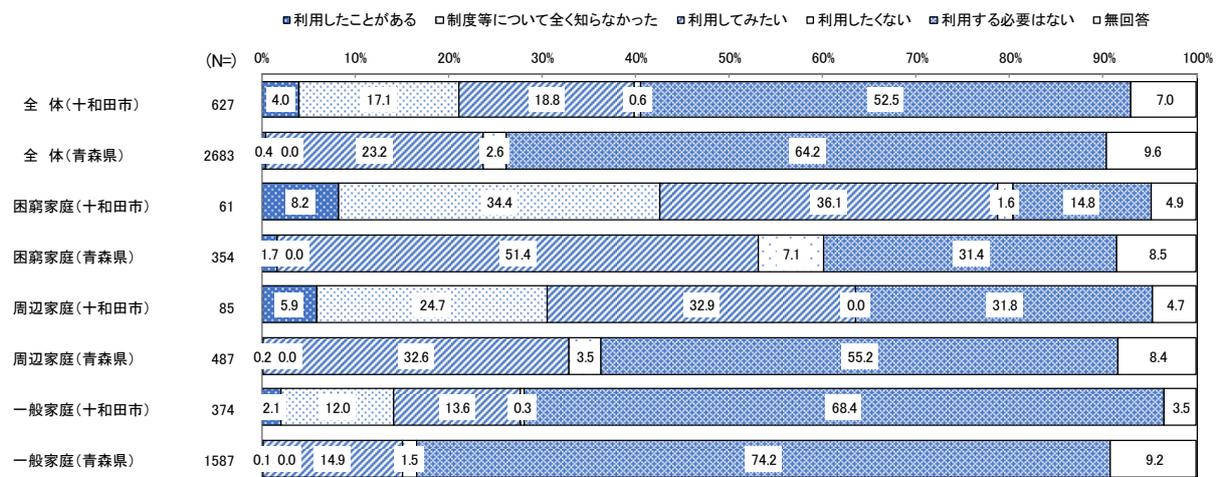
### 【青森県との比較結果】

支援制度等(食事・場所の提供等)の利用有無について、「利用したことがある」割合は、「①子ども食堂」、「②食料支援」において、すべての属性で十和田市が青森県を上回っている。なお、「制度等について全く知らなかった」の割合は、十和田市の「困窮家庭」で特に高く、「③居場所づくり」で4割を上回り、「④学習支援」で約4割となっている。

#### ①子ども食堂(無料または、安価で食事を提供)

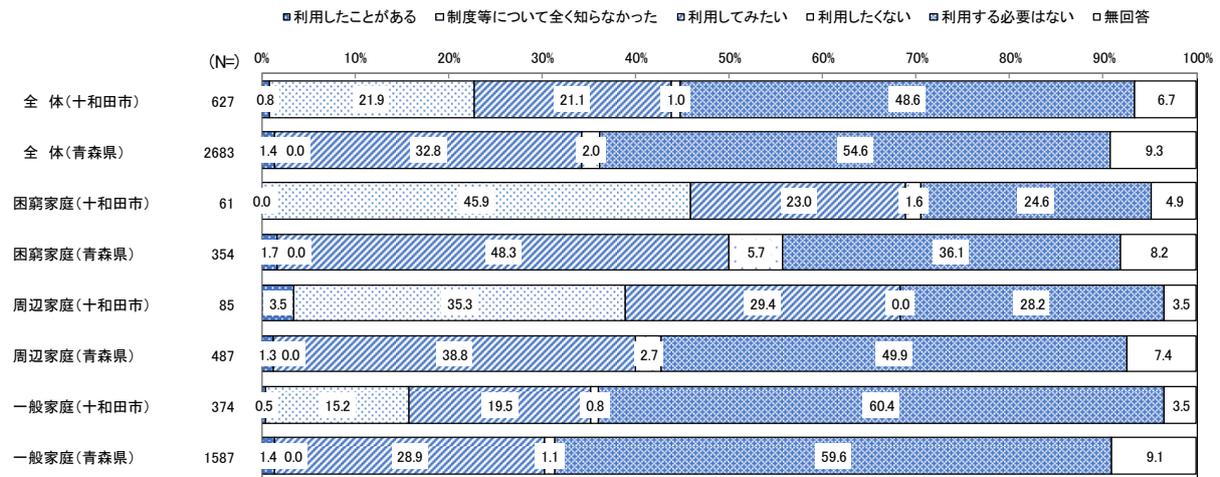


#### ②食料支援(食料の無料提供)

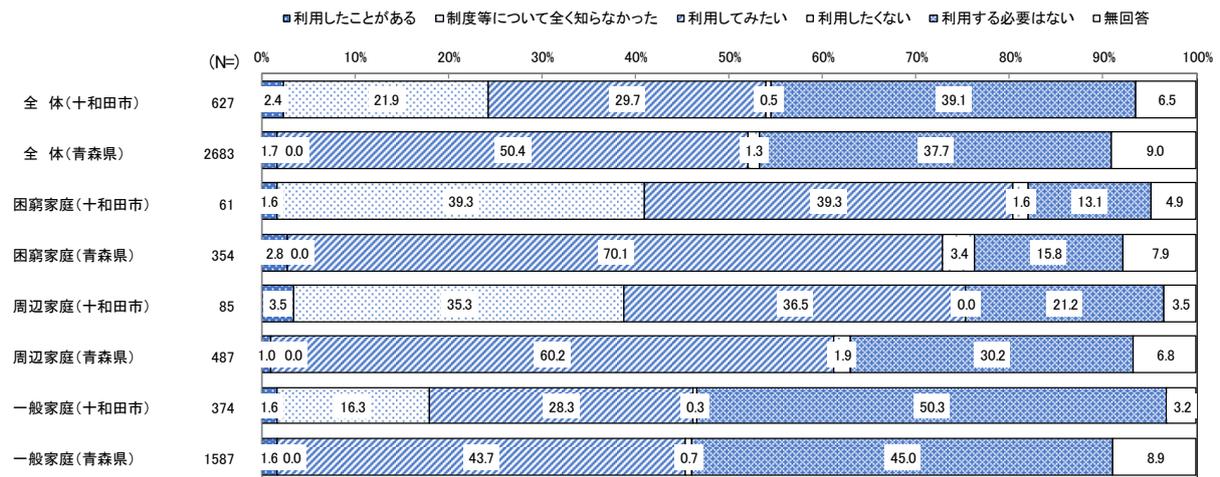


※「制度等について全く知らなかった」は十和田市のみ選択肢に含まれているため、青森県においては、0.0%となる。

### ③居場所づくり(無料で、子どもが自由に過ごすことができる場所の提供)



### ④学習支援(無料で、宿題など学習指導を提供)

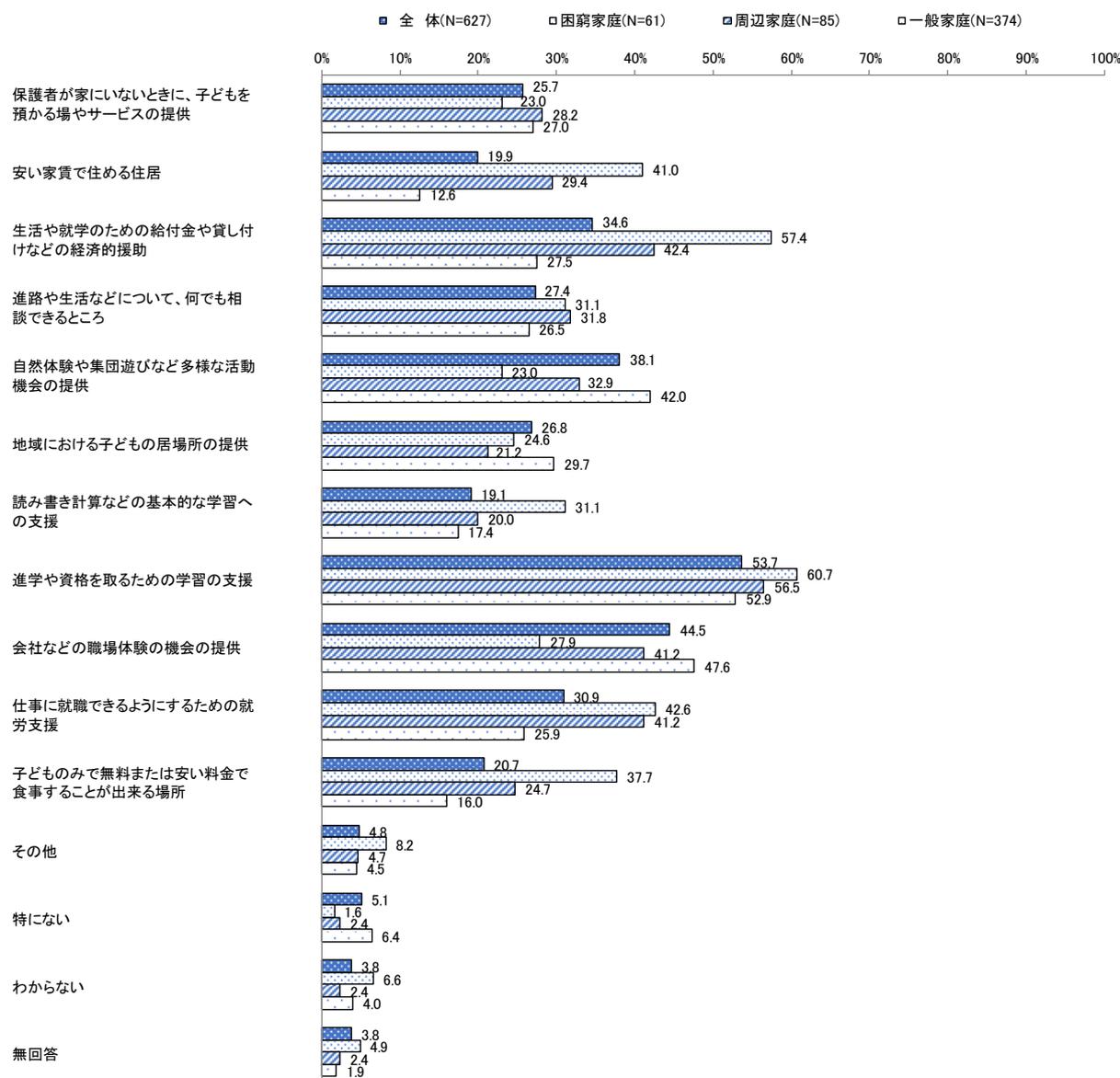


※「制度等について全く知らなかった」は十和田市のみ選択肢に含まれているため、青森県においては、0.0%となる。

問 28 お子さんにとって、現在または将来にどのような支援があるとよいと思いますか。  
 (あてはまる番号すべてに○)

### 【十和田市の集計結果】

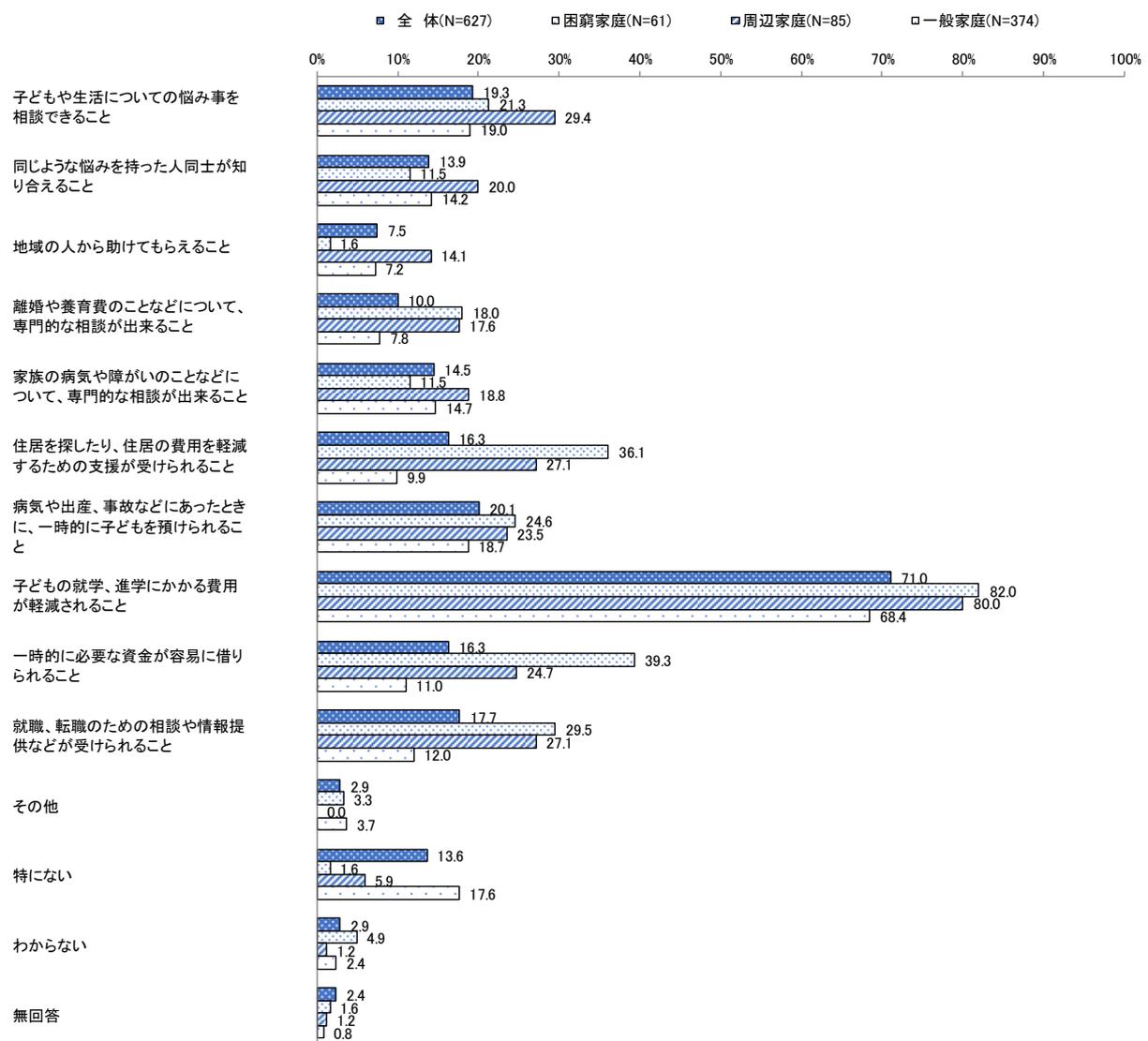
子どもにとってあるとよい支援について、すべての属性で、「進学や資格を取るための学習の支援」が最も高く、5割以上となっている。なお、「困窮家庭」では次いで「生活や就学のための給付金や貸し付けなどの経済的援助」が高く、「周辺家庭」や「一般家庭」との差が大きく見られた。



問 29 あなたが、現在必要としていること、重要だと思う支援はどのようなものですか。  
 (あてはまる番号すべてに○)

### 【十和田市の集計結果】

現在必要としていること、重要だと思う支援について、すべての属性で、「子どもの就学、進学にかかる費用が軽減されること」が最も高く、「周辺家庭」と「困窮家庭」においては、8割以上となっている。なお、「困窮家庭」では「一時的に必要な資金が容易に借りられること」と「住居を探したり、住居の費用を軽減するための支援が受けられること」において高く、「周辺家庭」や「一般家庭」との差が大きく見られた。



問 30 お子さまとの生活や教育に関して困っていることがあれば自由に記載してください。

①子どもとの生活に関すること

SNS等での、いじめや、犯罪にまきこまれたりしないか心配。
私自身がうつ病であまり子どもにも関心を持ってない。子どもと自分の将来が不安である。
成長につれてインターネットを利用した活動が増え、必要なことは話をしないようになっている。
コロナの為、外出等が出来ず家の中で過ごすことが多く親、子ともにストレスが溜って困っている。
ゲーム、タブレットでの動画視聴ばかりしている。家庭内で、ルールを作ってはいるが、守られていない。
学校での部活動がなく、クラブに入る必要があるため仕事をしていると送迎ができず結果、子どもに我慢させている。
親のだらしない生活を、子どもがこれでいいものだと思って、同じようにだらしない生き方をしてしまうのではないかと心配。
放課後の子どもの預け場所に困っている。(仲よし会など、1~6年までとなっているが、定員の関係で、入れない。)特に、学校が特別日課で、昼過ぎに下校となる時など、家で留守番させるのが少々心配。

②子どもの教育に関すること

学校の担任との関係。子どもに対しての対応の仕方に子どもが困っている。
性教育など答えにくい事をうまく説明できるような支援があれば活用したい。
子どもの成績がなかなか上がらないのでお金をかけずにもっと個別指導など学校でもやっていただけたら助かる。
学校生活で、とにかく勉強、勉強という感じで子どもが追いつめられている感じがする。担任が変わってから子どもに笑顔が少なくなったと感じる。
クラス担任と子どもが合わないそうです。小学5年生になり新しい先生が嫌で学校が嫌いになりそうと話していました。先生で不登校になったらと不安。
少子化により、高校統廃合、学校再編で進学先が減ることに不安がある。地域によって通学に費用、時間がかかる。教育にも、格差が生じることが不安。
子どもが将来なりたい職業につく為の進路の進み方がわからないので、今の世の中の多様な職業にどうしたら就く事ができるのか、親も学べる機会がほしい。
市の方が、ひとり親の現状を理解しようとしてくれているのに対し、教育の場(学校)ではいまだに教師の子どもに対する偏見があるというのがとても残念。
五年生になってから学校生活が、嫌だと言うようになり、学校へ行きたくないと言うことが多くなった。話を聞いて心をなだめたりして、なんとか毎日学校へいかせている。先生にも相談したが、あまり解決にならず、進展していないことに少し困っている。

### ③家計に関すること

もう少し一人親に手当を出してほしい。
来年から児童手当がもらえなくなること。
塾やネットでの学習をさせたいが費用が高くやらせてあげられない。
中・高で一番お金がかかるので、中・高入学時の補助があると助かる。
病气やけがをしても、経済的にきびしくてなかなか病院につれて行けない。
収入に関係なく医療費を無償にしてほしいです。病院に連れて行くの迷う。
2年前に住宅をたてたばかりなのに、住宅ローン減税の見直し0.7%になるなど、不安しかない。
奨学金なしで、大学進学は難しい。成績基準、所得制限なしの給付型奨学金の支援を検討して欲しい。
児童手当が中学生までなので、高校に行くようになったら経済的に少しきびしくなると感じている。
大学等の進学費用を十分に用意できるか？そのために進路を変えさせなければならなくなるのではと、不安になる。
他の子のように、新しいおもちゃや、ジャージやスニーカー等をなかなか買ってあげられない。進学費用を用意できない。

### ④その他

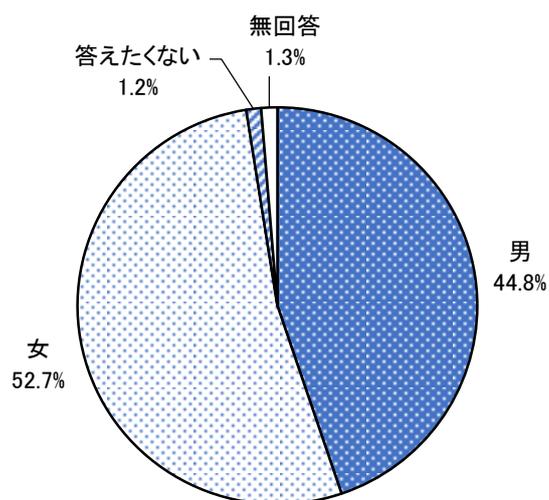
学童が学校の近くにあるといい。
子ども達が遊べる室内や屋外の公園など少ないように感じる。
交通事故や、不審者などの見守りでボランティアの方が下校時に毎日でなくてもほしい。
コロナワクチンを接種していません(Drの判断)。大会などで制限がないと良いと思う。
通学路で危ない所があり事故も多い所なので、一時停止の線や通学路などの看板を新しくつけて欲しい。
冬の間、お金を払ってバス通学させなければならず、十和田市でスクールバスを提供してもらえると助かる。
熊、不審者など情報は入るが、生徒はどうやって気を付けるのか。街灯が少ない地域は真っ暗な中、自転車で帰っている。
子ども食堂や食料品の支援はいつも週末で、シフト制で働いていると時間が合わず利用できない。もっと色々な人が利用できる制度を考えてほしい。
雨の日に体を動かせる施設がほしい。アーティスティックな遊具より、アスレチックみたいなのがあればうれしい。

## IV アンケート調査結果(子ども調査)

問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

性別は、「女性」が 52.7%、「男性」が 44.8%となっている。

(N = 598)

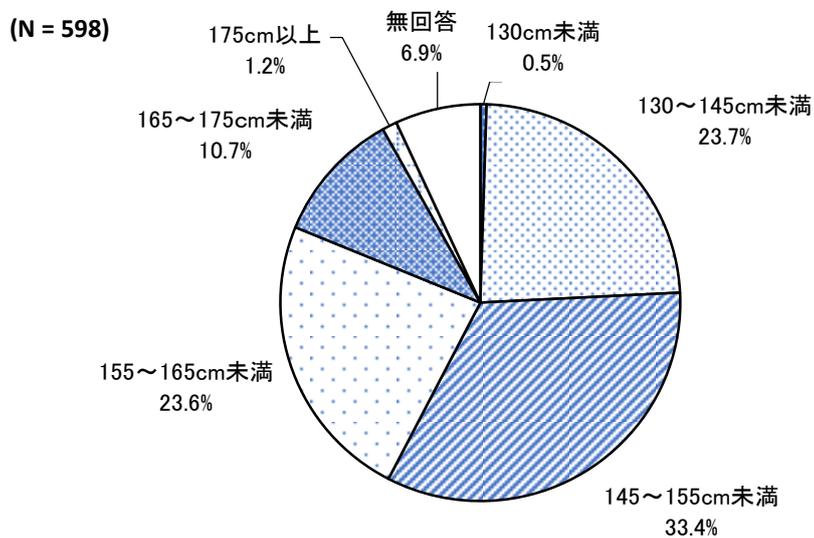


問2 あなたの身長・体重を教えてください。

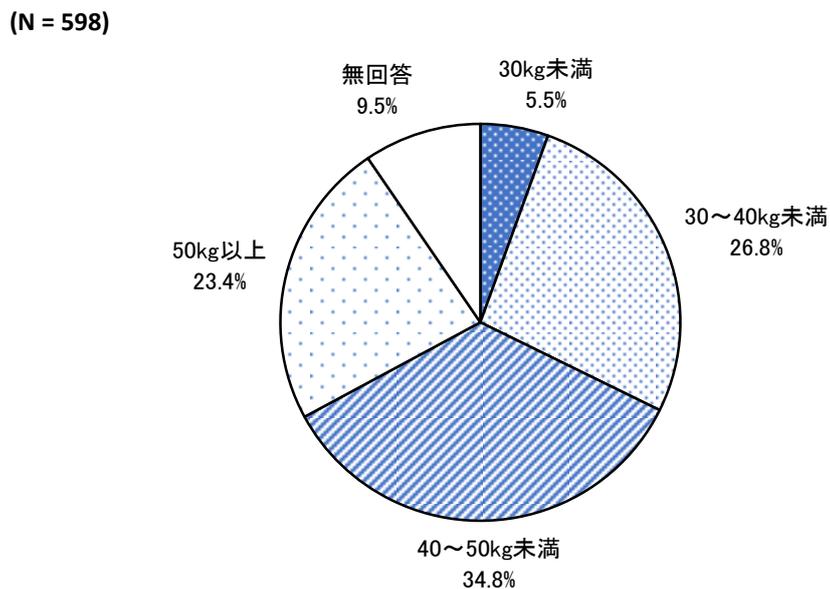
身長は、「145～155cm 未満」が 33.4%で最も高く、次いで「130～145cm 未満」(23.7%)、「155～165cm 未満」(23.6%)と続いた。

体重は、「40～50kg 未満」が 34.8%で最も高く、次いで「30～40kg 未満」(26.8%)、「50kg 以上」(23.4%)と続いた。

<身長>



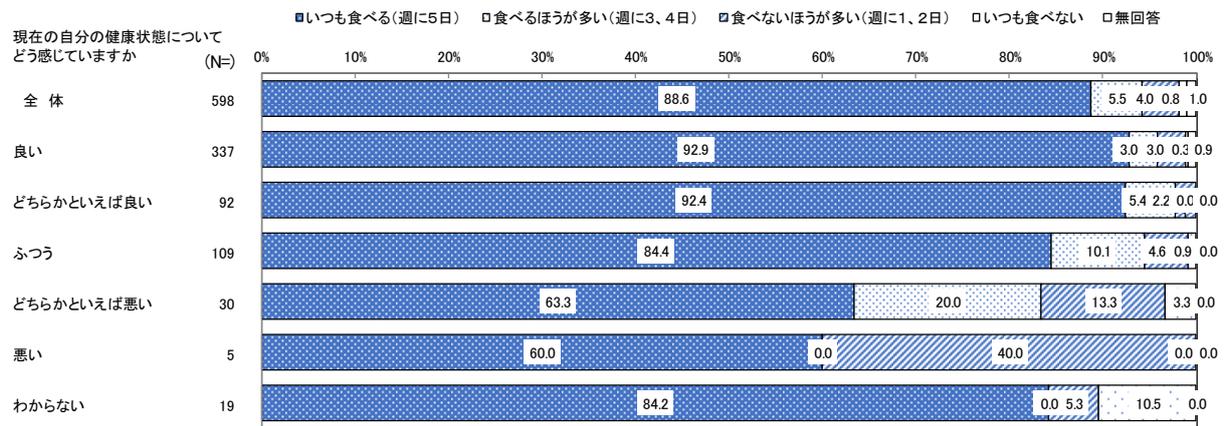
<体重>



問3 あなたは、平日(学校に行く日)に毎日、朝ごはんを食べますか。(あてはまる番号1つに○)

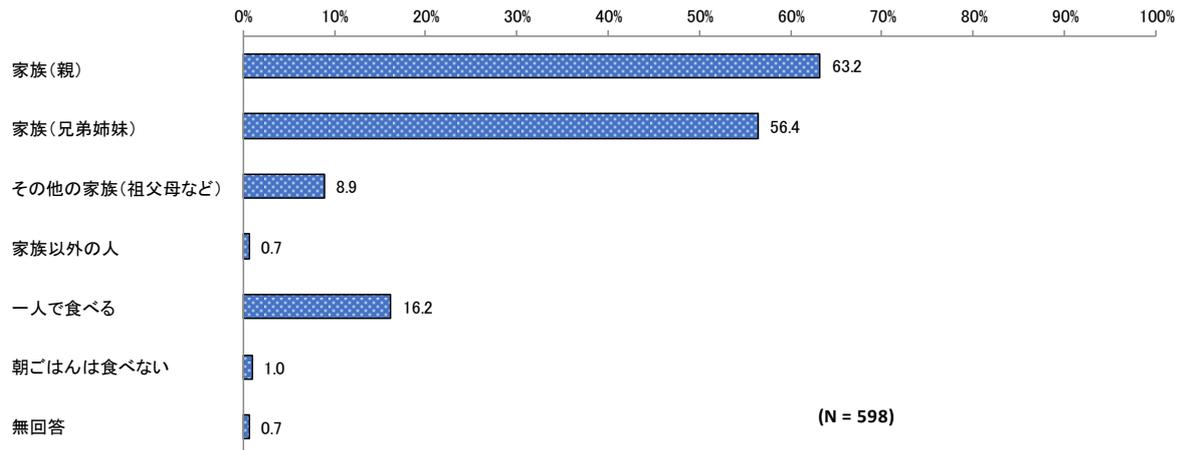
【問12(自分の健康状態)とのクロス集計結果】

平日朝ごはんを「いつも食べる(週に5日)」割合は、自分の健康状態が「良い」または「どちらかといえば良い」層では9割を上回っているが、「どちらかといえば悪い」層では、6割台と大きな差が見られた。



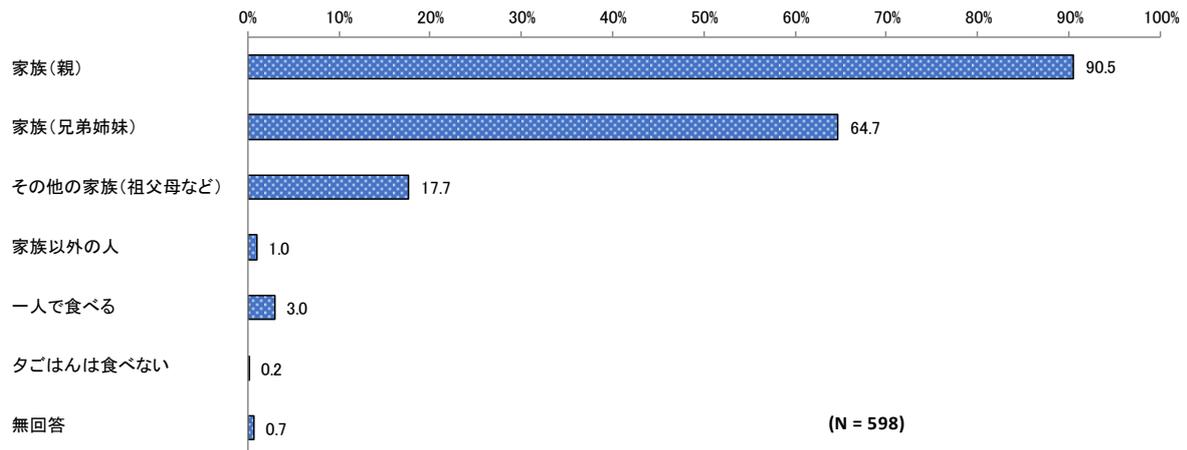
問4 あなたは、平日(学校に行く日)に朝ごはんを主にだれと食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

平日の朝ごはんを一緒に食べる人については、「家族(親)」と「家族(兄弟姉妹)」でどちらも5割を上回ったが、16.2%が「一人で食べる」と回答した。



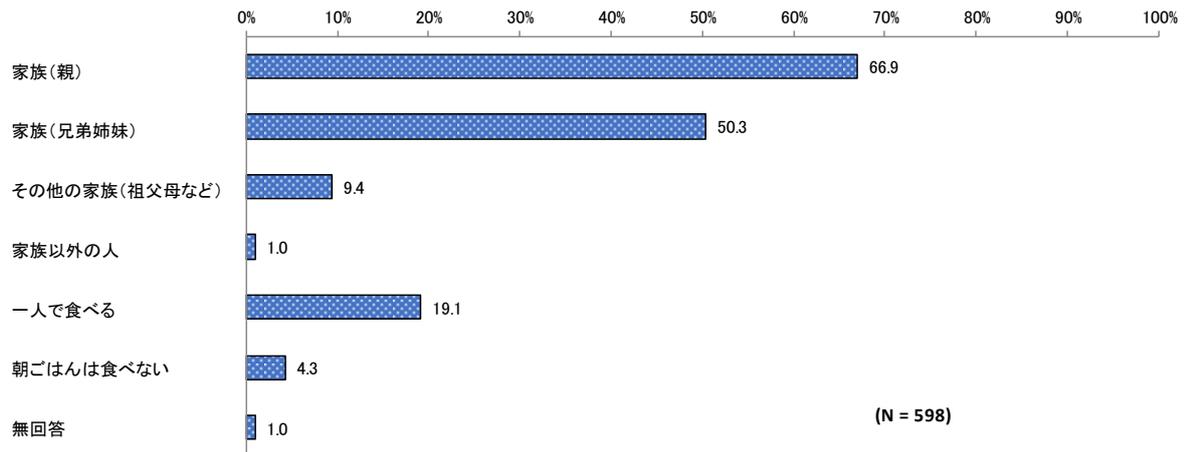
問5 あなたは、平日(学校に行く日)に夕ごはんを主にだれと食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

平日の夕ごはんを一緒に食べる人については、「家族(親)」が9割、「家族(兄弟姉妹)」で6割を上回ったが、3.0%が「一人で食べる」と回答した。



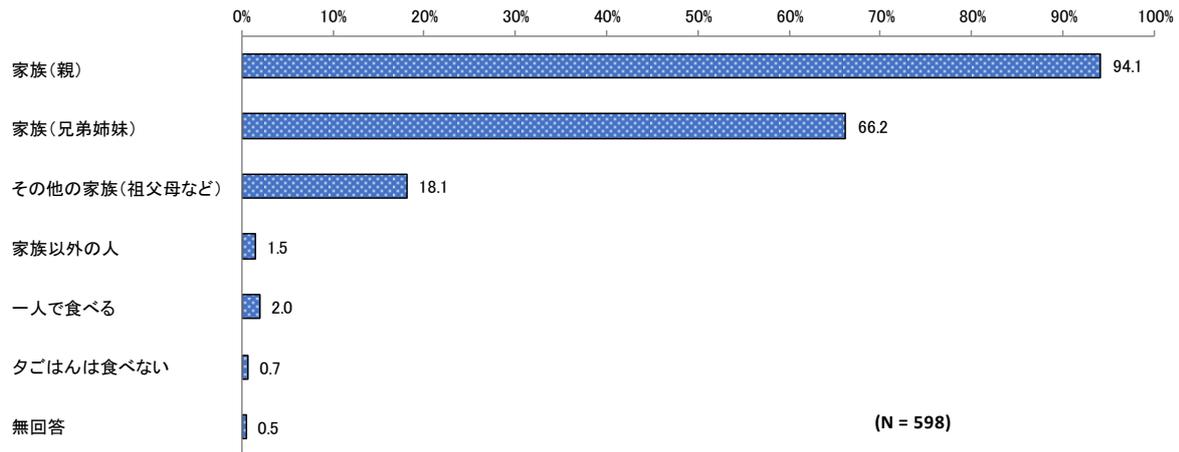
問6 あなたは、休日(学校がない日)に朝ごはんを主にだれと食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

休日の朝ごはんを一緒に食べる人については、「家族(親)」と「家族(兄弟姉妹)」でどちらも5割を上回ったが、19.1%が「一人で食べる」と回答した。



問7 あなたは、休日(学校がない日)に夕ごはんを主にだれと食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

休日の夕ごはんを一緒に食べる人については、「家族(親)」が9割、「家族(兄弟姉妹)」で6割を上回ったが、2.0%が「一人で食べる」と回答した。



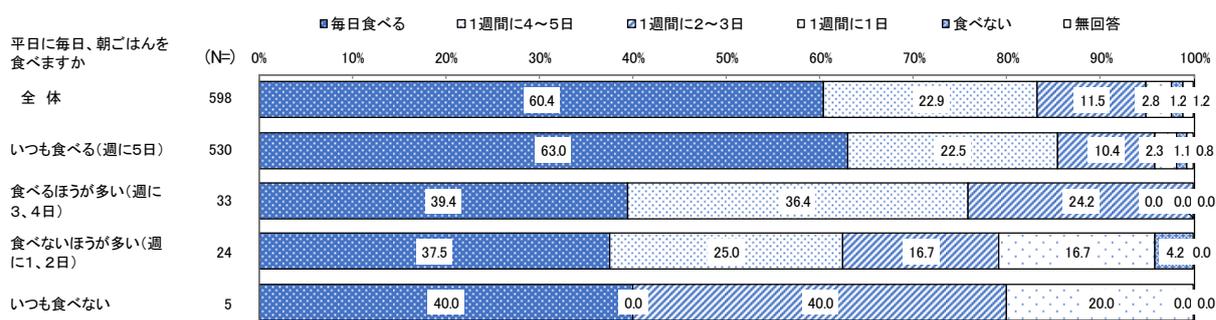
問8 あなたは、給食をのぞいて、次の食物をふだんどくらい食べますか。  
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

【問3(平日に毎日朝ごはんを食べるか)とのクロス集計結果】

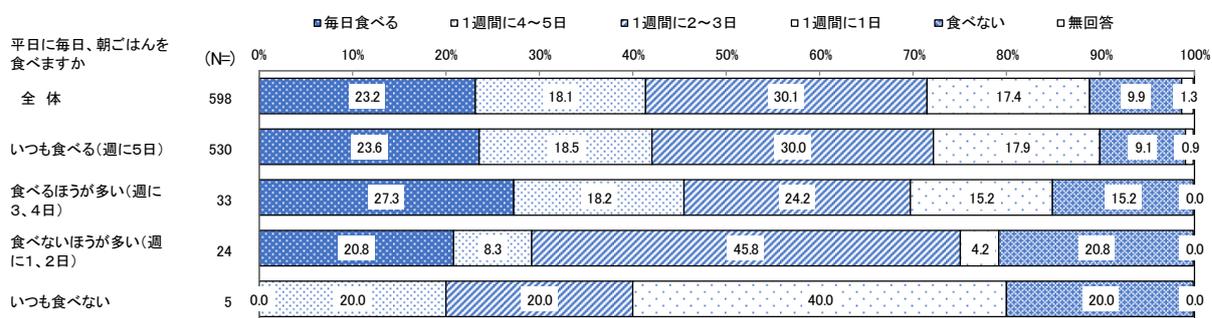
「野菜」を「毎日食べる」割合は、平日朝ごはんを「いつも食べる(週に5日)」層では6割を上回っているが、「食べる方が多い(週に3、4日)」と「食べないほうが多い(週に1、2日)」層ではどちらも3割台と大きな差が見られた。

また、「カップめん・インスタントめん」、「コンビニのおにぎり・お弁当」を「食べない」割合は、平日朝ごはんを「いつも食べる(週に5日)」層と比較すると、「食べる方が多い(週に3、4日)」と「食べないほうが多い(週に1、2日)」層ではどちらも10%以上低くなっており、特に「コンビニのおにぎり・お弁当」でその差が大きく見られた。

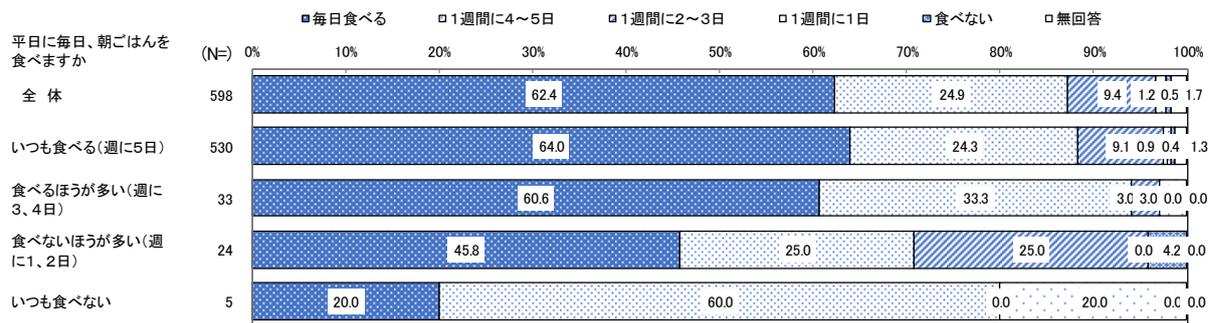
①野菜



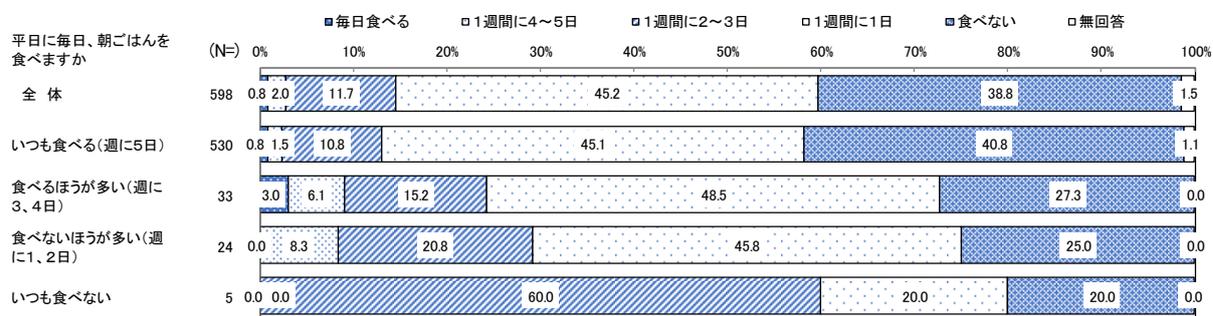
②くだもの



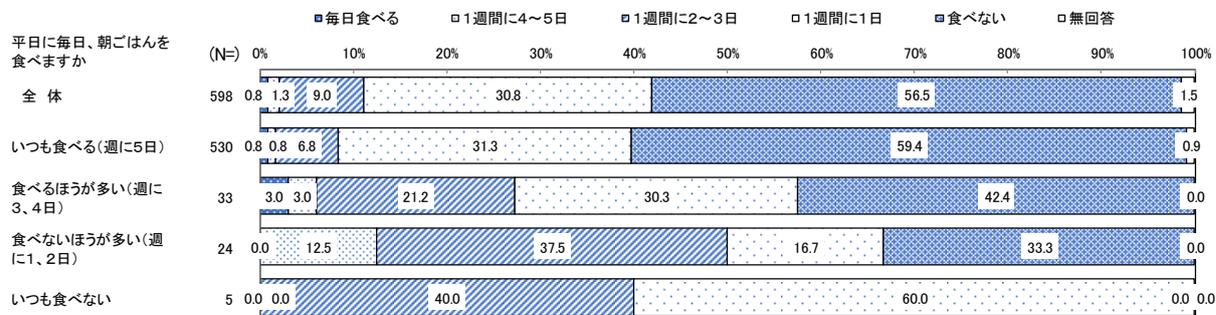
### ③肉や魚



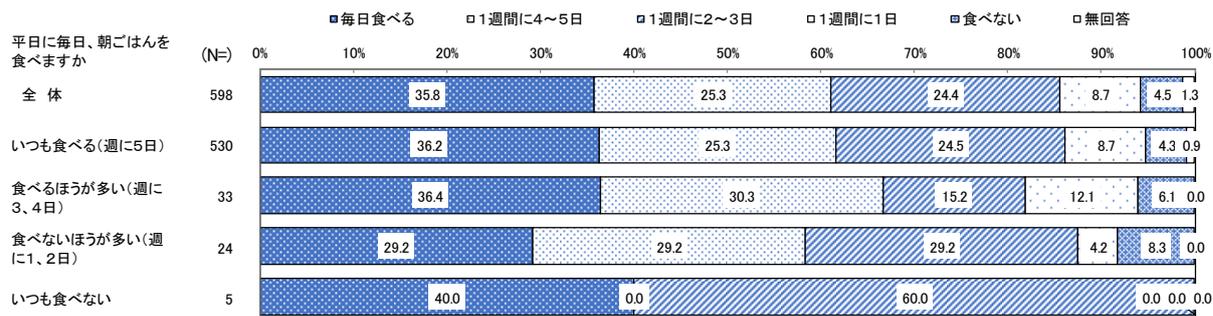
### ④カップめん・インスタントめん



### ⑤コンビニのおにぎり・お弁当



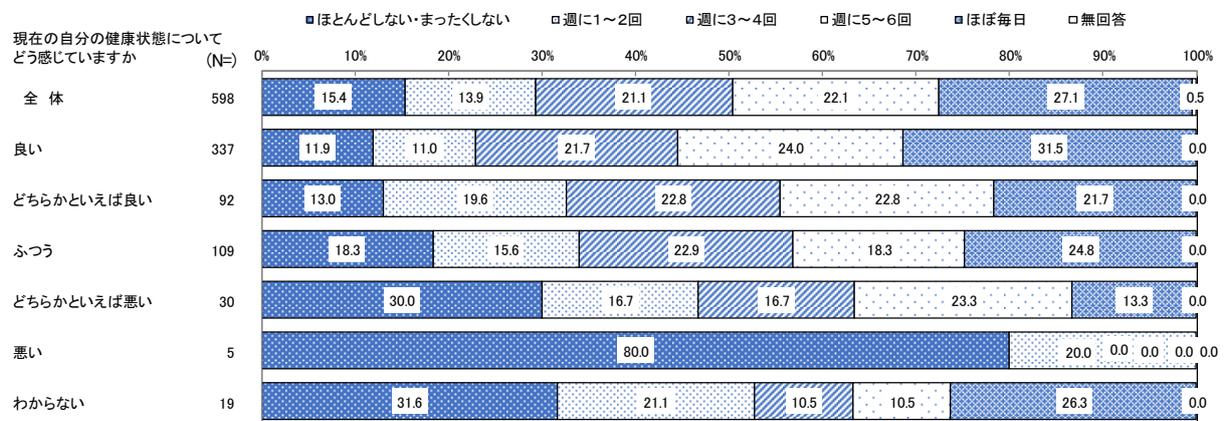
### ⑥お菓子



問9 あなたは、30分以上からだを動かす遊びや習い事を、1週間でどれくらいしますか。  
 (あてはまる番号1つに○)

【問12(自分の健康状態)とのクロス集計結果】

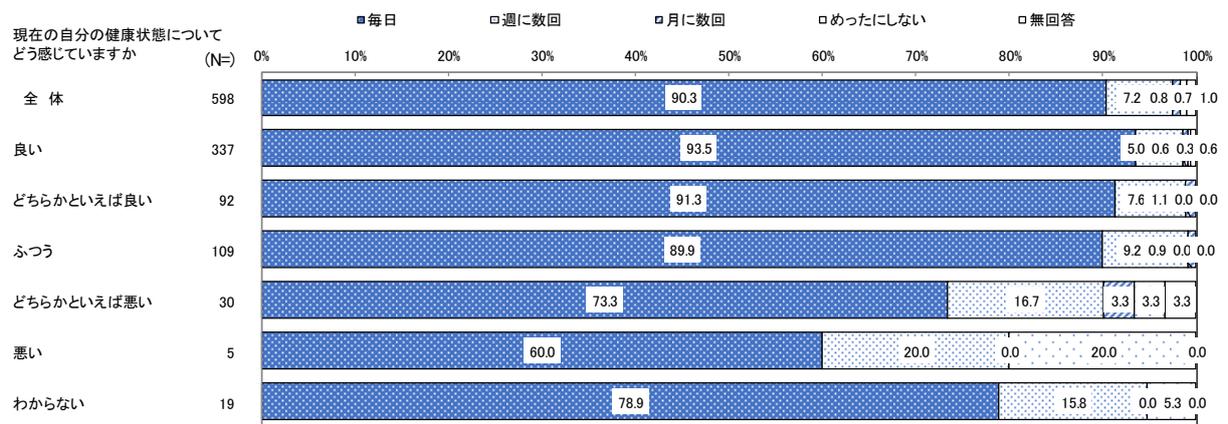
30分以上からだを動かす遊びや習い事を「ほとんどしない・まったくしない」割合は、自分の健康状態が「良い」層は約1割であるのに対し、「どちらかといえば悪い」層では3割となった。一方、「ほぼ毎日」の割合は、自分の健康状態が「良い」層で3割を上回った。



問 10 あなたは、歯みがきをしますか。(あてはまる番号1つに○)

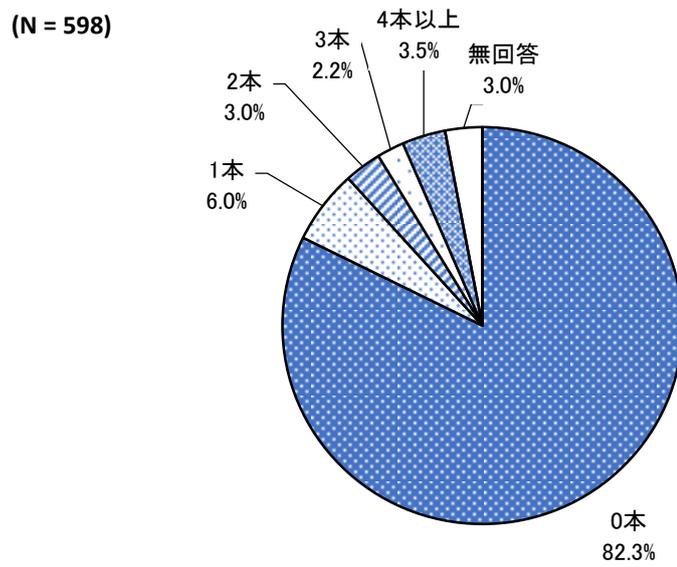
【問 12(自分の健康状態)とのクロス集計結果】

歯磨きを「毎日」する割合は、自分の健康状態が「良い」と「どちらかといえば良い」層では9割を上回っているのに対し、「どちらかといえば悪い」層では、7割強にとどまった。



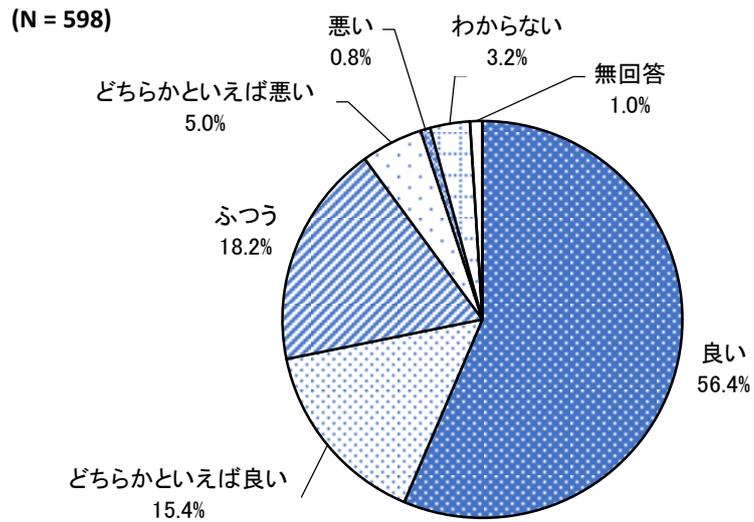
問 11 あなたは、今、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。治療中のものもふくみます。

虫歯の数については、「0本」が8割を上回った。



問 12 あなたは、現在の自分の健康状態についてどう感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

自分の健康状態については、『良い(良い + どちらかといえば良い)』が 71.8%となり、『悪い(どちらかといえば悪い + 悪い)』(5.8%)を大幅に上回った。



問 13 あなたは、次のようなことについて、お父さんやお母さんにどのくらい話をしますか。  
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)。

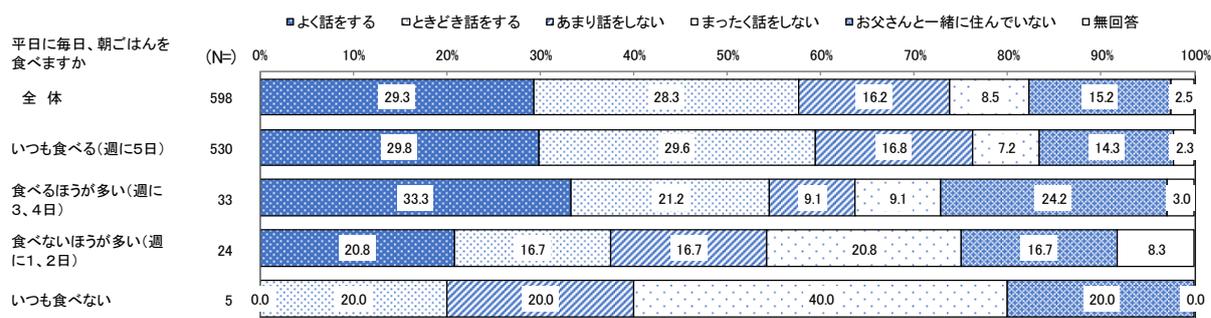
【問 3(平日に毎日朝ごはんを食べるか)とのクロス集計結果】

父親と『話をする(よく話をする + ときどき話をする)』割合は、平日に朝ごはんを「いつも食べる(週に5日)」層と比較すると、「食べないほうが多い(週に1、2日)」層は低い傾向にあり、母親と『話をする』割合でも同様の傾向が見られた。

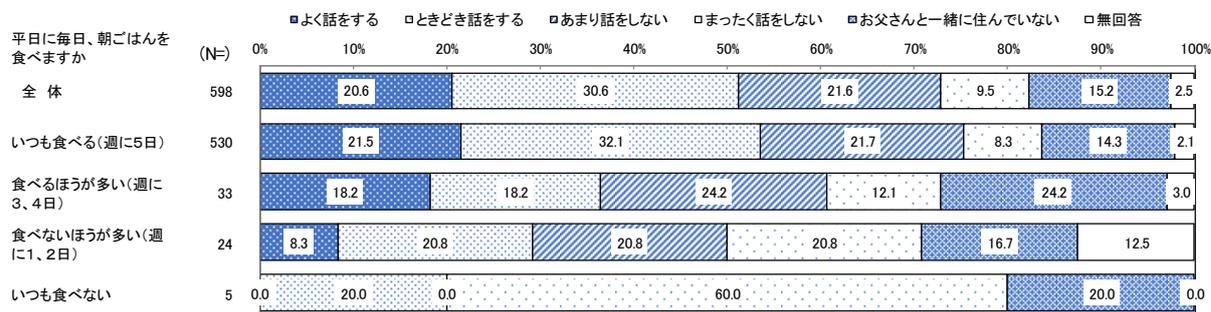
また、『話をする』割合を全体の数値で比較すると、①～④すべての項目で父親よりも母親の方が高くなっている。

＜お父さんとの会話＞

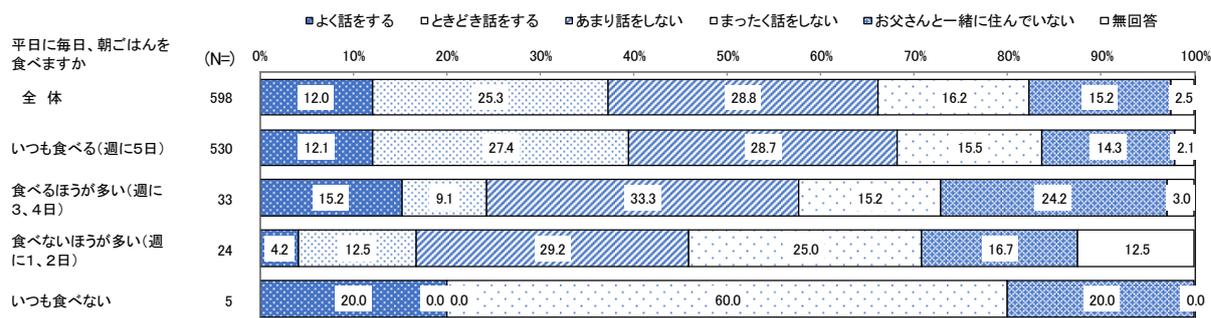
①学校でのできごとについて



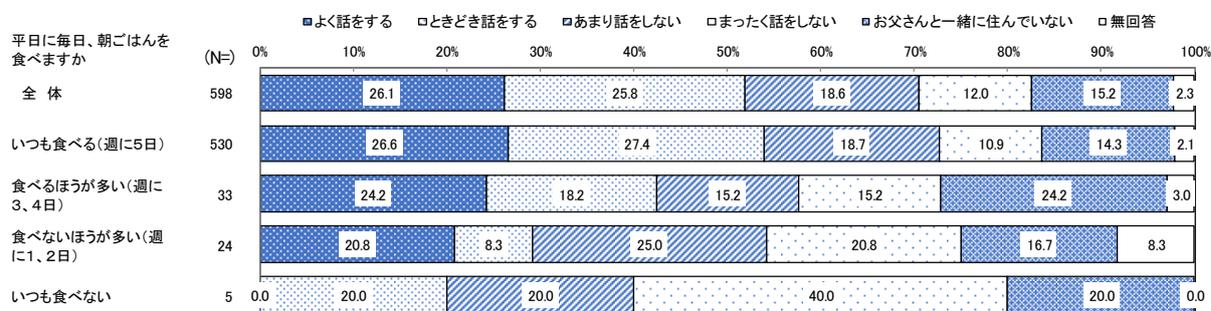
②勉強や成績のことについて



### ③将来や進路のことについて

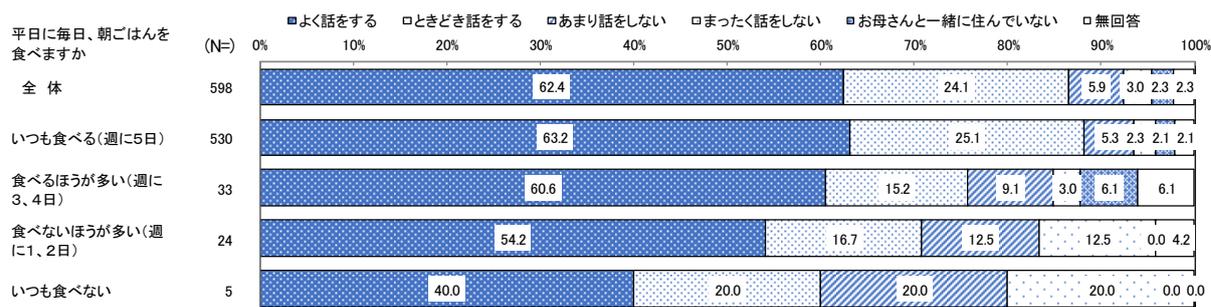


### ④友だちのことについて

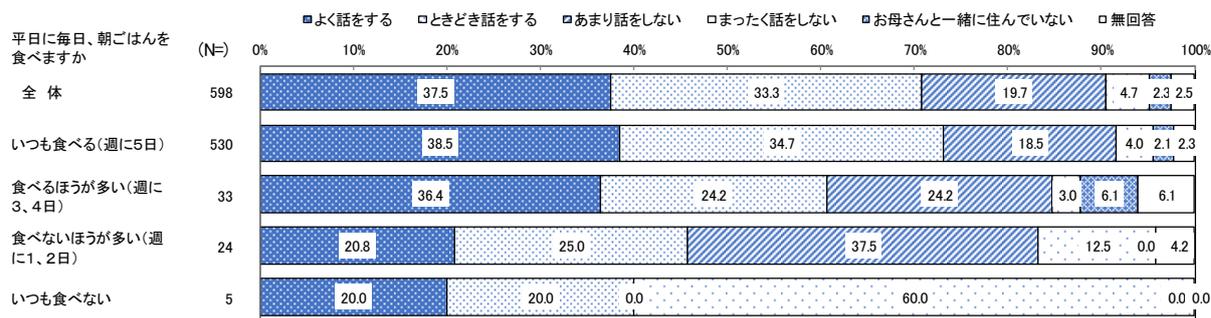


## <お母さんとの会話>

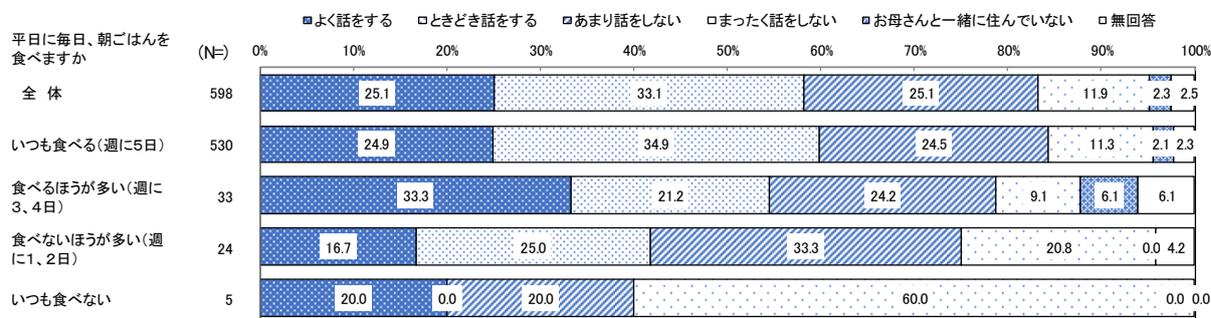
### ①学校でのできごとについて



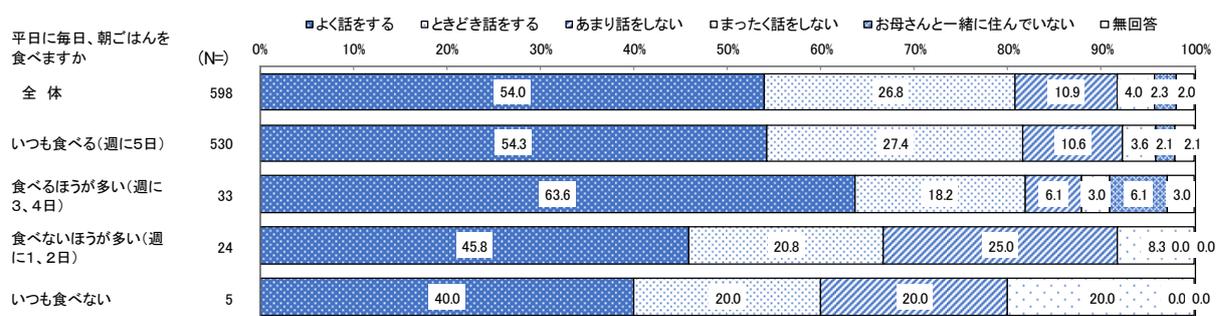
## ②勉強や成績のことについて



## ③将来や進路のことについて

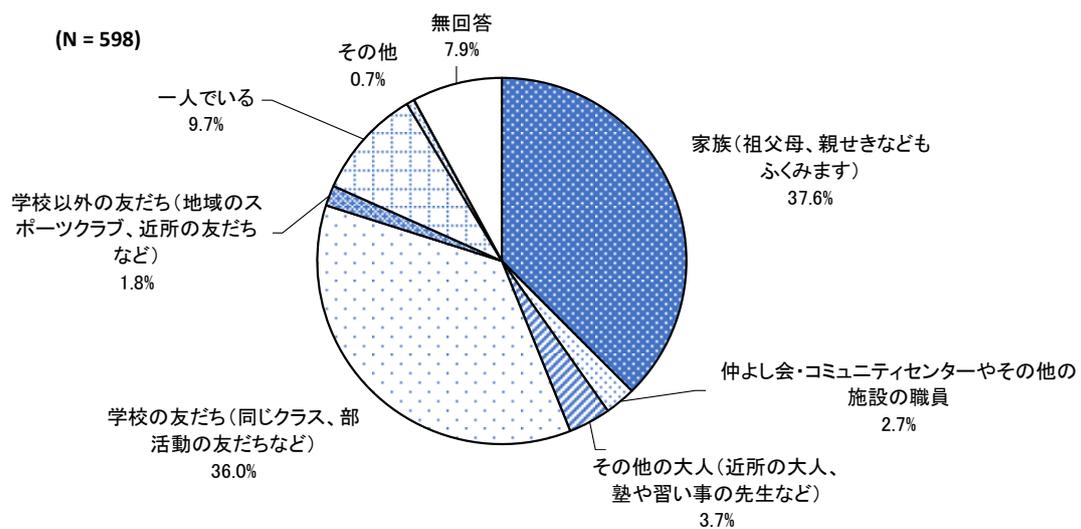


## ④友だちのことについて



問 14 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)はだれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

平日の放課後に過ごす人については、「家族(祖父母、親せきなどもふくみます)」が37.6%で最も高く、次いで「学校の友だち(同じクラス、部活動の友だちなど)」(36.0%)と続き、これら2項目で大半を占めた。なお、「一人でのいる」割合は、約1割だった。



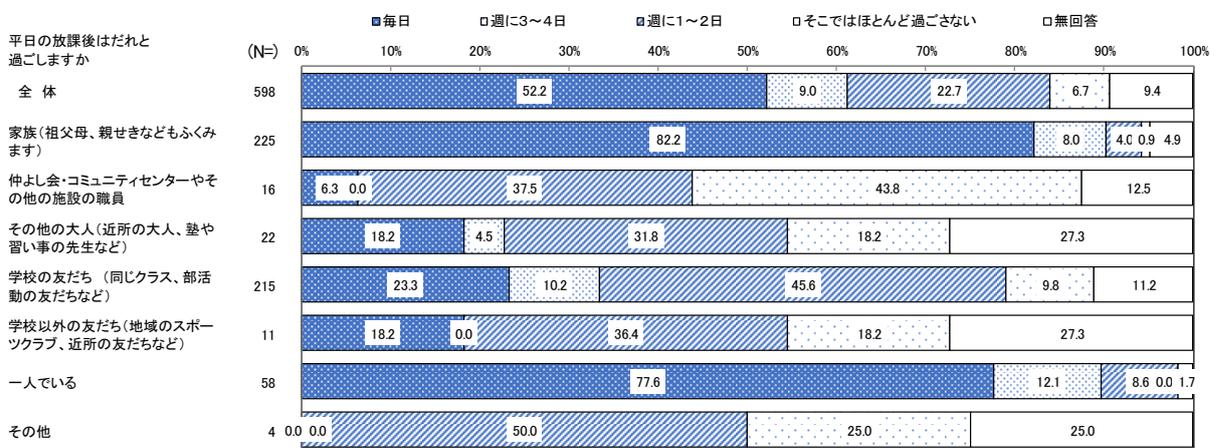
問 15 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)、どこで過ごしますか。1週間で、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

【問 14(平日の放課後は主にだれと過ごすか)とのクロス集計結果】

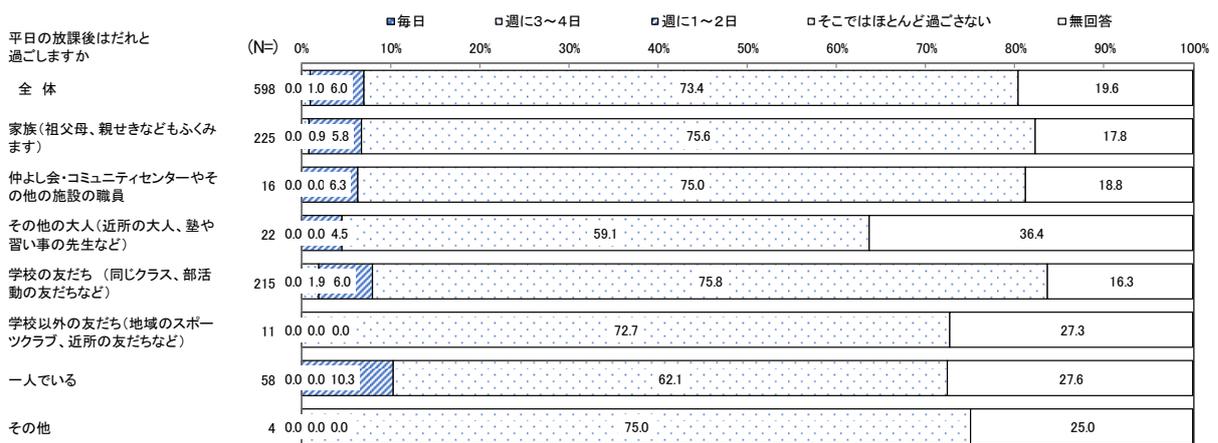
平日の放課後に自分の家で「毎日」過ごす割合は、平日の放課後「家族(祖父母、親せきなどもふくみます)」と過ごす層で8割台、「一人である」層で7割台と高くなっている。

それ以外の項目では特徴的な傾向はみられなかった。

①自分の家

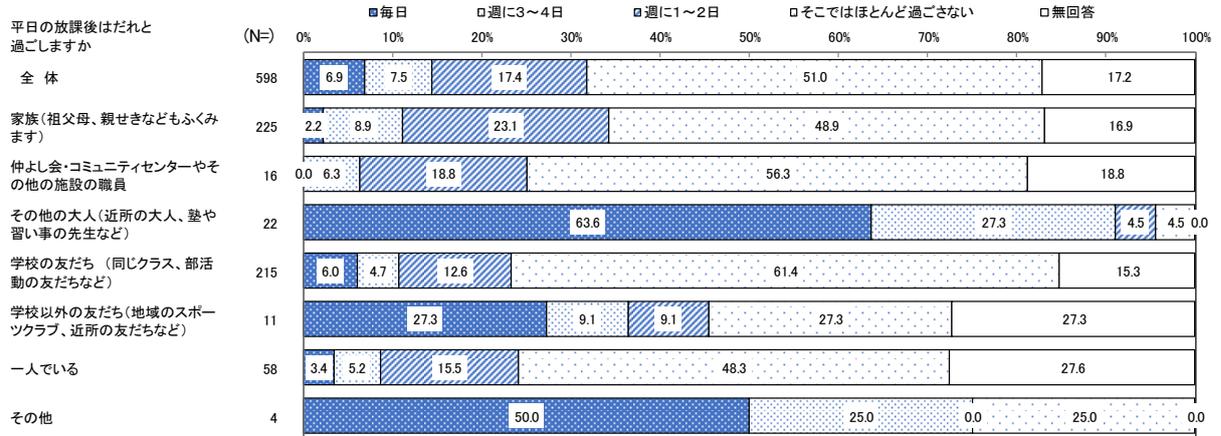


②友だちの家



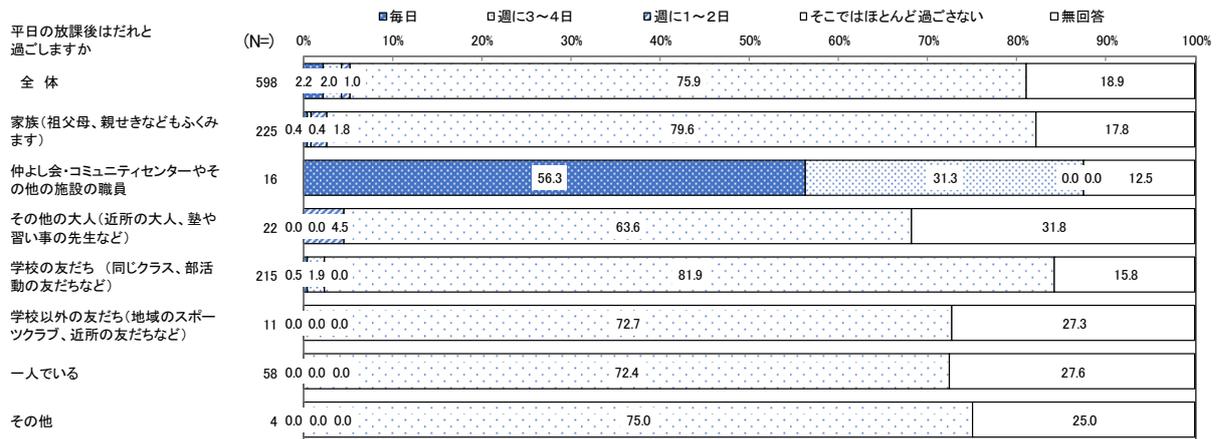
### ③塾や習い事

平日の放課後はだれと  
過ごしますか



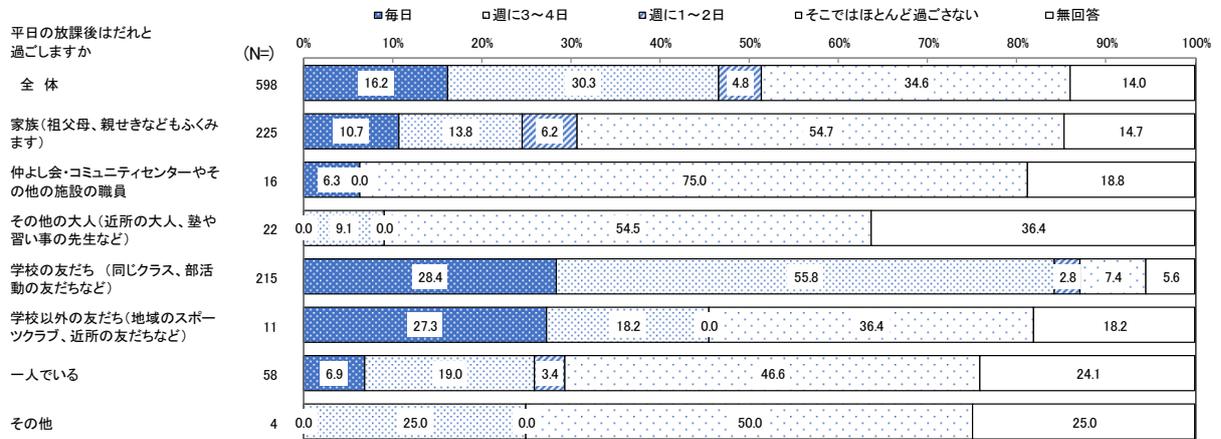
### ④仲よし会・コミュニティセンター

平日の放課後はだれと  
過ごしますか

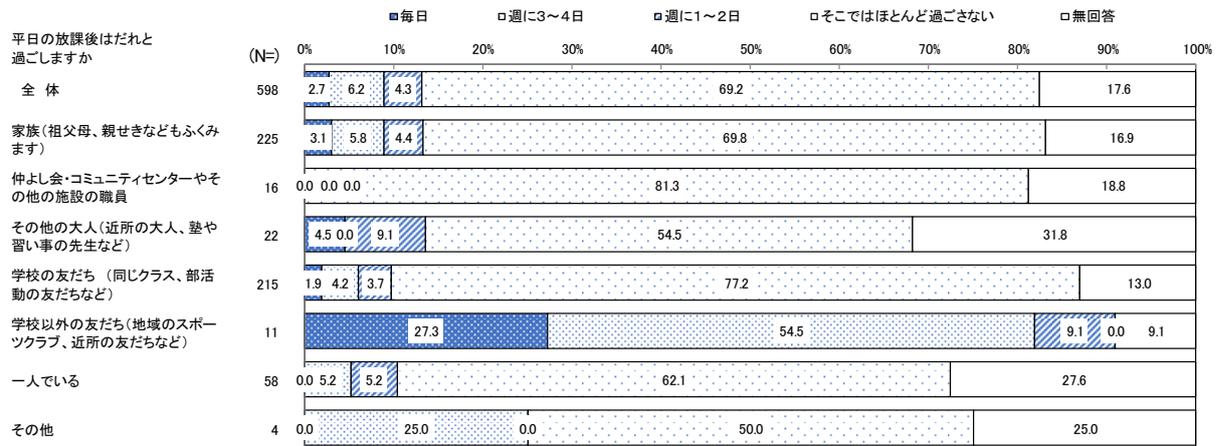


### ⑤学校(部活動など)

平日の放課後はだれと  
過ごしますか



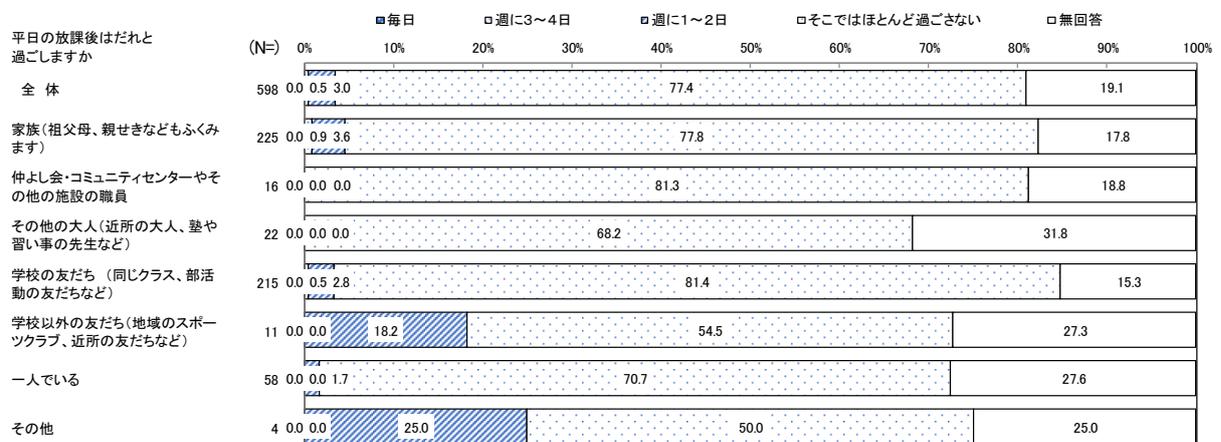
## ⑥スポーツクラブの活動の場(野球場、サッカー場など)



## ⑦公園

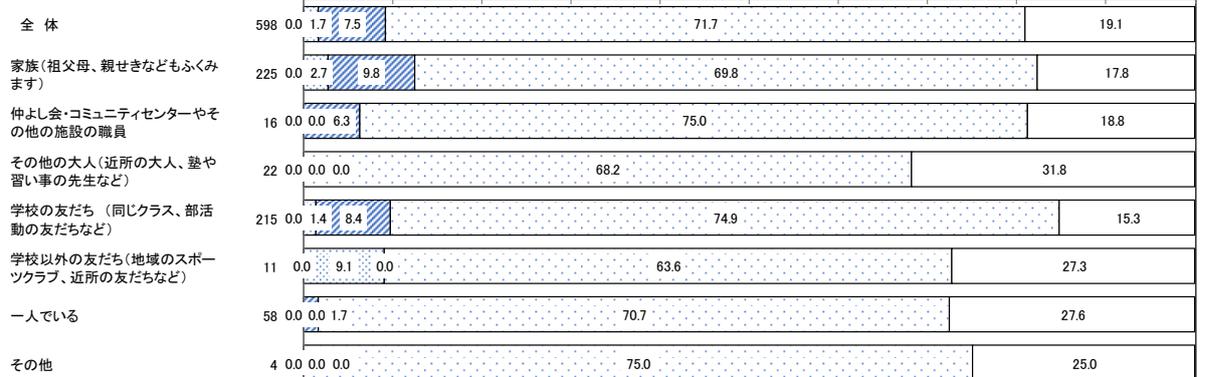


## ⑧図書館



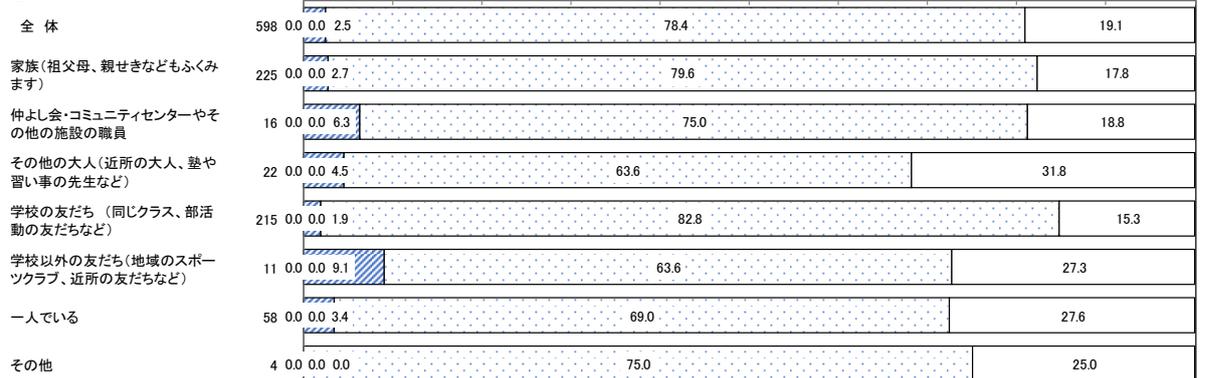
## ⑨商店街やショッピングセンター

平日の放課後はだれと  
過ごしますか



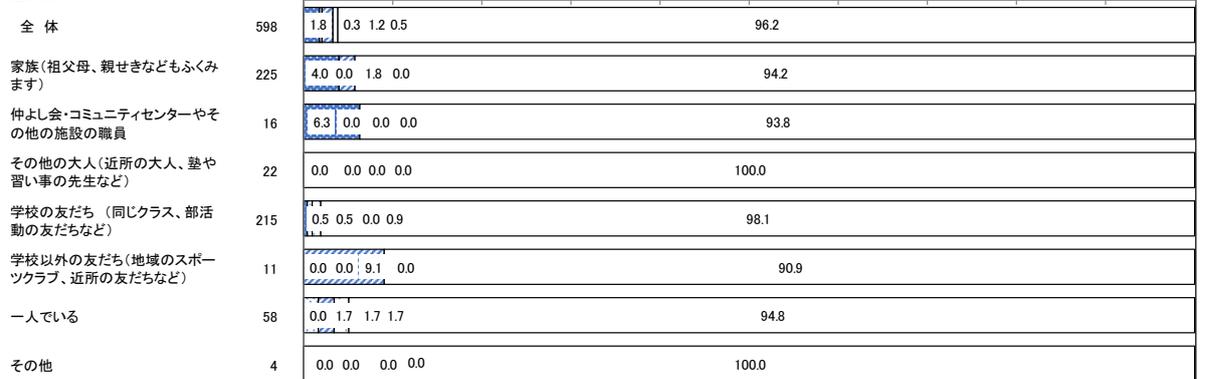
## ⑩ゲームセンター

平日の放課後はだれと  
過ごしますか



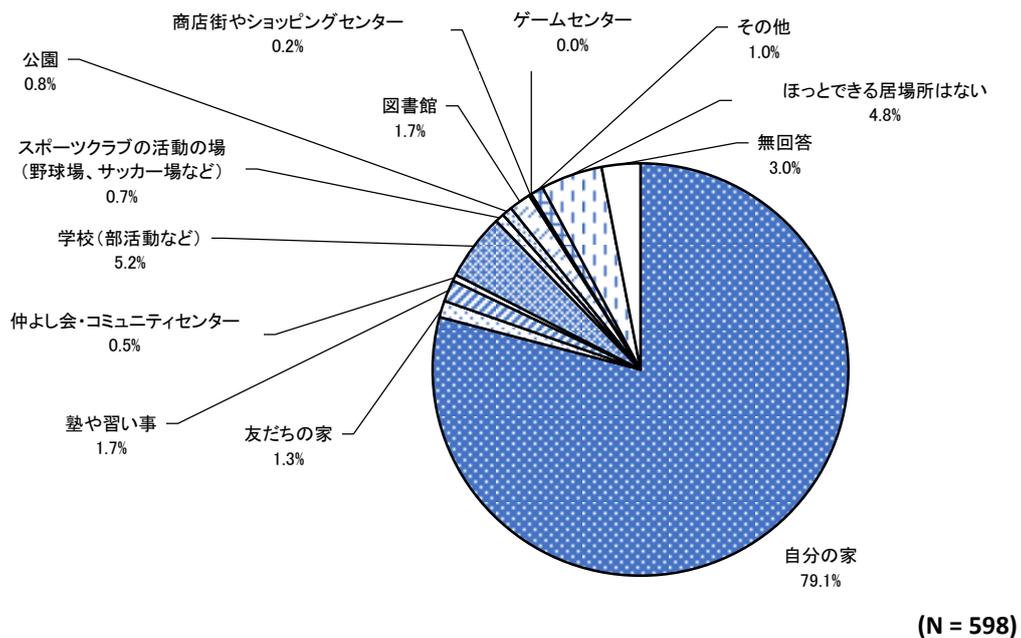
## ⑪その他

平日の放課後はだれと  
過ごしますか



問 16 問 15 の①～⑪の場所の中で、あなたが一番ほっとできる居場所はどこですか。1つだけ選んでその番号をカッコの中に書いてください。ほっとできる居場所がない場合は、「ほっとできる居場所はない」に○をつけてください。

一番ほっとできる場所については、「自分の家」が 79.1%で最も高く、大半を占めた。なお、上位項目は「学校(部活動など)」(5.2%)に次いで、「ほっとできる居場所はない」(4.8%)となっている。



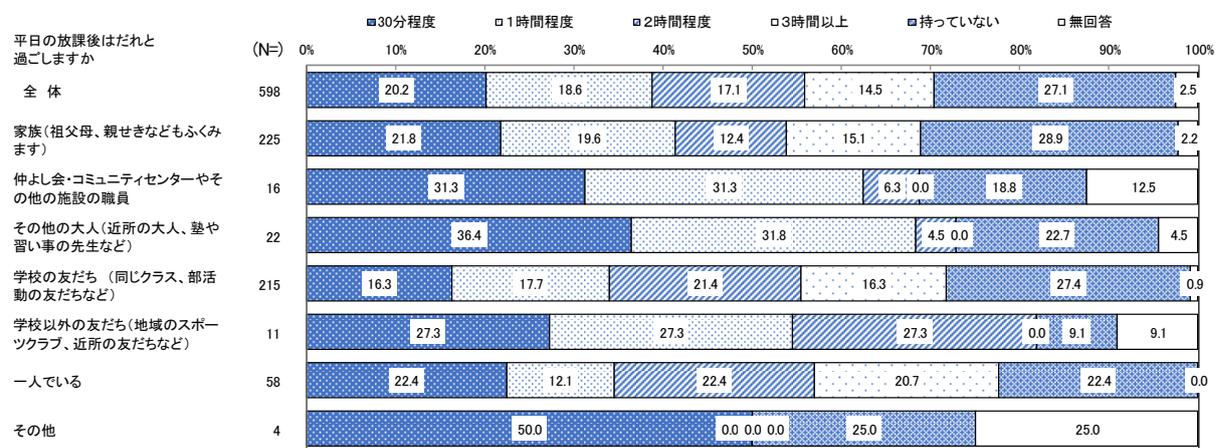
問 17 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後、携帯電話、パソコン、ゲーム機などをどのくらい使っていますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

【問 14(平日の放課後は主にだれと過ごすか)とのクロス集計結果】

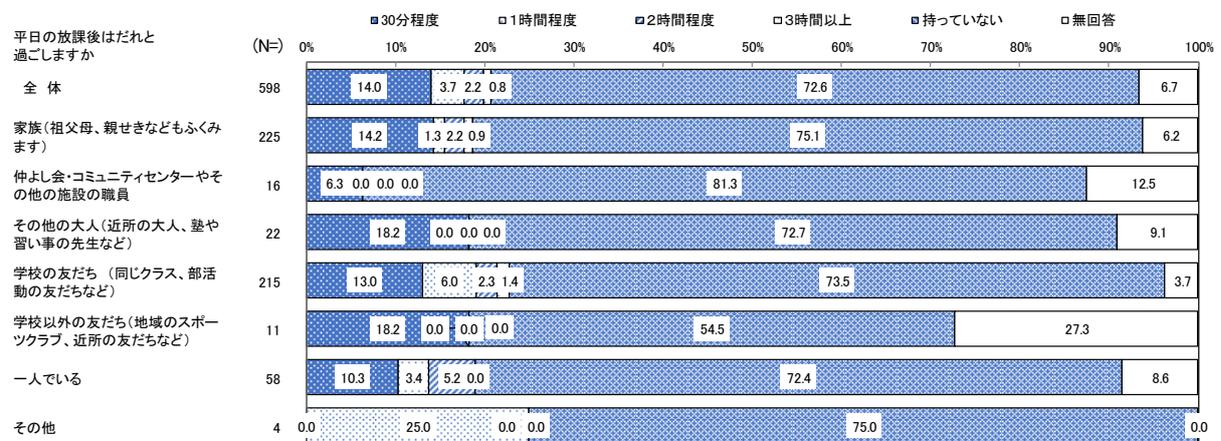
平日の放課後に「携帯電話・スマートフォン(タブレット含む)」を『2 時間以上(2 時間程度 + 3 時間以上)』使用する割合は、平日の放課後「家族(祖父母、親せきなどもふくみます)」と過ごす層よりも、「一人でのいる」層の方が高くなっており、ゲーム機でも同様の傾向が見られた。

なおパソコンを「持っていない」割合は、全体で7割を上回っている。

①携帯電話・スマートフォン(タブレット含む)

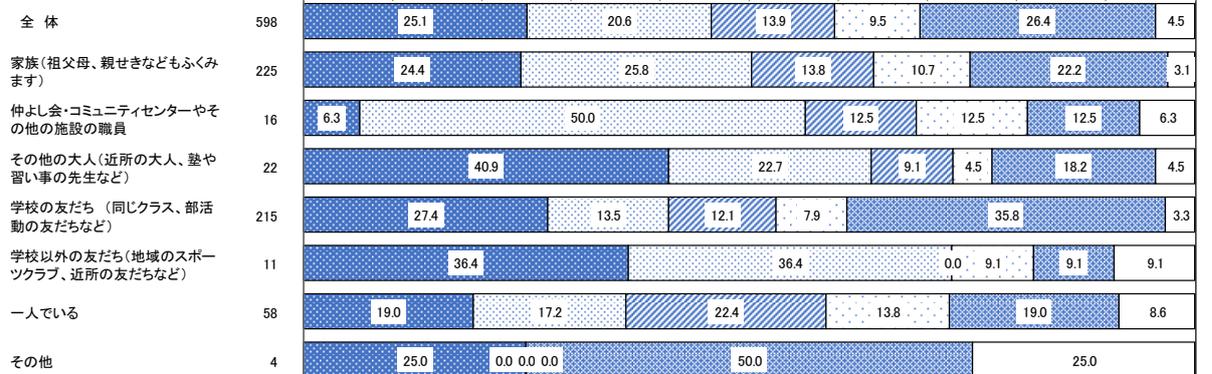


②パソコン



### ③ゲーム機

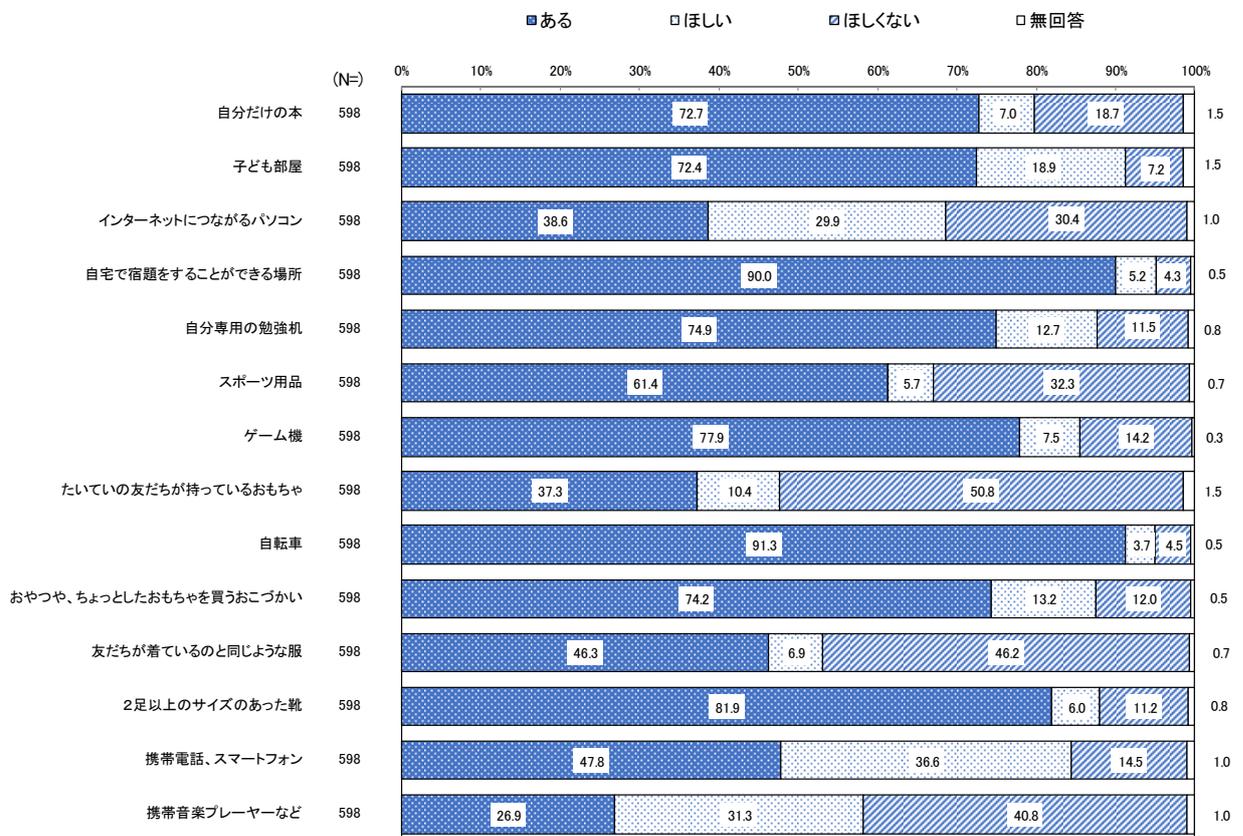
平日の放課後はだれと  
過ごしますか



問 18 あなたには、自分が使うことができる、次のものがありますか。ある場合は「ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「ほしい」、いらないと思うものであれば「ほしくない」に○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

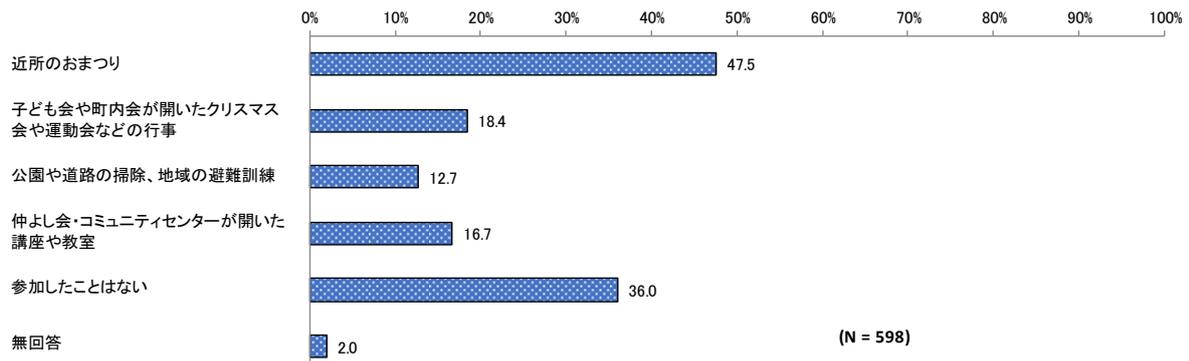
自分が使うことができるもので「ある」割合は、「自転車」(91.3%)と「自宅で宿題をすることができる場所」(90.0%)で9割台となった。一方、下位の項目は、「インターネットにつながるパソコン」(38.6%)、「たいていの友だちが持っているおもちゃ」(37.3%)、「携帯音楽プレーヤーなど」(26.9%)となった。

自分が使うことができるものがなく、「ほしい」割合は、「スマートフォン」(36.6%)が最も高く、次いで「携帯音楽プレーヤーなど」(31.3%)、「インターネットにつながるパソコン」(29.9%)と続いた。



問19 あなたは、この3年の間にあなたの住んでいる地域で次のような活動に参加したことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

地域活動への参加については、「近所のおまつり」が47.5%で最も高く、次いで「参加したことはない」(36.0%)が高くなっている。



問 20 あなたの学校生活についてお聞きます。

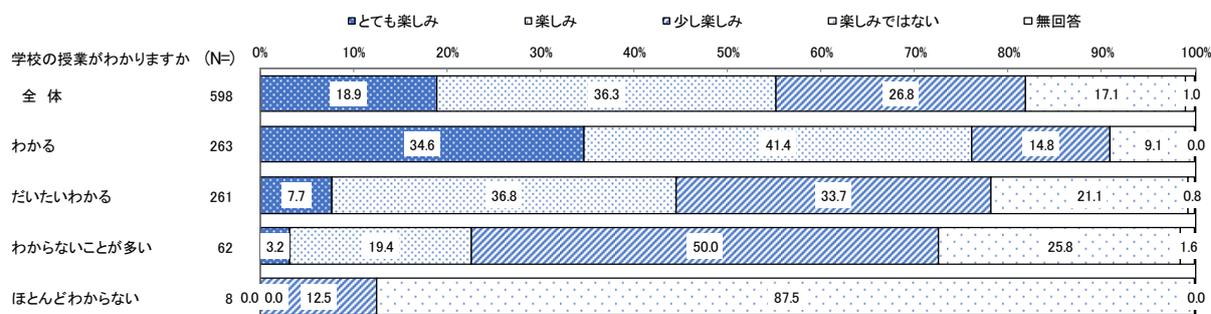
次の①～⑦について、あてはまる番号に○をつけてください(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

【問 21(学校の授業がわかるか)とのクロス集計結果】

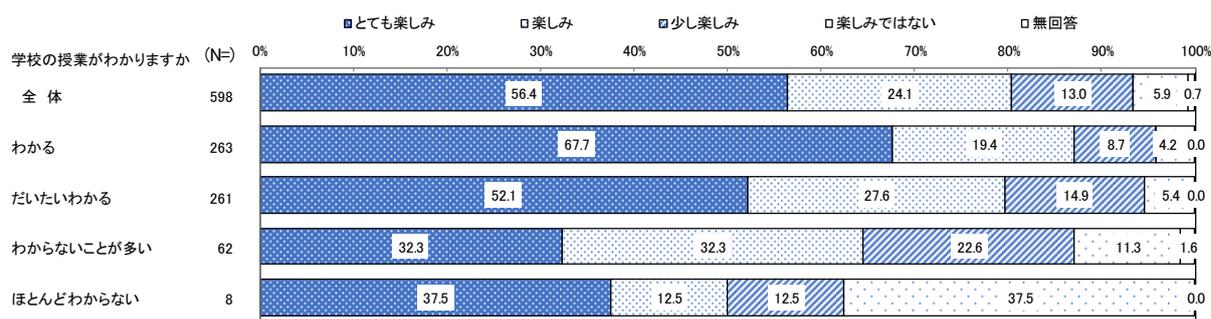
学校生活が『楽しみ(とても楽しみ + 楽しみ + 少し楽しみ)』である割合は、各項目でおおよそ学校の授業が「わかる」層が最も高く、「わからないことが多い」層にかけて減少する傾向が見られた。

また、学校生活が『楽しみ』である割合を全体の数値で比較すると、「④学校の友だちに会うこと」(95.3%)、「⑥学校の休み時間」(94.3%)「①以外の授業(体育・(技術)家庭科・音楽・図工(美術)など)」(93.5%)、「⑦学校の給食(またはお弁当など)」(91.1%)の4項目で高く、9割を上回った。

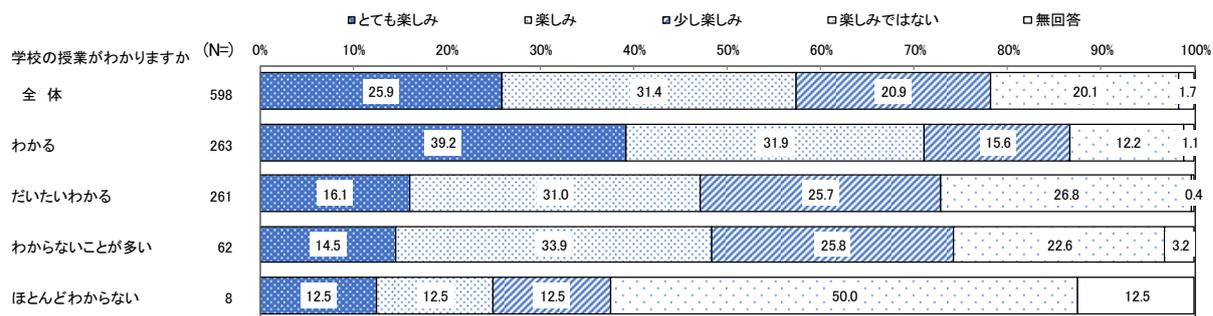
①国語・算数(数学)・理科・社会・英語の授業



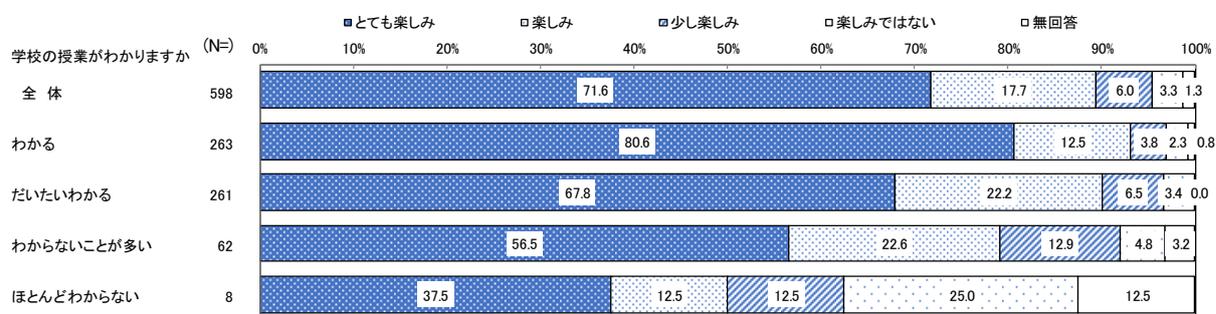
②①以外の授業(体育・(技術)家庭科・音楽・図工(美術)など)



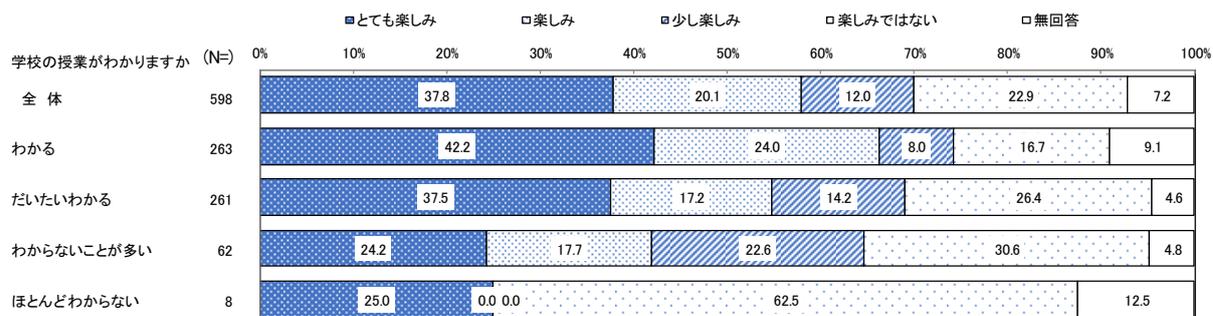
### ③学校の先生に会うこと



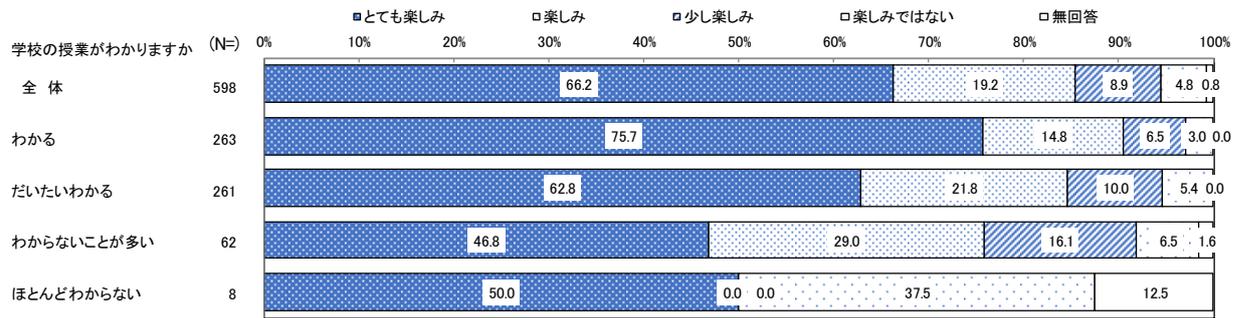
### ④学校の友だちに会うこと



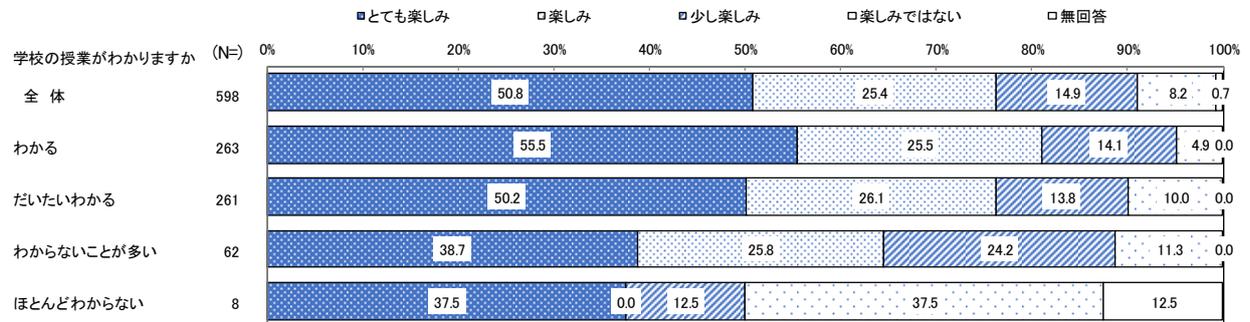
### ⑤学校の部活動



## ⑥学校の休み時間

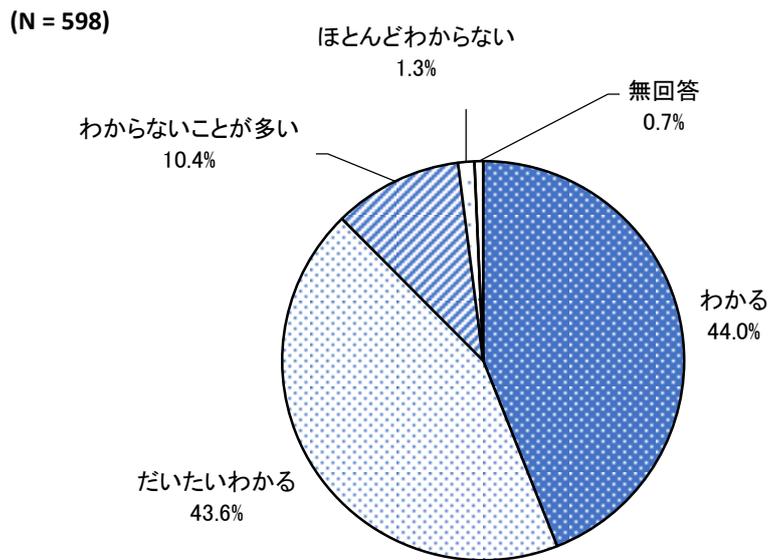


## ⑦学校の給食(またはお弁当など)



問 21 あなたは、学校の授業がわかりますか。(あてはまる番号1つに○)

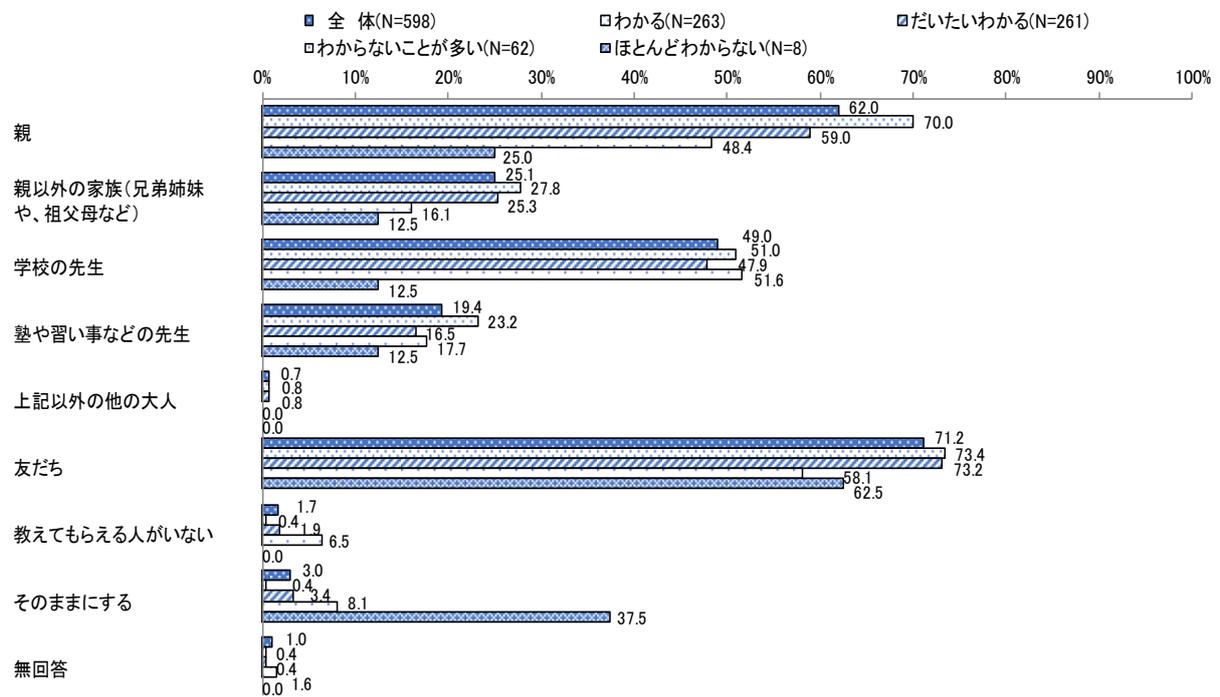
学校の授業の理解度については、『わかる(わかる + だいたいわかる)』が 87.6%と大半を占め、『わからない(わからないことが多い + ほとんどわからない)』(11.7%)を大幅に上回った。



問 22 勉強がわからない時は、だれに教えてもらいますか。(あてはまる番号すべてに○)

【問 21(学校の授業がわかるか)とのクロス集計】

勉強がわからない時に教えてもらう人は、学校の授業が「わかる」層では、「親」(70.0%)、「だいたいわかる」層は「友だち」(73.2%)が最も高かった。なお、「親」の割合は、学校の授業が「わかる」層から「わからないことが多い」層にかけて減少する傾向が見られた。

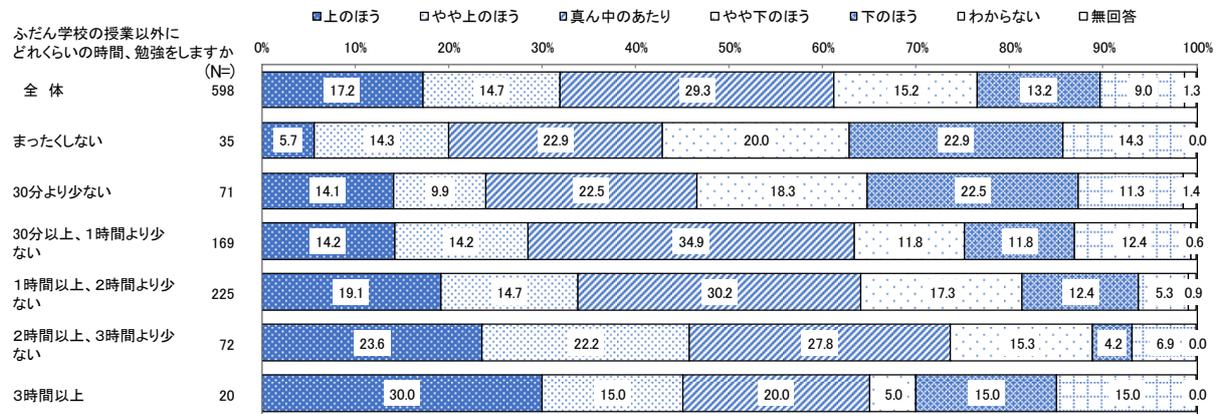


問 23 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

【問 24(普段学校の授業以外にどれくらいの時間勉強をするか)とのクロス集計結果】

学校の成績が「上のほう」の割合は、普段の学校の授業以外の勉強時間について「まったくしない」層から「3時間以上」の層にかけて、増加する傾向が見られた。

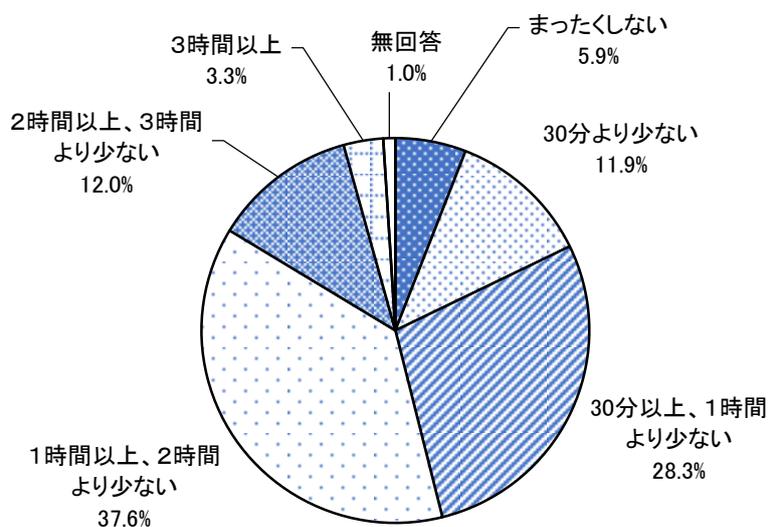
学校の成績が『上位(上のほう + やや上のほう)』の割合は、普段の学校の授業以外の勉強時間について「2時間以上 3時間より少ない」層が 45.8%で最も高く、一方『下位(やや下のほう + 下のほう)』の割合は、「まったくしない」層が 42.9%で最も高かった。



問 24 あなたは、ふだん(月～金曜日)学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。(あてはまる番号1つに○) ※塾などでの時間もふくみます。

平日の学校の授業以外の勉強時間については、『1時間以上(1時間以上、2時間より少ない + 2時間以上、3時間より少ない + 3時間以上)』が52.9%で、『1時間未満(まったくしない + 30分より少ない + 30分以上、1時間より少ない)』(46.1%)を上回った。

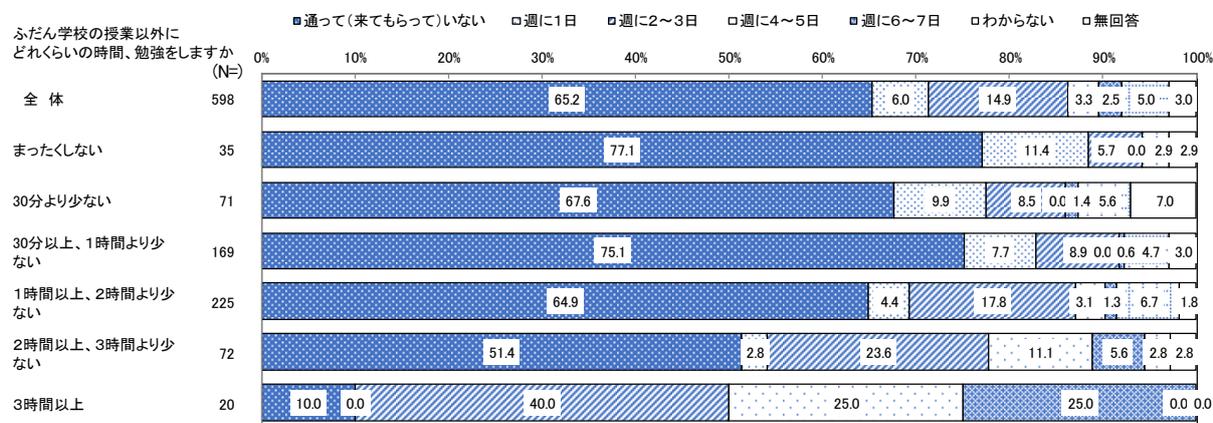
(N = 598)



問 25 あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらっていますか。通っている(来てもらっている)場合、1週間に何日通って(来てもらって)いますか。(あてはまる番号1つに○)

【問 24(普段学校の授業以外にどれくらいの時間勉強をするか)とのクロス集計結果】

学習塾や家庭教師の受講状況で、「通って(来てもらって)いない」の割合は、普段の学校の授業以外の勉強時間について「まったくしない」層(77.1%)で最も高く、「3時間以上」の層(10.0%)との差は、60ポイント以上と非常に大きな差が見られた。

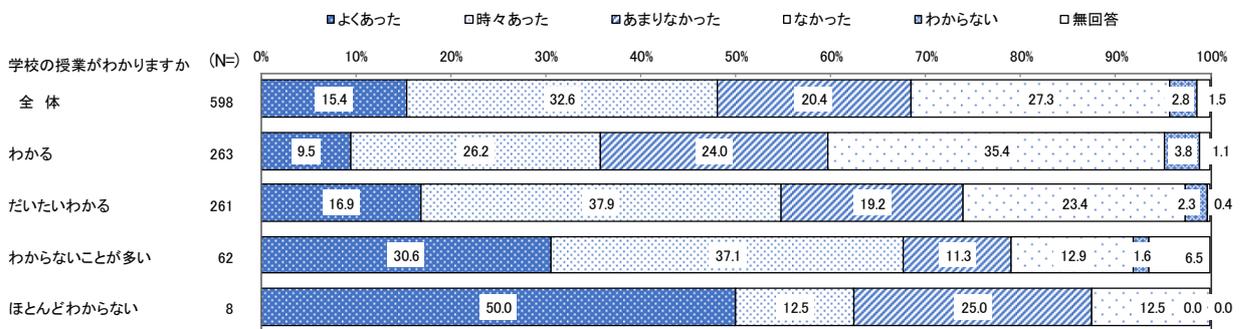


問 26 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

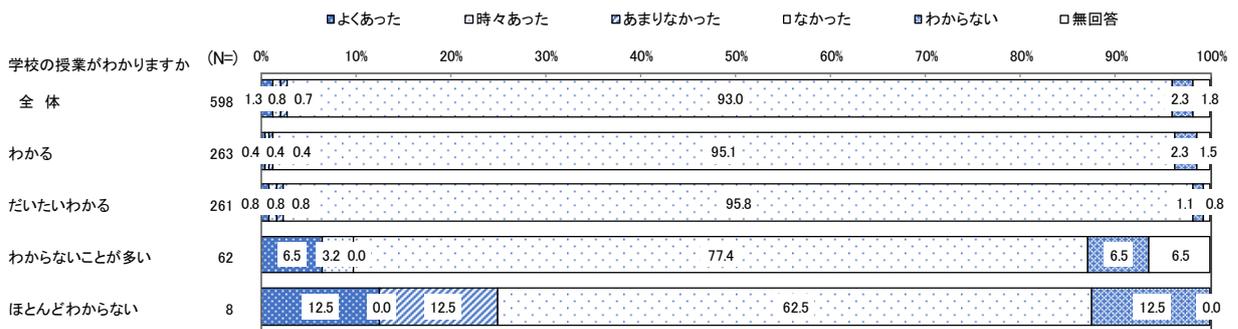
【問 21(学校の授業がわかるか)とのクロス集計】

各項目における『あった(よくあった + 時々あった)』割合は、「①学校に行きたくないと思った」と「③いじめられた」において、学校の授業が「わかる」層から「わからないことが多い」層にかけて増加する傾向が見られた。また、「②1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)」における『あった』割合は、学校の授業が「わからないことが多い」層で9.7%と、「わかる」層、「だいたいわかる」層よりも高かった。

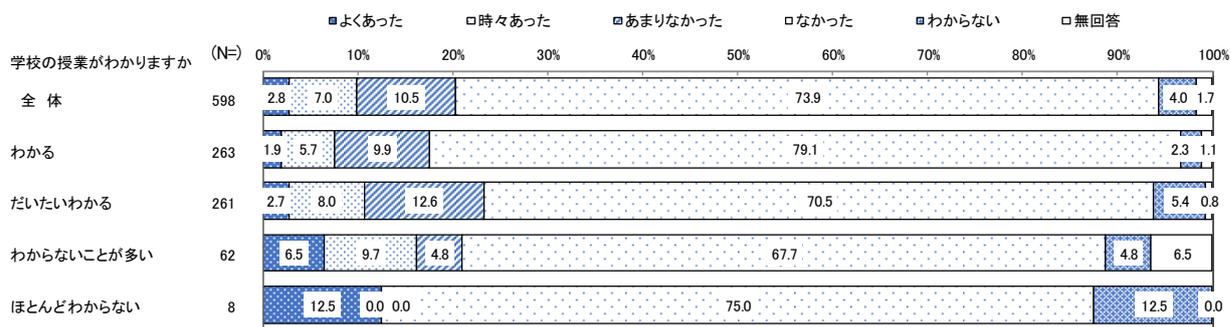
①学校に行きたくないと思った



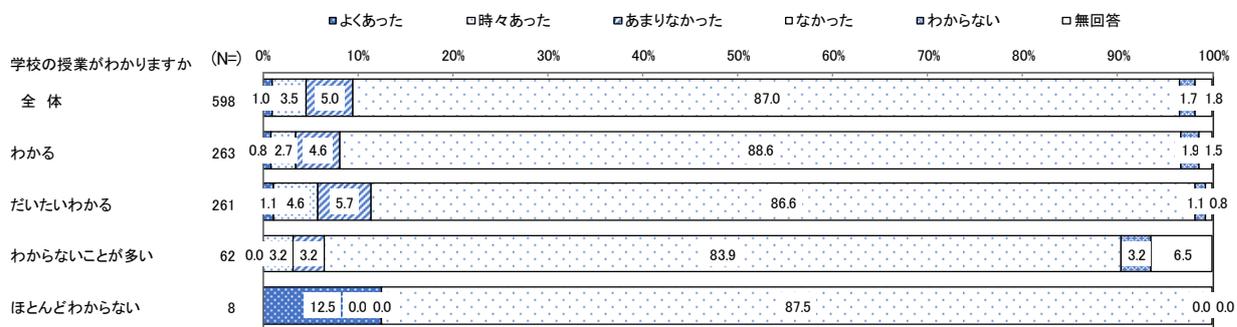
②1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)



### ③いじめられた

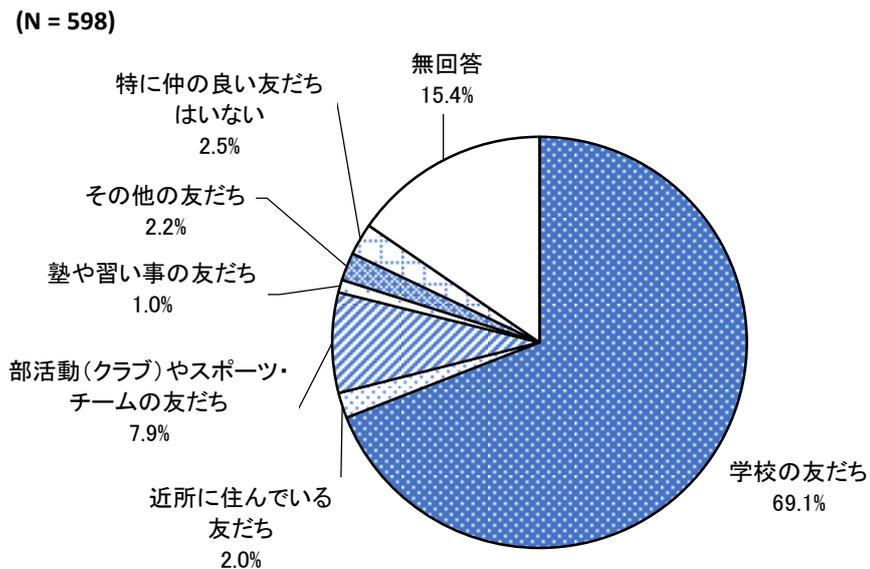


### ④夜遅くまで子どもだけで過ごした



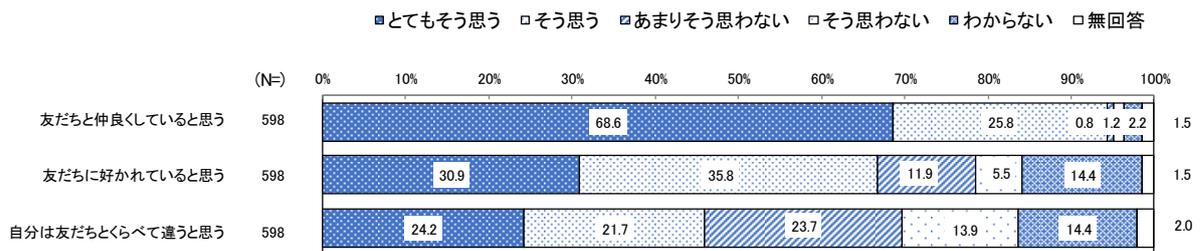
問 27 あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。(あてはまる番号1つに○)

一番仲が良い友だちについては、「学校の友だち」が69.1%で最も高く、大半を占めた。なお、「特に仲の良い友だちはいない」は、2.5%だった。



問 28 あなたと友だちの関係について、どのように思いますか。もっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

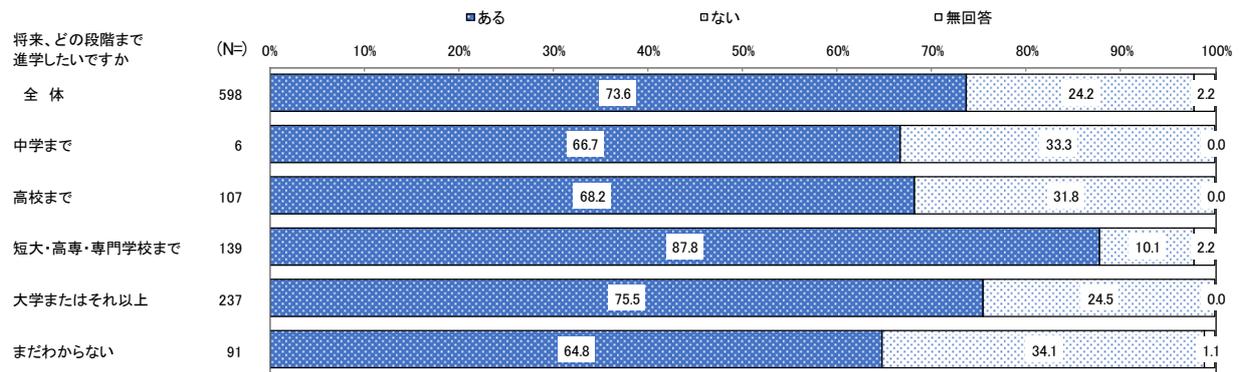
友だちとの関係について、『そう思う(とてもそう思う + そう思う)』の割合は、「友だちと仲良くしていると思う」(94.4%)では9割を上回っているが、「友だちに好かれていると思う」(66.7%)では6割台、「自分は友だちとくらべて違うと思う」(45.9%)では4割台となっている。



問 29 あなたは、将来の夢やつきたい職業がありますか。(あてはまる番号1つに○)

【問 30(将来どの段階まで進学したいか)とのクロス集計結果】

将来の夢や就きたい職業が「ある」割合は、将来の進学において、「短大・高専・専門学校まで」の層が 87.8%で最も高く、次いで「大学またはそれ以上」の層が 75.5%で続き、これら 2 項目で 7 割を上回った。

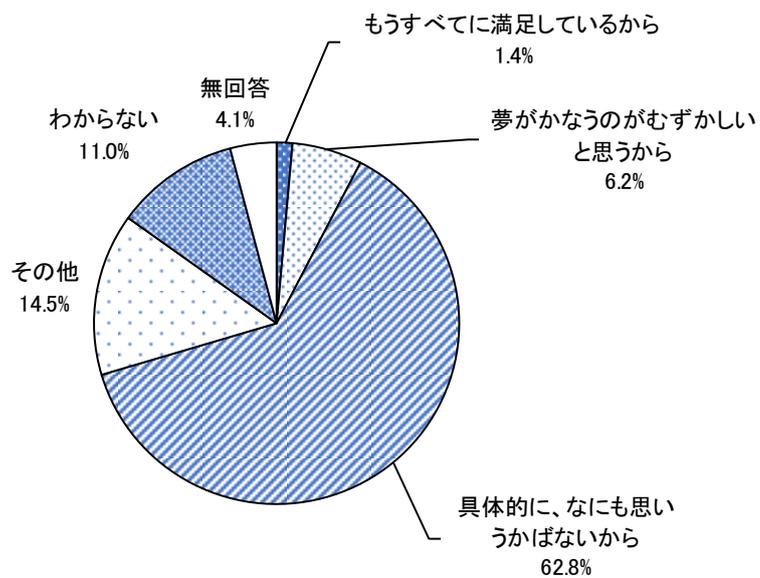


問 29 で将来の夢やつきたい職業が「ない」と答えた人におきします。

問 29-1 夢がない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○)

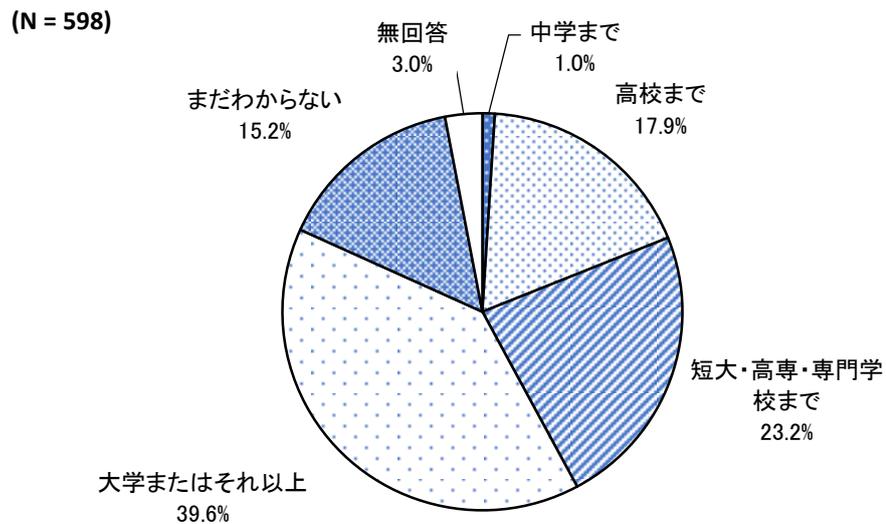
夢がない理由については、「具体的に何も思いうかばないから」が 62.8%で大半を占めた。

(N = 145)



問 30 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

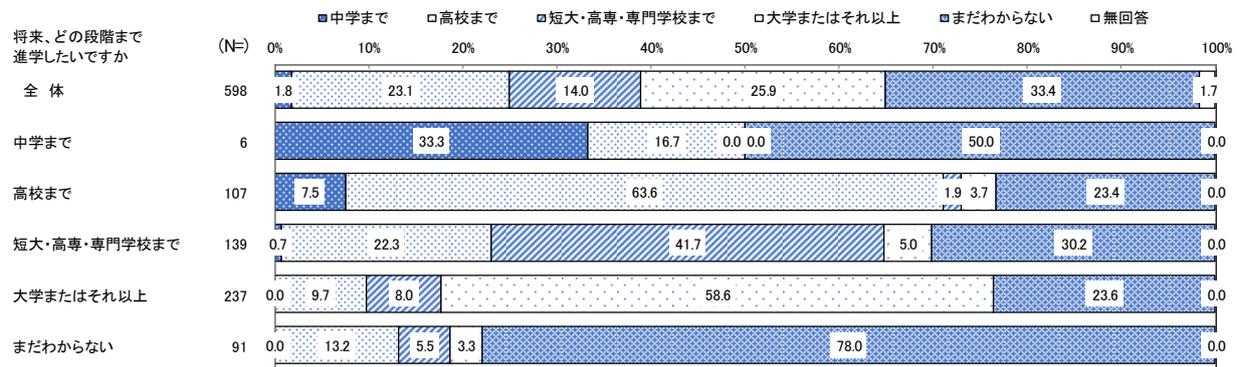
将来の進学希望については、「大学またはそれ以上」が39.6%で最も高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」(23.2%)、「高校まで」(17.9%)と続いた。



問 31 あなたは、将来、どの段階まで進学できると思いますか。あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

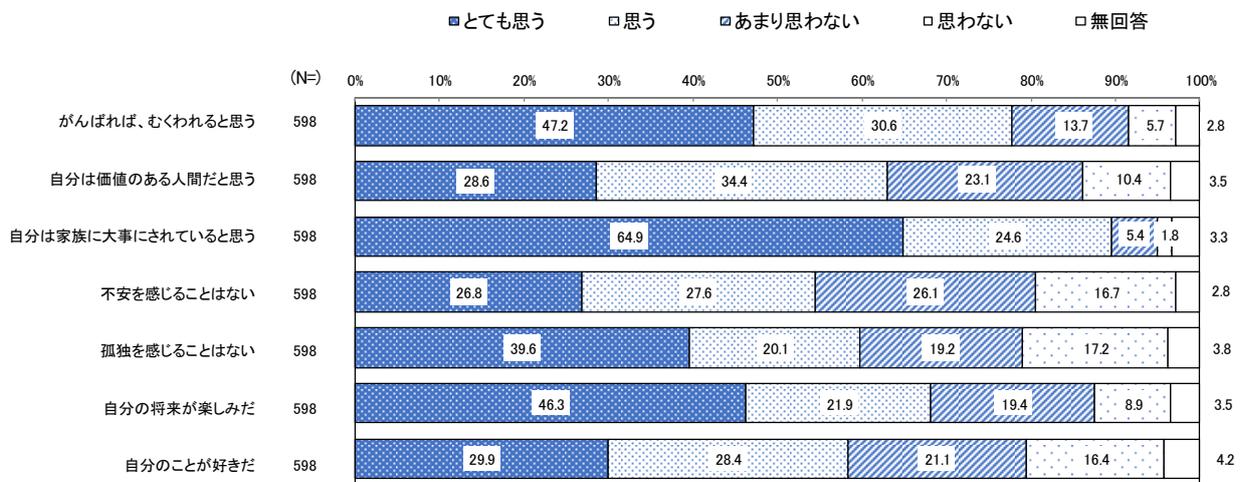
【問 30(将来どの段階まで進学したいか)とのクロス集計結果】

将来どの段階まで進学できるかにおいて、『高校まで(中学まで + 高校まで)』の割合は、将来の進学希望が「短大・高専・専門学校まで」の層で2割以上、「大学またはそれ以上」の層で約1割となっている。



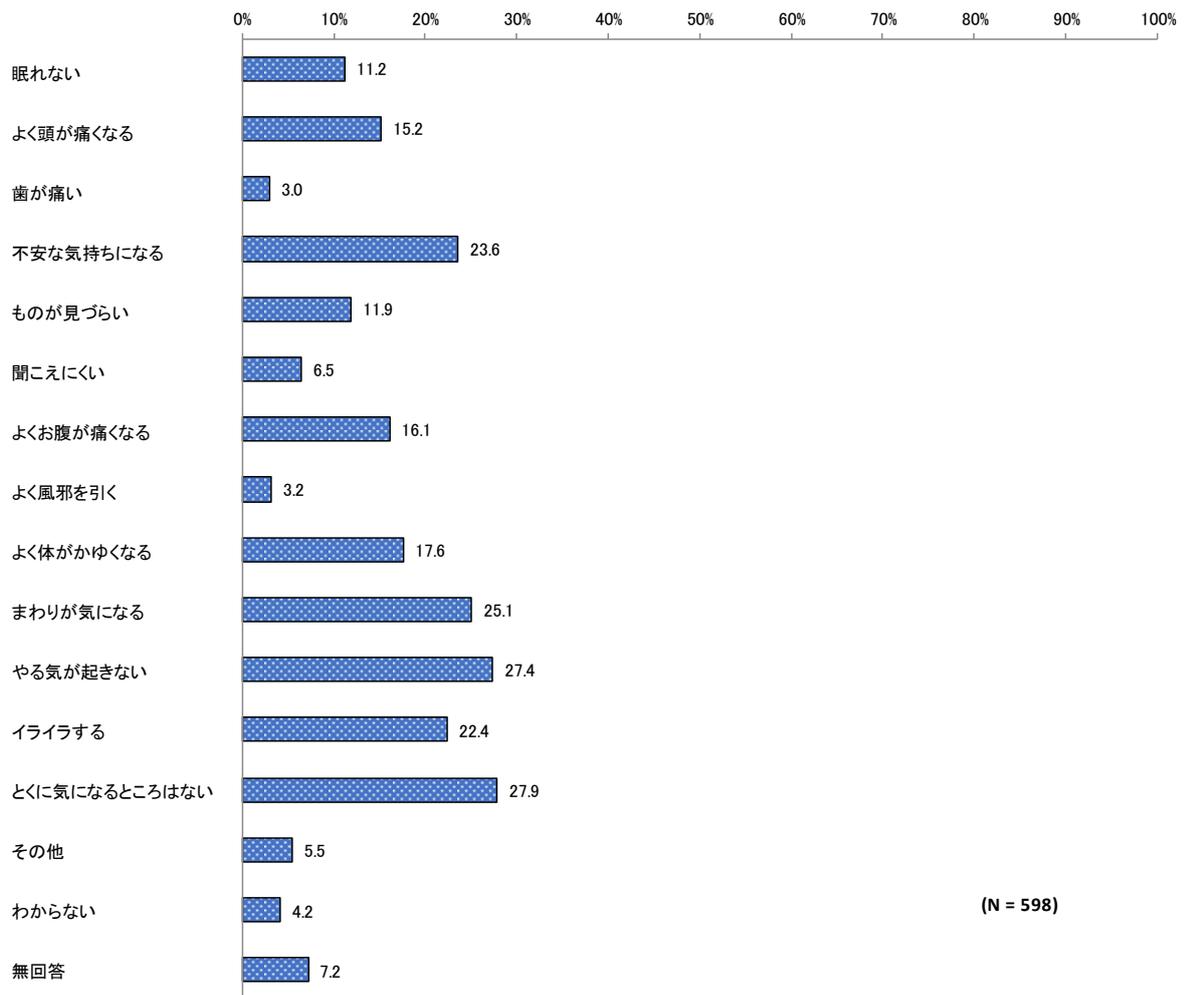
問 32 あなたの思いや気持ちについて、「とても思う」から「思わない」のもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

自分自身の思いや気持ちについて、『思う(とても思う + 思う)』割合は、「自分は家族に大事にされていると思う」(89.5%)が最も高く、約9割となった。一方、『思う』割合は、「不安を感じることはない」(54.4%)が最も低く、「自分のことが好きだ」(58.3%)、「孤独を感じることはない」(59.7%)を含めた3項目では5割台となった。



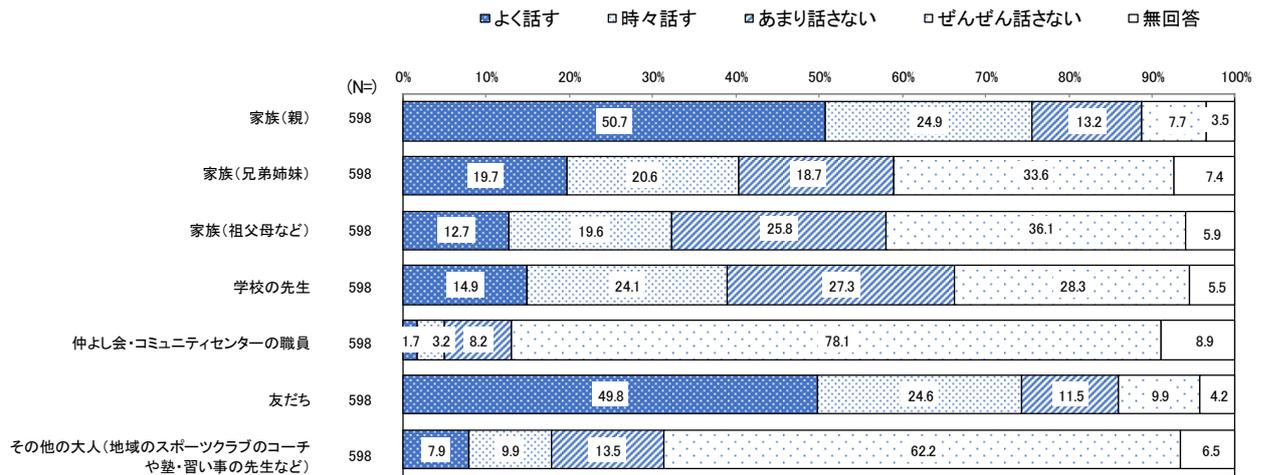
問 33 あなたは、現在、自分の体や気持ちで気になることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

自分の体や気持ちで気になることは、「とくに気になるところはない」(27.9%)で最も高く、「やる気が起きない」(27.4%)、「まわりが気になる」(25.1%)、「不安な気持ちになる」(23.6%)、「イライラする」(22.4%)で2割を上回った。



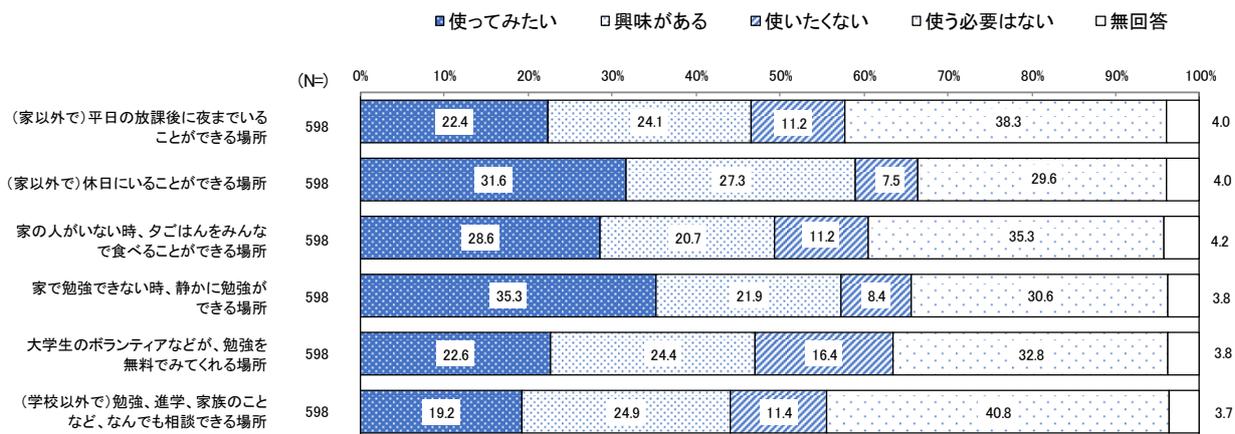
問 34 あなたはふだん、困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、他の人にどれくらい話しますか。「よく話す」から「ぜんぜん話さない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。電話、メール、LINEもふくめて考えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

普段困っていることなどを『話す(よく話す + 時々話す)』割合は、「家族(親)」が75.6%で最も高く、次いで「友だち」(74.4%)が続き、ともに7割を上回った。



問 35 あなたは、次のような場所があれば使ってみたいと思いますか。  
 (それぞれ、あてはまる番号1つに○)

「使ってみたい」割合が最も高かったのは、「家で勉強できない時、静かに勉強ができる場所」が 35.3%で最も高く、次いで「(家以外で)休日にいることができる場所」(31.6%)と続き、ともに3割を上回った。これら2項目は、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせると5割を上回っており、ほかの場所よりも関心が高いことがうかがえる。



問 36 このアンケートの感想や日々の生活で感じていること、困っていることなどを自由に書いてください。(学校のこと、勉強のこと、友だちのこと、遊びのこと、おこづかいのこと、家族のこと、病気のことなど)

### ①アンケートに対する感想

色々な事が、相談できて良かった。
改めて自分を見直す機会ができてよかった。
夢や希望についていろいろ聞いてくれたのでうれしかった。
長いアンケートが初めてだったので、いい経験になったと思う。
このアンケートは自分が思ってることを自由にかけていいと思った。
アンケートの選択肢が極たんなので、選びづらいものがあった。
いつも誰にも言えないことを素直に答えることができ気持ちがスッキリした。
自分のことをたくさん書いて良かったと思った。友達や家族のことを正直に書いて良かったと思った。
このアンケートをうけて、親にそんな話しかけてないことが分かったので、これからは、毎日ではないけど、話して、家族の仲を深めあっていきたい。

### ②学校生活に関すること

学校はたのしい。
授業に全然ついていけていない。
学校は、ストレスたまるからやだ。
今年、修学旅行に行けなかった。
毎日、学校生活が充実している。
英語の授業があまり分からない。
先生が、生徒によって態度がちがうのがいやだ。
先生や友達とどう付き合っていけばよいか分からない。
小学校より大変なことが多いけど中学校の方が楽しい。
部活の顧問の先生が自己中で、一方的な考えばかり。
仲良くしようと思っている友だちがいるけれどもなかなか仲良くできない。
勉強では、分かんないところは、先生に教えてもらったりしているから、分かりやすい。
休み時間におにごっこや、ボール遊びを友だちとすることが楽しいです。理科で実験をすることが楽しい。
もう大学のことについて考えないといけないのは少し嫌だなーって思います。気楽に話せる先生がいたら嬉しい。
学校の授業にPC専門の授業をもうけてほしい。十和田市全体に早く光回線を通してほしい。ネットを使って、勉強がしたい。

### ③家庭生活に関すること

家族や友達と過ごせて毎日楽しい。
朝ごはんも家族みんなで食べたい。
毎日楽しく充実して過ごせている。
友だちとの遊びでいっぱい楽しんでいる。
お手伝いをしているのにおこづかいをくれないからお手伝いをしたくない。
お母さんが弟には甘くするけど、私には「あつそ」などといった傷つく言動があって、関わりづらくて困る。

日々の生活で家族や友達など親しくできる人が周りいるので困っていることを聞いてくれているので困っていることはあまりない。
親に部活でつらい事を話してもすぐ流される。まともに聞いてくれない。家では父親の顔をうかがいながらすごしているからあまり家にはいたくない。
家族などに、不安なことなどと、想談をあまりしていないので、これからは、不安なことや、体のこと、学校のことなどを、すすんで話そうと思う。

#### ④自分自身に関すること

友達がいらない。
人の目が気になる。
自分に自信がない。
おこづかいがほしい。
よく、友だち関係や家のことでなやむことがある。
勉強は、できている方。もったいないミスが多い。
時々情緒不安定になったり孤独を感じて、泣きだしたり、泣きやすくなったりする状態がある。
勉強は、自分は、あまりできないと思うし、自分でも大学までいける自信がないのでこれから自信をつけていきたい。
自分は小さいころからぜんそくを持っているため、みんなができていいる時に 1 人だけできていなくて少し苦しかったことがある。
将来は、大工になりたいと思っている。カッコいい家をたてて、みんなに笑顔になってもらいたい。でも、大工になるのは難しいと聞いたが、なりたいので、今、学校の勉強を頑張っている。
「将来の夢」が全然思いうかばない。お給料が高ければ何でもいいや！と思ってしまいがち。悪い考えになってしまうのが自分でもいやと感じてしまう。

#### ⑤その他

Wi-fi の施設を増やしてほしい。
雨の日でも毎日遊べる施設がほしい。
十和田市のバスの範囲を広くしてほしい。
みんなが楽しく遊べる公園を作してほしい。
授業中選挙カーからの声がうるさくて、時間帯を考えてほしい。
学校の帰りに暗くて街灯がなくてこわいから街灯を増やしてほしい。
バスケットゴールのある公園がないので、十和田市につくって欲しい。
大学までお金を無償にしてほしい。お金の事で、大学、高校などをえらぶというような、考え方をなくしてほしい。
部活で使うスポーツ用品などがほしいけど、近場にスポーツ用品店がないから、十和田に大型スポーツ用品店ができてほしいと思う。
学校キレイにしてほしい。いろいろ古すぎる、虫がわく、また、エアコンつけてほしい。
テスト期間に図書館に行くと、混んでいて入れないため、落ちついて集中して勉強できるような場所が欲しい。(友達と行けるショッピングセンター的な場所も…)